

平成27年度

熊本大学大学院医学教育部医科学専攻  
(修士課程) 履修案内

シラバス

熊本大学大学院医学教育部

医学教育部 HP 内「学生・教職員へのお知らせ」ページ URL :  
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/keijiban/newpage1.htm>

問い合わせ先：熊本大学生命科学系事務ユニット

医学事務チーム教務担当

〒860-8556 熊本市中央区本荘 1丁目1番1号

TEL: 096-373-5025 FAX: 096-373-5030

E-mail: [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)

<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/>

## 熊本大学大学院医学教育部の目的と理念

熊本大学大学院医学教育部は、医学または生命科学の幅広い知識および深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者もしくは教育者または高い研究志向および問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的としています。

## 熊本大学大学院医学教育部博士課程のカリキュラムポリシー

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図ります。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

## 新しいカリキュラムの特色

日本のこれまでの医学系大学院教育は、研究を通して教育者・研究者を育成することを目的としてきました。しかし近年、急性疾患中心から生活習慣病中心へと移行した日本の疾病構造と、ライフサイエンスから疾患研究へと移行しつつあるポストゲノム時代の医学に対応する新たな大学院教育が求められるようになりました。

熊本大学大学院医学教育部は、このような時代の要請にこたえるために、「研究マインドを持つ医療人の育成」を教育の大きな柱として位置づけ、学際領域を含めた幅広い医学知識と先端臨床技術の修得、そして研究マインドの涵養を可能とする教育プログラムを用意しました。一方で、研究者・教育者育成に関する教育課程についても大幅なカリキュラム改訂を行ない、マンツーマン教育による高い研究能力の涵養を維持しつつ、広い医学知識を獲得できる教育プログラムとしました。

また、平成20年度より、これまで基礎系、臨床系、社会医学系が分断されていた4専攻体制を単一専攻体制（医学専攻）に統一し、複数の指導分野が共同した研究指導が可能な教育システムに改組しました。今回の教育体制と教育プログラムについての改革は、昭和30年に熊本大学大学院医学研究科が発足して以来、最大のものとなりました。また、創出した教育プログラムは、全国的に見ても極めて独創性の高いものと自負しています。

熊本大学大学院医学教育部は、この新たな教育体制と教育プログラムにより、グローバルな任務である「国際水準の教育者・研究者の育成」とローカルな責務である「研究マインドを持った臨床医の育成」を両立させていきます。そして、全国の若き医学の徒の支持を得て、新しい時代の医学の最高学府にふさわしい大学院に向けて飛躍します。

## もくじ

1. 履修上の注意	1
2. 講義科目と単位数	2
3. 選択科目の履修届け	3
4. 授業時間割表	4
5. 修士論文の審査及び最終試験に関する評価基準	5
6. 科目別シラバス	
A. 必修科目	
A1. 生体構造学	9
A2. 生体機能学	11
A3. 社会医学総論	13
A4. 臨床医学総論	14
A5. 生命倫理学	15
B. 選択科目	
B1. 臨床病理学	19
B2. 感染免疫学	20
B3. 代謝情報学	21
B4. 脳神経科学	22
B5. 遺伝再生医学	23
B6. 医療情報学	25
B7. 実験動物学	26
B8. 基礎放射線学	28
B9. 解剖学実習	29
C. 選択科目	
C1. 大学院医学実験講座	30
C2. 医科学セミナー（医学・生命科学セミナーおよび名医に学ぶセミナー）	31
C2のレポート作成要領	33
D. 所属分野における「医科学演習」及び「医科学研究」科目	
A6. 医科学演習	37～110
A7. 医科学研究	37～110
7. 学内の地図と講義室の位置	最終ページ

## 1. 履修上の注意

- 1) 履修概要：講義科目には、p2に示すように必修科目と選択科目があります。2年間の在学中に所定の30単位を修得しないと、たとえ研究成果がまとまり修士論文が出来上がっていても修了できないので、気をつけてください。なお、特に選択科目の選択にあたっては、指導教員（医科学演習・医科学研究担当教員）ともよく相談のうえ決め、添付の履修届（p3）を4月13日（月）までに、医学事務チーム教務担当に提出してください。なお、選択科目の変更は、4月17日（金）までとし、以後は認めません。
- 2) 履修登録：在学中の成績についてはSOSEKI（熊本大学学務情報システム）のWebブラウザで管理することとなります。そのため医学事務チーム教務担当に提出した履修届による選択科目と必修科目（A1～A7）については、4月13日（月）までに必ずSOSEKIのブラウザから登録してください。
- 3) A6 医科学演習・A7 医科学研究：p2に示す必修科目のA6 医科学演習とA7 医科学研究は、所属する研究室で行われる講義、文献抄読会、実験指導、研究指導およびミーティングなどを通じて行われる教育であり、その成果を修士論文としてまとめたものが審査により評価されます。  
医科学演習・医科学研究の履修届は、大学院教員の研究指導により、4月13日（月）までに他の科目と共に医学事務チーム教務担当に提出してください。ただし、変更は5月7日（木）まで認めますが、それ以降は認めませんので、注意してください。
- 4) 講義時間：講義はp4に示すように1回90分とし、すべての科目について4月6日（月）～6月16日（火）までの間に、講義が実施されます。講義は、1限目：8:45～10:15、2限目：10:30～12:00、3限目：13:15～14:45、4限目：15:00～16:30で行われ、出席を取ります。なお、状況により講義が英語で実施されることがあります。
- 5) 講義室：多数の教員が分担して講義を行う場合（オムニバス形式）には、原則として医学教育図書棟3階 第2講義室で行います。ただし、科目によっては、教員の研究室などで行われる事がありますので、教員からの指示に従ってください。講義室の場所については、最終ページの学内地図を事前によく参照すると共に、指導研究室の教員に問い合わせてください。
- 6) B9 解剖学実習：選択科目のB9 解剖学実習は、受講者数に上限があるため、希望しても必ずしも履修できるとは限りません。つきましては、最低限履修が必要な30単位以外の履修科目として履修登録してください。履修にあたっては、いくつかの注意事項がありますので、p29を参照してください。
- 7) C1 大学院医学実験講座：単位修得には1年間で8回以上の講義を聴講してください。出席を必ず取りま  
す。
- 8) C2 医科学セミナー（医学・生命科学セミナーおよび名医に学ぶセミナー）：単位修得には2年間で2つのセミナーをあわせて8回以上聴講し、かつ、聴講したセミナー1つに関して、セミナー内容に関する1200～2000字程度のレポートを当該セミナーの世話分野の教授（代表者）に1ヶ月以内にEメールで提出してください。出席を必ず取りま  
す。また、レポートの提出に関して、どの教授（代表者）にいつ提出したか分かるように、医学事務チーム教務担当にもEメール（[iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)）であわせて連絡してください。医学・生命科学セミナーおよび名医に学ぶセミナーは、原則として各月の水曜日午後5時30分から、医学教育図書棟3階第2講義室で行われますが、しばしば講義日時と場所は講師などの都合により変更されますので、事前に各研究室に配布されるセミナー案内および医学教育部HPにより十分に確かめたうえで受講してください。セミナーの日程、レポート作成要領については、p31～p33を参照してください。

- 9) 履修の評価：レポートに関しては、各科目の科目主任から指示が出ます。他の教員からの指示が出て、科目主任からの指示と不一致が生じた場合は、科目主任からの指示を優先してください。レポートは、各研究室の事務職員等に渡すのではなく、必ず直接教員に提出するようにしてください。また、レポートの教員への提出には、担当教員の指示により E メールを利用することもできます。この場合は、送信記録を必ず残して置いてください。
- 10) 学生への連絡方法：学費免除、奨学金などの連絡には、原則掲示またはメールにより行います。掲示場所は、医学教育図書棟 3 階、基礎医学研究棟 1 階、医学部臨床研究棟 1 階の 3 ヶ所です。掲示場所については、最終ページの学内地図で確認してください。なお、緊急時（休講・授業の変更など）には、メールや医学教育部 HP で連絡します。  
※医学教育部 HP「学生・教職員へのお知らせ」ページ URL：  
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/kejiban/newpage1.htm>
- 11) メールアドレス：授業の変更・セミナーの連絡は、主にメールおよび医学教育部 HP 上で行います。通知先を希望するメールアドレスを 4 月 6 日（月）までに医学事務チーム教務担当へメール (iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp) で連絡してください。  
なお、メールを送信する際は、学生番号および氏名をあわせて連絡してください。  
メールアドレスが変更になった場合は、速やかに医学事務チーム教務担当へ連絡してください。

## 2. 講義科目と単位数

### 1) カリキュラムの概要

授業科目名	単位数	授業科目名	単位数
<b>A 必修科目</b>		<b>B 選択科目</b>	
A1 生体構造学 (p9)	2	B1 臨床病理学 (p19)	1
A2 生体機能学 (p11)	2	B2 感染免疫学 (p20)	1
A3 社会医学総論 (p13)	2	B3 代謝情報学 (p21)	1
A4 臨床医学総論 (p14)	2	B4 脳神経科学 (p22)	1
A5 生命倫理学 (p15)	1	B5 遺伝再生医学 (p23)	1
A6 医科学演習 (p37~110)	8	B6 医療情報学 (p25)	1
A7 医科学研究 (p37~110)	8	B7 実験動物学 (p26)	1
		B8 基礎放射線学 (p28)	1
		B9 解剖学実習 (p29)	1
		C1 大学院医学実験講座 (p30)	1
		C2 医科学セミナー（医学・生命科学 セミナーおよび名医に学ぶセミナー）(p31)	1

2) 修了要件	必修科目	25 単位	
	選択科目	5 単位	以上
	合計	30 単位	以上

#### 備考：

- 1) 必修科目の A6 医科学演習と A7 医科学研究は、所属する研究室で行われる講義、文献抄読会、実験指導、研究指導及びミーティングなどを通じて行われる教育であり、その成果を修士論文としてまとめたものが、公開発表ならびに審査により評価されます。
- 2) 選択科目の B9 解剖学実習は、受講者数に上限があるため、希望しても必ずしも履修できるとは限りません。つきましては、最低限履修が必要な 30 単位以外の履修科目として履修登録してください。履修にあたっては、いくつかの注意事項がありますので、p29 を参照してください。
- 3) 大学院教養教育プログラムの授業科目を履修することができます。修得した科目は 2 単位を上限として修了要件単位（選択科目）に含めることができます。  
受講については、全学 LMS (e-Learning System) Moodle にある「大学院教養教育プログラム」のシラバスを参照してください。  
※次ページ「3. 履修届」を記入し、SOSEKI（熊本大学学務情報システム）に必修科目と併せて入力してください。

### 3. 履 修 届

(4月13日(月)までに医学事務チーム教務担当へ提出のこと)

下記の選択科目の中から履修を希望する科目を、指定された数以上選び出して丸で囲んでください。

各教科の履修内容についてはシラバスを参照ください。なお選択科目の変更は、4月17日(金)までとし、以後は認めません。専攻分野名とは、医科学演習・医科学実習に関する教育を受ける分野のことで、変更は5月7日(木)まで認めますが、それ以降は認めません。必ず指導教員に十分に相談をしたうえで、決定してください。

医学教育部長 殿

指導教員 \_\_\_\_\_ 印

氏名 [ \_\_\_\_\_ ] 学生番号 [ \_\_\_\_\_ ]

E-mail アドレス [ \_\_\_\_\_ ]

※E-mail アドレスは頻繁に確認するものにしてください。また、携帯電話のアドレスは極力避けてください。

専攻分野名(所属研究室) [ \_\_\_\_\_ ]

下記の11科目から5科目以上を選択する。

A1 生体構造学

B1 臨床病理学

A2 生体機能学

B2 感染免疫学

A3 社会医学総論

B3 代謝情報学

A4 臨床医学総論

B4 脳神経科学

A5 生命倫理学

B5 遺伝再生医学

A6 医科学演習

B6 医療情報学

A7 医科学研究

B7 実験動物学

B8 基礎放射線学

B9 解剖学実習\*

C1 大学院医学実験講座

C2 医科学セミナー

(医学・生命科学セミナーおよび名医に学ぶセミナー)

\* 1 ページ「1.履修上の注意」6) B9 解剖学実習を参照のうえ、選択すること。

# 平成27年度 修士課程 授業時間割表

曜	週											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		4/6 S 4/10	4/13 S 4/17	4/20 S 4/24	4/27 S 5/1	5/4 S 5/8	5/11 S 5/15	5/18 S 5/22	5/25 S 5/29	6/1 S 6/5	6/8 S 6/12	6/15 S 6/19
月	1	C1 大学院医学実験講座	C1 大学院医学実験講座	A1生体構造学	※ 祝 祭 日	A3社会医学総論	B5遺伝再生医学	B8基礎放射線学	B7実験動物学			
	2			A2生体機能学		A3社会医学総論	B2感染免疫学					
	3			A1生体構造学		A4臨床医学総論	B3代謝情報学	B6医療情報学				
	4			A2生体機能学		A4臨床医学総論	B4脳神経科学	B1臨床病理学				
火	1		C1 大学院医学実験講座	C1 大学院医学実験講座	A1生体構造学	※ 祝 祭 日	A3社会医学総論	B5遺伝再生医学	B8基礎放射線学	B7実験動物学		
	2				A2生体機能学		A3社会医学総論	B2感染免疫学				
	3				A1生体構造学		A4臨床医学総論	B3代謝情報学	B6医療情報学			
	4				A2生体機能学		A4臨床医学総論	B4脳神経科学	B1臨床病理学			
水	1	C1 大学院医学実験講座		C1 大学院医学実験講座		※ 祝 祭 日	※ 祝 祭 日					
	2				A2生体機能学			A3社会医学総論	B2感染免疫学			
	3				B8基礎放射線学			B8基礎放射線学				
	4				B8基礎放射線学			B8基礎放射線学				
木	1		健康診断	C1大学院医学実験講座	A1生体構造学	A3社会医学総論	B5遺伝再生医学	B8基礎放射線学				
	2				A5生命倫理学	A5生命倫理学						
	3				A1生体構造学	A4臨床医学総論	B3代謝情報学	B6医療情報学				
	4				A2生体機能学	A4臨床医学総論	B4脳神経科学	B1臨床病理学				
金	1	C1 大学院医学実験講座		C1 大学院医学実験講座	A1生体構造学	A3社会医学総論	B5遺伝再生医学	B8基礎放射線学				
	2				A2生体機能学	A3社会医学総論	B2感染免疫学					
	3				A1生体構造学	A4臨床医学総論	B3代謝情報学	B6医療情報学				
	4				A2生体機能学	A4臨床医学総論	B4脳神経科学	B1臨床病理学				

※B8基礎放射線学については、第3週は講義とし第6週はRI実習とします。本授業の受講をもって、RI実験の遂行に必要な講習を受講したものと見なします。

※B9解剖学実習の日程については、後日連絡します。

※各授業は原則医学教育図書棟3階第2講義室で行います。

第1時限	8:45~10:15	A1~A5: 必修科目
第2時限	10:30~12:00	B1~B9: 選択科目
第3時限	13:15~14:45	
第4時限	15:00~16:30	

上記の他セミナーを不定期に17:30より行います。

## 5. 修士論文の審査および最終試験に関する評価基準

所定の単位を修得し修士論文を提出した者について、修士論文の審査及び最終試験を行う。

### 修士論文の審査基準

- 1) 研究の背景と目的、実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む論考等について十分な論述がなされていること。
- 2) 修士論文の作成要領にしたがって作成されていること。  
詳細は医学教育部ホームページ（下記アドレス）を参照のこと。  
医学教育部HP下部の「学生・教職員へのお知らせ」→「学位申請、在学期間短縮について」のページ↓  
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/keijiban/gakuitansyuku.html>

### 提出期間

12月初旬～12月中旬頃

### 審査会（口述試問）

- 1) 時期 1月下旬～2月初旬頃
- 2) 内容 発表20分、討論10分

### 修士論文の作成について

- 1) 使用する言語は、和文または英文
- 2) 論文題目名は、和文の場合は英訳を併記し、英文の場合は和訳を併記
- 3) 目次は次の順に記載し、図表は文章中の適当な場所に挿入
  - ① 要旨（1ページ以内）
  - ② 略語一覧
  - ③ 研究の背景と目的
  - ④ 実験（研究）方法
  - ⑤ 実験（研究）結果
  - ⑥ 考察（文献的考察を含む）
  - ⑦ 結語
  - ⑧ 謝辞
  - ⑨ 参考文献
  - ⑩ 修士論文に関する発表論文および学会発表リスト

### 最終試験の評価基準

最終試験は口述試問（公開発表）により行い、以下の基準により評価する。

- 1) 研究の内容について十分に理解し説明できること。
- 2) 研究の内容に関して提起される論点について論理的に考察できること。
- 3) 当該研究分野に関する専門的な知識を有すること。
- 4) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。



必修科目（9 単位）

A 1 ~ A 5

授業科目： A1 生体構造学（必修2単位）	時間割コード10010
科目主任教員：福田孝一（形態構築学 TEL：373-5038）tfukuda@kumamoto-u.ac.jp 分担教員：若山友彦（生体微細構築学） 今村隆寿（分子病理学 TEL：373-5306）taka@kumamoto-u.ac.jp 藤原章雄（細胞病理学 TEL：373-5095）fuji-y@kumamoto-u.ac.jp 伊藤隆明（機能病理学 TEL：373-5086）takaito@kumamoto-u.ac.jp 大場 隆（産科婦人科学 TEL：373-5269）tkohba@kumamoto-u.ac.jp 江良沢実（幹細胞誘導学 TEL：373-6587）tera@kumamoto-u.ac.jp 嶋村健児（脳発生学 TEL：373-6583）simamura@kumamoto-u.ac.jp 小川峰太郎（組織幹細胞学 TEL：373-6591）ogawamin@kumamoto-u.ac.jp	
<p><b>【授業の目標】</b>            正常な人体の構造を解剖学、組織学、発生学の視点から理解した上で、病気の成り立ちを病理学を通じて学ぶ。</p> <p><b>【授業の内容】</b>            正常の人体の構造を肉眼レベルと顕微鏡レベルで系統的に説明する。            人体の構造を個体発生学の視点から説明する。            人体に生じた異常を系統的に分類し、病気の成り立ちを説明する。</p> <p><b>【キーワード】</b>            解剖学、組織学、発生学、病理学、個体発生、系統発生</p> <p><b>【授業の形態】</b> 質疑応答を含む講義形式で、Power point, OHP 等を活用する。</p> <p><b>【テキスト】</b> 特に指定はしない。講義のポイントをまとめたプリントを配布する。</p> <p><b>【参考書】</b> 「ギルバート発生生物学」メディカル・サイエンス・インターナショナル</p>	
<p><b>【オフィスアワー】</b>            講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。</p> <p><b>【評価の基準と方法】</b>            講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、  <b>【授業の目標】</b>に掲げた事項についての理解度を確認して評価する。</p> <p>16回の講義における小テスト、レポート或いは出席で評価し、上位11回分の点数の平均を成績とする。</p>	
<p><b>【事前学習】</b> 生物学、解剖生理学の参考書を事前に予習しておくこと</p>	
<p><b>【事後学習】</b> 総合的な理解をするように努める。</p>	

【講義の日時と内容】 別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時・曜日	講師	講義内容
1.	4月16日(木)1時限	福田孝一	解剖学1
2.	4月16日(木)3時限	若山友彦	組織学総論
3.	4月17日(金)1時限	福田孝一	解剖学2
4.	4月17日(金)3時限	若山友彦	組織学各論1
5.	4月20日(月)1時限	福田孝一	解剖学3
6.	4月20日(月)3時限	若山友彦	組織学各論2
7.	4月21日(火)1時限	福田孝一	解剖学4
8.	4月21日(火)3時限	若山友彦	組織学各論3
9.	4月23日(木)1時限	今村隆寿	炎症
10.	4月23日(木)3時限	今村隆寿	先天障害
11.	4月24日(金)1時限	新森加納子(伊藤隆明)	腫瘍
12.	4月24日(金)3時限	江良沢実	初期胚の軸形成と内胚葉の発生
13.	4月27日(月)1時限	小川峰太郎	中胚葉系列の特異化と細胞系譜
14.	4月27日(月)3時限	藤原章雄	物質代謝異常
15.	4月28日(火)1時限	大場 隆	生殖細胞の発生と成熟、卵胞発育と受精
16.	4月28日(火)3時限	嶋村健児	外胚葉の領域化と形態形成

授業科目： A2 生体機能学（必修2単位）

時間割コード10020

科目主任教員：富澤一仁（分子生理学 TEL：373-5050）  
分担教員：宋文杰（知覚生理学 TEL：373-5056）  
太田訓正（神経分化学 TEL：373-5293）  
小椋光（分子細胞制御学 TEL：373-6578）  
山縣和也（病態生化学 TEL：373-5068）  
野見山尚之（分子酵素化学 TEL：373-5065）  
前田和彦（免疫学 TEL：373-5135）  
千住覚（免疫識別学 TEL：373-5313）

tomikt@kumamoto-u.ac.jp  
song@kumamoto-u.ac.jp  
ohta9203@kumamoto-u.ac.jp  
ogura@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
k-yamaga@kumamoto-u.ac.jp  
nomiyama@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
kazmaeda@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
senjusat@gpo.kumamoto-u.ac.jp

#### 【授業の目標】

人体の生命維持にかかわる種々の反応について、生理学、生化学、細胞生物学ならびに免疫学の観点より、分子、細胞、組織、器官および個体のレベルで、以下の概要について理解し、説明できるようになることを目標とする。細胞生物学では、人体を構成する基本単位である細胞を理解する。生化学では、人体における基本的な代謝動態とその調節機構、病態との関連などについて理解する。生理学では、人体生理機能発現の機構を理解する。免疫学では、生体が非自己分子を自己分子から見分けて、非自己分子のみを排除する機構を理解する。

#### 【授業の内容】

細胞生物学では、細胞膜の構造と膜を横切る輸送と情報伝達、タンパク質の輸送・修飾・配置・分解とそれに関わる細胞内小器官、細胞の形と運動を制御する細胞骨格と分子モーターについて講義する。生化学では、人体における基本的な代謝経路について学ぶと共に、病態との関連について講義する。生理学では、感覚、運動、記憶などの神経機能と生体恒常性維持の細胞・分子機構について講義する。免疫学では、免疫系を構成する分子、細胞、組織および器官について解説し、免疫系が多様な感染性微生物を識別して、これを排除する分子機構について講義する。

#### 【キーワード】

恒常性、視覚、シグナル伝達、神経回路網、糖脂質代謝、サイトカインの機能、タンパク質動態、自然免疫、獲得免疫、T細胞性免疫応答

【授業の形態】 質疑応答を含む講義形式で、プロジェクター、ビデオ等視覚教材を活用する。

【テキスト】 特に指定はしない。講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

#### 【参考書】

- ・ヒューマンバイオロジー「人体と生命」、Sylvia S. Mader 著、監訳：坂井 建雄/岡田 隆夫 医学書院（2005年10月）
- ・Molecular Biology of the Cell, Bruce Alberts, Alexander Johnson, Peter Walter, Julian Lewis（2008年1月）

#### 【オフィスアワー】

講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。

#### 【評価の基準と方法】

講義毎にそれぞれの講義内容に関するレポートあるいは小テスト等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を確認して100点満点で評価する。全講義の平均点を評価の基準とする。また、講義中の質疑応答については加点の対象とする。

【事前学習】 シラバスならびに参考書等を事前に予習しておくこと

【事後学習】 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。  
質問があればオフィスアワーを利用すること。

【講義の日時と内容】 別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時・曜日	講師	講義内容
1.	4月15日(水) 2時限	富澤一仁	生体の恒常性維持機構
2.	4月16日(木) 4時限	富澤一仁	学習記憶と情動記憶
3.	4月17日(金) 2時限	宋 文杰	視覚系の構造と機能
4.	4月17日(金) 4時限	宋 文杰	視覚系の可塑性
5.	4月20日(月) 2時限	太田訓正	脳神経回路網の形成機構
6.	4月20日(月) 4時限	太田訓正	細胞の情報伝達
7.	4月21日(火) 2時限	小椋 光	細胞内のタンパク質動態
8.	4月21日(火) 4時限	小椋 光	細胞骨格と分子モーター
9.	4月22日(水) 2時限	野見山尚之	サイトカインの構造と機能(1)
10.	4月23日(木) 4時限	野見山尚之	サイトカインの構造と機能(2)
11.	4月24日(金) 2時限	前田和彦	リンパ系ネットワークと細胞、組織、器官
12.	4月24日(金) 4時限	前田和彦	抗体の構造と機能、B細胞における抗体産生
13.	4月27日(月) 2時限	山縣和也	グルコース代謝とその異常
14.	4月27日(月) 4時限	山縣和也	脂質代謝とその異常
15.	4月28日(火) 2時限	千住 覚	T細胞による生体防御の機構
16.	4月28日(火) 4時限	千住 覚	T細胞の種類と機能の多様性

授業科目： A3 社会医学総論（必修2単位）

科目コード10030

科目主任教員： 西谷陽子（法医学 TEL： 373-5124） n-yoko@kumamoto-u. ac. jp  
分担教員： 加藤貴彦（公衆衛生学 TEL： 373-5112） katoht@gpo. kumamoto-u. ac. jp  
岸川秀樹（保健医学 TEL： 342-2164） hdkkishi@gpo. kumamoto-u. ac. jp  
魏長年（公衆衛生学 TEL： 373-5321） cnwei@gpo. kumamoto-u. ac. jp  
北野隆雄（公衆衛生学 TEL： 373-5112） kitano@gpo. kumamoto-u. ac. jp  
宮崎航（公衆衛生学 TEL： 373-5112） miya@kumamoto-u. ac. jp  
久田文（公衆衛生学 TEL： 373-5112） a\_hisada@kumamoto-u. ac. jp  
皆本景子（公衆衛生学 TEL： 373-5321） may20@kumamoto-u. ac. jp  
米満孝聖（法医学 TEL： 373-5124） yonemie@gpo. kumamoto-u. ac. jp

【授業の目標】社会医学は、社会的存在としてのヒトのライフサイクルの様々な局面における医学的側面と社会的側面について考究する医学の重要な分野である。この科目では、環境と健康との関わりを理解し、疾病予防・健康増進を含む総合医療の概念を修得し、個人の基本的人権の擁護、社会の安全を維持するための医と法について包括的に学ぶ。

【授業の内容】本授業では社会医学の広範な領域を、保健医学、公衆衛生学、法医学の立場から縦横に論理を展開する。保健医学では臨床栄養学について、公衆衛生学では環境の構造、環境と人間の関連、環境の指標と評価、環境基準の設定と維持、健康の概念、予防医学活動をめぐる健康社会の構築とその基本的な手技である疫学について実践的な講義を行う。法医学では、法医学の目的と法医実務について総論的な講義を行うとともに、死の原因、分類、医学的、法律的、社会的な側面、および法医学からの社会貢献に触れる。

【キーワード】臨床栄養学、環境－人間系、環境性疾患・社会性疾患、量－反応・影響関係、公衆衛生学、ヘルスプロモーション、疫学、法医学、医事法学、個体死、社会精神医学、社会心理学

【授業の形態】質疑応答を重視した講義形式で、Power point 等を活用する。

【テキスト】講義にポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】齊藤和雄他編：新しい環境衛生、南江堂、東京・藤原元典他編：総合衛生公衆衛生学、南江堂、東京、Maxy-Rosenan-Last:Public Health & Preventive Medicine(14 edit)Appleton & Lange. 1998・疫学ハンドブック、重要疾患の疫学と予防、日本疫学会編集、南江堂、1998・学生のための法医学（柏村征一、恒成茂行ら著）、南山堂、2006年・“Forensic Pathology” by Bernard Knight, 2<sup>nd</sup> ed., Arnold, London, Sydney and Auckland, 1996・Brown, G., & Harris, T. (1978).

【評価方法】講義終了後に提示するテーマに関するレポートにより評価する。

【成績評価基準】本授業では、それぞれの講義時間の最後にそれぞれの講義の内容に関連した課題を与え、それについてミニレポートを書いて提出してもらう（約15分間）。各回のレポートを100点満点で採点し、それを合計した点数を授業回数16回で割り、60点以上を合格とする。レポートは以下の点を評価する。

- 1) 課題の内容を正しく理解しているか。
- 2) 講義で展開されたさまざまな知識や技術が適切に整理されているか。
- 3) 論理的な思考が明確で、自分の意見を述べているか。

【事前学習】シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと

【事後学習】講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

【授業の日時と内容】

講義番号	日時・曜日	講師	項目	内容・キーワードなど
1.	4月30日(木)	1時限 加藤貴彦	公衆衛生学(1)	総論、概念
2.	5月1日(金)	1時限 岸川秀樹	保健医学(1)	臨床栄養学の基礎
3.	5月1日(金)	2時限 岸川秀樹	保健医学(2)	臨床栄養学と病態
4.	5月7日(木)	1時限 西谷陽子	法医学(1)	法医学の定義、目的
5.	5月8日(金)	1時限 加藤貴彦	公衆衛生学(2)	疫学
6.	5月8日(金)	2時限 宮崎航	公衆衛生学(3)	環境保健
7.	5月11日(月)	1時限 久田文	公衆衛生学(4)	毒性学総論
8.	5月11日(月)	2時限 北野隆雄	公衆衛生学(5)	国際保健
9.	5月12日(火)	1時限 西谷陽子	法医学(2)	法医学と法科学
10.	5月12日(火)	2時限 西谷陽子	法医学(3)	ヒトの死の社会的側面(1)
11.	5月13日(水)	2時限 西谷陽子	法医学(4)	ヒトの死の社会的側面(2)
12.	5月14日(木)	1時限 米満孝聖	法医学(5)	異状死の死因究明制度と検査
13.	5月15日(金)	1時限 魏長年	環境医学(1)	健康、ライフスタイル、ヘルスプロモーション
14.	5月15日(金)	2時限 魏長年	環境医学(2)	ライフスタイルの評価
15.	5月18日(月)	1時限 皆本景子	環境医学(3)	職業性皮膚障害(1)
16.	5月18日(月)	2時限 皆本景子	環境医学(4)	職業性皮膚障害(2)

授業科目： A4 臨床医学総論（必修2単位）

時間割コード10040

科目主任教員：	遠藤 文夫	（小児科学	TEL：373-5188)	fendo@kumamoto-u.ac.jp
分担教員：	佐々木 裕	（消化器内科学	TEL：373-5146)	sasakiy@kumamoto-u.ac.jp
	満屋 裕明	（血液内科学	TEL：373-5156)	hmitsuya@kumamoto-u.ac.jp
	福井 寿啓	（心臓血管外科学	TEL：373-5202)	
	馬場 秀夫	（消化器外科学	TEL：373-5213)	hdobaba@kumamoto-u.ac.jp
	片渕 秀隆	（産科婦人科学	TEL：373-5269)	buchi@kumamoto-u.ac.jp
	水田 博志	（整形外科学	TEL：373-5223)	mizuta@kumamoto-u.ac.jp
	向山 政志	（腎臓内科学	TEL：373-5164)	mmuko@kumamoto-u.ac.jp
	松井 啓隆	（臨床病態解析学	TEL：373-5890)	

【授業の目標】

最新の臨床医学の状況を良く知る。

【授業の内容】

臨床医学は広い分野にわたっている。これらの各分野から専門家がそれぞれの分野で特に重要な医学的課題を紹介しその解説を行う。この授業で掲げる目標として、内科学、外科学、婦人科学、小児科学、整形外科、臨床検査医学、臨床薬理学の分野における最近の臨床、研究の状況を大きく把握することとする。

【キーワード】

臨床医学、診断、治療

【授業の形態】

スライド、プリントを用いて双方向の質疑などを取り入れた参加形の授業を行う。

【テキスト】

特に無し

【参考書】

特に無し

【オフィスアワー】

講義の内容、講義後の質問、その他の疑問質問などは担当教員宛にメールや電話でコンタクトをお願いする。直接訪問するアポイントの申し込みも歓迎する。研究室での議論も大歓迎。

【評価の基準と方法】

講義中の態度とレポートの点数により評価する。

【事前学習】 シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと。

【事後学習】 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

【講義の日時と内容】

講義番号	日時・時限	講師	講義内容
1.	4月30日 (木) 3限	遠藤 文夫	小児と健康
2.	4月30日 (木) 4限	中村 公俊	小児難病のスクリーニング
3.	5月1日 (金) 3限	奥野 豊	血液内科学総論
4.	5月1日 (金) 4限	田上 昭人	臨床薬理学概論：妊娠と薬について
5.	5月7日 (木) 3限	水田 博志	運動器の再建
6.	5月7日 (木) 4限	佐々木 裕	消化器疾患診療の最近の話題
7.	5月8日 (金) 3限	松井 啓隆	次世代シーケンサーによる大量塩基配列解析
8.	5月8日 (金) 4限	坂口 尚	狭心症の手術治療
9.	5月11日 (月) 3限	神力 悟	がんの病態と検査1
10.	5月11日 (月) 4限	岩井 正憲	新生児医療の基礎と最近の進歩
11.	5月12日 (火) 3限	大林 光念	神経生理学的検査と先進医療
12.	5月12日 (火) 4限	別府 透	消化器外科の現状と展望
13.	5月14日 (木) 3限	神力 悟	がんの病態と検査2
14.	5月14日 (木) 4限	片渕 秀隆	リプロダクションと女性のがん
15.	5月15日 (金) 3限	向山 政志	腎臓内科学総論
16.	5月15日 (金) 4限	奥山 虎之	酵素補充療法と遺伝子治療

授業科目： A5 生命倫理学（必修1単位）

時間割コード10050

科目主任教員： 門岡 康弘（生命倫理学：TEL:373-5534） y-kad@kumamoto-u.ac.jp

**【授業の目標】**

1. 医療・医科学に関わる多様な倫理的問題、歴史的問題を認識できるようになる。
2. 医療行為および研究行為に内在する本質的問題を把握し一貫性のある議論を行えるようになる。
3. 関連倫理指針に精通し、各倫理ガイダンスの基礎になっている倫理的理解を深める。
4. 生命・医療倫理の基礎を形成する倫理的な考え方を学ぶ。

**【授業の内容】**

医学系研究者として、また医療に関わる専門職として、知っておくべき生命倫理・医療倫理学領域の歴史、事例、問題、原則、概念、関連論文などを毎回取り上げ検討する。適宜スモールグループ・ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。主要生命倫理・医療倫理雑誌に掲載される論文の批判的抄読を通じて、医療・医科学に関連する問題を考察する。授業内容は変更されることがある。研究倫理教育にはCITIのeラーニングシステムを採用する。

**【キーワード】** 生命倫理、バイオエシックス、研究倫理、医療倫理

**【テキスト】** 講義毎に資料を配布する。

**【参考書】**

- V. Ravitsky V, Fiester A, Caplan AL (eds). The Penn Center Guide to Bioethics. NY, Springer Publishing Company, 2009.
- Singer PA, Viens AM (eds). The Cambridge Textbook of Bioethics. UK, Cambridge University Press, 2008.
- The Hastings Center. Bioethics Briefing Book. (<http://www.thehastingscenter.org/Publications/BriefingBook/Default.aspx>)
- Bonnie Steinbock (Editor) The Oxford Handbook of Bioethics, Oxford University Press, Oxford, 2007.
- Kuhse H, Singer P (eds). A Companion to Bioethics 2nd edition. London, Oxford University Press, 2009.
- Beauchamp TL, Childress JF. Principles of Biomedical Ethics 4<sup>th</sup> edition. NY, Oxford University Press, 1994.
- Lo B. Resolving ethical dilemmas A Guide for Clinician. Lippincott Williams and Wilkins, Baltimore, 2000.
- British Medical Association. Medical Ethics Today 2nd edition. London, BMJ, 2004.
- Rachels J: The Element of Moral Philosophy 2<sup>nd</sup> ed., McGraw-Hill, 1993.
- Stephan G. Post (Ed). Encyclopedia of Bioethics, 3<sup>rd</sup> edition, Volume 1, Macmillan Reference USA, Thomson/Gale, 2004.
- Mitchan C (Editor in Chief). Encyclopedia of Science, Technology, and Ethics. Volume 1, Macmillan Reference USA, Thomson/Gale, 2005.

など

**【オフィスアワー】** 水曜日を除く平日。研究室電話番号：096-373-5534

**【評価方法】** 出席回数、講義での発表内容、CITI e-learning の完遂、課題（レポート提出）により評価する。

**【事前学習】** シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと

**【事後学習】** 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。

**【授業の日時と内容】**

下記の4コマについては、教室で講義を行う。他の4コマについては、CITIのeラーニングシステムを利用して研究倫理を学ぶ。

講義番号	日時・時限	担当教員	講義内容
1.	4月23日・2限目	門岡康弘	生命倫理学総論、先端医療の倫理
2.	4月30日・2限目	門岡康弘	先端医療の倫理
3.	5月7日・2限目	門岡康弘	臨床倫理
4.	5月14日・2限目	門岡康弘	臨床倫理



## 選択科目（5単位）

B 1 ~ B 9

C 1 ・ C 2

授業科目： B1 臨床病理学（選択1単位）		時間割コード 10080	
科目主任教員：	松下修三（エイズ学Ⅱ TEL:373-6536）	shuzo@kumamoto-u.ac.jp	
副主任教員：	興栢博次（呼吸器内科学 TEL:373-5012）	kohroggi@kumamoto-u.ac.jp	
分担教員：	荒木栄一（代謝内科学 TEL:373-5169）	earaki@gpo.kumamoto-u.ac.jp	
	遠藤文夫（小児科学 TEL:373-5188）	fendo@kumamoto-u.ac.jp	
	海北幸一（循環器内科学 TEL:373-5175）	kaikitak@kumamoto-u.ac.jp	
	佐々木 裕（消化器内科学 TEL:373-5150）	sasakiy@kumamoto-u.ac.jp	
	中山秀樹（歯科口腔外科学 TEL:373-5288）	hinakayam@gmail.com	
	山下 賢（神経内科学 TEL:373-5893）	yamashitasatosi@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp	
<b>【授業の目標】</b>			
必修科目の「病理病態学」において、病気の分類や発症進展の機構について総論的に学ぶが、「臨床病理学」では、代表的な疾患をとりあげ、具体的な臨床病態とその基礎にある分子機構を学ぶことによって、病気の概念的理解を更に深める事を目的とする。加えて、疾患が神経系や運動系、あるいは特徴ある組織に発症した場合の性状や、免疫不全症のように全身性に病状が出現する場合の機序についても学ぶ。			
<b>【授業の内容】</b> 先天代謝異常、代謝障害、免疫不全症、などの全身疾患、及び、各臓器に起こる循環障害、炎症、腫瘍、変性疾患に関して 8 人の専門家によるオムニバス講義を行う。各回のトピックスに関しては、下記の時間割を参照されたい。授業ではこれらの代表的な疾患に特徴的な臨床病態とその基礎にある分子機構について学ぶ。			
<b>【キーワード】</b> 先天異常、代謝障害、変性疾患、循環障害、炎症、腫瘍、免疫不全			
<b>【授業の形態】</b> 質疑応答を含む、講義形式、Power point, OHP 等を活用する。			
<b>【テキスト】</b> 講師によってはプリントを配布する場合がある。			
<b>【参考書】</b> 講義のときにそれぞれの教官が紹介する。			
<b>【オフィスアワー】</b>			
講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室も訪問して頂ければ対応致します。			
<b>【評価基準と方法】</b>			
講義への積極的な参加と小テストまたはレポートにより行う。			
授業後の小テストまたはレポートは以下の点を評価する。			
1) 選択した分野の用語を正しく理解しているか。			
2) 選択した分野の背景を正しく理解しているか。			
3) 選択した分野の現状を正しく理解しているか。			
4) 授業中に強調された事柄を正しく把握しているか。			
5) 自分の意見を述べているか。			
各授業担当の教員が10点満点で評価（10点×8、80点満点）その合計に5/4をかけて成績を評価する。			
<b>【事前学習】</b> シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと			
<b>【事後学習】</b> 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。			
<b>【授業の日時と内容】</b>			
講義番号	日時・曜日	講師	講義内容
1.	6月1日(月)	4時限 海北幸一	急性冠症候群の病態と抗血栓療法
2.	6月2日(火)	4時限 荒木栄一	糖尿病/インスリン作用障害による代謝異常とその合併症
3.	6月4日(木)	4時限 山下 賢	神経難病の診断と治療
4.	6月5日(金)	4時限 松下修三	AIDS/HIV感染が引き起こす免疫不全症の病態
5.	6月8日(月)	4時限 遠藤文夫	先天代謝異常と肝臓の異常
6.	6月9日(火)	4時限 佐々木裕	肝硬変症と肝癌：病態と治療
7.	6月11日(木)	4時限 興栢博次	肺炎と気管支喘息
8.	6月12日(金)	4時限 中山秀樹	歯周病の病理病態

授業科目： B2 感染免疫学（選択1単位）

時間割コード 10090

科目主任教員：澤 智裕（微生物学 TEL:373-5320）  
分担教員：前田洋助（感染防御学 TEL:373-5130）  
松下修三（エイズ学Ⅱ TEL:373-6536）  
上野貴将（エイズ学Ⅴ TEL:373-6530）  
岡田誠治（エイズ学Ⅲ TEL:373-6522）  
有海康雄（エイズ学Ⅶ TEL:373-6834）  
佐藤賢文（エイズ学ⅩⅢ TEL:373-6830）

sawat@kumamoto-u.ac.jp  
ymaeda@kumamoto-u.ac.jp  
shuzo@kumamoto-u.ac.jp  
uenotaka@kumamoto-u.ac.jp  
okadas@kumamoto-u.ac.jp  
ariumi@kumamoto-u.ac.jp  
y-satou@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】ヒトの感染症の原因となる病原体の性状、感染・発症のメカニズムとその予防、治療法について理解するため、細菌、ウイルス等の多様な病原体に関する今日的な知識を習得する。

本講義シリーズでは、特に HIV-1 を含むウイルス感染に対する防御的免疫機構に焦点をあてる。

【授業の内容】前半4コマは病原体（細菌学、ウイルス学）の総論と各論（グラム陽性・陰性菌、DNA・RNA ウイルス）を病原性発現メカニズム、感染症の制圧と制御・予防法、新興再興感染症を中心に議論する。後半の4コマは、宿主の感染防御を感染免疫学の立場から論ずる。特に、T細胞によるウイルス抗原認識と抗ウイルス機構、造血細胞の免疫担当細胞の分化、ワクチンの開発戦略に関する最近の動向を紹介する。

【キーワード】感染症と免疫、新興再興感染症、活性酸素・NO、HIV-1、細胞傷害性T細胞、造血幹細胞、T細胞レセプター、HLA抗原、中和抗体、ワクチン

【授業の形態】質疑応答を含む講義形式で、Power Point、OHP等を活用する。

【テキスト】特に指定はしない。教員によっては、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

#### 【参考書】

- ・チャート基礎医学シリーズ「微生物学」（緒方幸雄、神谷 茂）医学評論社
- ・「シンプル微生物学」（東 匡伸、小熊恵二）南江堂
- ・“Fundamentals of Microbiology” by I. E. Alamoco. The Benjamin/Cummings Publishing Company, Inc.
- ・McMichael AJ, Haynes BF: Lessons learned from HIV-1 vaccine trials: new priorities and directions. Nat Immunol 2012, 13:423-427.
- ・Mouquet H, Nussenzweig MC: HIV: Roadmaps to a vaccine. Nature 2013, 496:441-442.

【オフィスアワー】講義内容や専門分野に関する質問は教員を研究室に直接尋ねるか、上記の教員宛に電話あるいはEメールで問い合わせることにより各教員が個別に対応する。

【評価の基準と方法】成績評価は講義への積極的な参加と小テストまたはレポートにより行うが、以下の点に着目して評価する。1) 選択した分野の用語を正しく理解しているか。2) 選択した分野の背景を正しく理解しているか。3) 選択した分野の現状を正しく理解しているか。4) 授業中に強調された事柄を正しく把握しているか。5) 自分の意見を的確に述べているか。8回の講義における小テストあるいは講義終了後に提示されるテーマに関するレポートの成績評価を集計し、上位6回分の点数の平均を成績とする。

【事前学習】シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと

【事後学習】講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

#### 【講義の日時と内容】

講義番号	日時・時限	講師	講義内容
[微生物の病原性]			
1.	5月19日(火) 2時限	澤 智裕	細菌学総論・各論(グラム陽性・陰性菌)
2.	5月20日(水) 2時限	澤 智裕	病原性発現メカニズム
3.	5月22日(金) 2時限	前田洋助	ウイルス学総論・各論
4.	5月25日(月) 2時限	佐藤賢文	ウイルス感染病態
[感染免疫]			
5.	5月26日(火) 2時限	上野貴将	抗ウイルス細胞性免疫応答
6.	5月27日(水) 2時限	松下修三	中和抗体とワクチン開発戦略
7.	5月29日(金) 2時限	有海康雄	ウイルス感染と自然免疫
8.	6月 1日(月) 2時限	岡田誠治	造血幹細胞から免疫担当細胞への分化

授業科目：B3 代謝情報学（選択1単位）

時間割コード 10100

科目主任教員：尾池雄一（分子遺伝学 TEL:373-5142） oike@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
分 担 教 員：富澤一仁（分子生理学 TEL:373-5051） tomikt@kumamoto-u.ac.jp  
荒木令江（腫瘍医学 TEL:373-5119） nori@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
入江 厚（免疫識別学 TEL:373-5313） airie@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
魏 范研（分子生理学 TEL:373-5051） fywei@kumamoto-u.ac.jp

#### 【授業の目標】

生体内環境は、多種多様なシグナルにより制御されている。近年、ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスなどのオミクス(-omics)研究が目覚ましく進歩し、生体内環境の変化を体系的かつ包括的に解析することが可能となった。また、これらを活用することで、病態発症メカニズムの解析、治療ターゲットの同定、バイオマーカーの開発などが可能となりつつある。本授業では、ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスの学問的背景、解析技術の原理、および、疾患解析への応用について講義する。本授業を受講することにより、様々なオミクス研究から得られた情報を、自らの研究分野に応用する能力が身に付くと期待される。

#### 【授業の内容】

ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスに関して、学問的背景、歴史、近年の進歩状況を概説する。また、疾患における発症メカニズムの解析や治療ターゲットの同定など、治療法開発・創薬への応用例を解説する。その1つとして、バイオマーカーを用いた酸化ストレス病態解析法を解説する。

#### 【キーワード】

プロテオミクス、メタボロミクス、ゲノミクス、バイオマーカー、活性酸素、酸化ストレス

#### 【授業の形態】

質疑応答を重視した講義形式で、Power point, 等を活用する。

#### 【テキスト】

講義のスライドをまとめたハンドアウトを配布する。

#### 【参 考 書】

「疾患プロテオミクスの最前線」(メディカルドゥ社)(戸田年総・荒木令江編)  
実験医学 2008 1月号「特集 メタボローム(代謝研究の新潮流)」(羊土社)  
プロテオミクス辞典 日本プロテオーム学会編 (講談社) 2013年

【オフィスアワー】 質問は教員宛てにEメール/電話、または研究室を訪問して行う。

#### 【評価の基準と方法】

講義終了後に提示するテーマに関するレポートにより評価する。8回の講義における小テストあるいはレポートで評価し、その平均点を成績とする。

#### 【事前学習】

シラバス並びに参考書等を事前に予習しておくこと

#### 【事後学習】

講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

#### 【授業の日時と内容】

講義番号	日時・時限	担当教員	内容など
1.	5月18日(月) 3時限	荒木令江	ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスの学問的背景
2.	5月19日(火) 3時限	入江 厚	ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスの基礎原理(1)
3.	5月21日(木) 3時限	尾池雄一	代謝研究の最近の話題(1)
4.	5月22日(金) 3時限	尾池雄一	代謝研究の最近の話題(2)
5.	5月25日(月) 3時限	富澤一仁	RNAエピジェネティクス概論
6.	5月26日(火) 3時限	魏 范研	RNAエピジェネティクスと疾患
7.	5月28日(木) 3時限	入江 厚	ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスの基礎原理(1)
8.	5月29日(金) 3時限	荒木令江	ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクスと疾患研究最前戦

授業科目： B4 脳神経科学（選択1単位）

時間割コード 10110

科目主任教員：宋 文杰（知覚生理学 TEL:373-5056） song@kumamoto-u.ac.jp  
分担教員：嶋村健児（脳発生学 TEL:373-6583） simamura@kumamoto-u.ac.jp  
玉巻伸章（脳回路構造学 TEL:373-5298） tamamaki@kumamoto-u.ac.jp  
太田訓正（神経分化学 TEL:373-5293） ohta9203@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
植田光晴（神経内科学 TEL:373-5893） mueda5@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp  
矢野茂敏（脳神経外科学 TEL:373-5219） yanos@kumamoto-u.ac.jp  
犬童康弘（小児科学 TEL:373-5191） yindo@kumamoto-u.ac.jp  
福原竜治（神経精神医学 TEL:373-5183） fryuji@kumamoto-u.ac.jp

**【授業の目標】**

脳は膨大な数の細胞によって構成される大変に複雑な組織で、我々の感覚・運動機能のみならず、記憶・学習・認知・情動や精神機能まで支える器官である。脳神経科学では、神経発生学、神経解剖学、神経生理学および臨床神経科学の観点から、分子、細胞、組織、器官および個体のレベルで、以下の概要について理解し、説明できるようになることを目標とする。神経発生学では、神経系の分化と神経回路形成の機構を理解する。神経解剖学と神経生理学では、脳の回路構造と機能を理解する。臨床神経科学では、脳卒中や神経疾患の症状と治療方法を理解する。

**【授業の内容】**

神経発生学では、神経幹細胞の制御、中枢神経系の誘導と領域化および大脳皮質の発生について講義する。神経解剖学と神経生理学では、大脳皮質の細胞構築と回路構造および聴覚皮質の機能について講義する。臨床神経科学では、「痛み」と「発汗」の神経基盤、脳アミロイド血管症などの神経難病、脳疾患の外科治療およびアルツハイマーなどの精神疾患について講義する。

**【キーワード】**

神経幹細胞、領域化、大脳皮質、聴覚、先天性無痛無汗症、癌幹細胞、精神科疾患

**【授業の形態】** 質疑応答を含む講義形式で、Power point, OHP 等を活用する。

**【テキスト】** 特に指定はしない。講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

**【参考書】**

- 1) 神経科学 ー脳の探求ー、M.F. Bear/B.W. Connors/M.A. Paradiso 著 監訳：加藤宏司/後藤薫/藤井聡/山崎良彦、西村書店（2007年6月）
- 2) Principles of Neural Science, Fifth Edition, Eric Kandel, James Schwartz, Thomas Jessell, Steven Siegelbaum (2012/10/26)

**【オフィスアワー】**

講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。

**【評価の基準と方法】**

講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を確認して、100点満点で評価する。全講義の平均点を評価の基準とする。また、講義中の質疑応答については加点の対象とする。

**【事前学習】** シラバス並びに参考書等を事前に予習しておくこと

**【事後学習】** 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。  
質問があればオフィスアワーを利用すること。

**【講義の日時と内容】** 別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時・時限	講師	講義内容
1.	5月18日(月) 4時限	嶋村健児	中枢神経系の誘導と領域化
2.	5月19日(火) 4時限	太田訓正	神経幹細胞の制御
3.	5月21日(木) 4時限	玉巻伸章	大脳皮質の構造と発生
4.	5月22日(金) 4時限	宋 文杰	聴覚情報処理
5.	5月25日(月) 4時限	犬童康弘	痛みと発汗の神経科学
6.	5月26日(火) 4時限	矢野茂敏	脳神経外科における臨床神経学
7.	5月28日(木) 4時限	植田光晴	神経難病、特に脳アミロイド血管症
8.	5月29日(金) 4時限	福原竜治	精神疾患と脳科学

<b>授業科目：</b> B5 遺伝再生医学（選択1単位）	<b>時間割コード</b> 10120
<b>科目主任教員：</b> 西中村隆一（腎臓発生学 TEL: 373-6615） <b>分担教員：</b> 未定（多能性幹細胞学 TEL: 373-6620） 立石 智（損傷修復学 TEL: 373-6602） 中尾 光善（細胞医学 TEL: 373-6800） 遠藤 文夫（小児科学 TEL: 373-5188） 寺田 和豊（分子遺伝学 TEL: 373-5143） 猪股裕紀洋（小児外科学 TEL: 373-5616） 未定（心臓血管外科学 TEL: 373-5205） 日野信次朗（細胞医学 TEL: 373-6801）	ryuichi@kumamoto-u.ac.jp  tate@gpo.kumamoto-u.ac.jp mnakao@gpo.kumamoto-u.ac.jp fendo@gpo.kumamoto-u.ac.jp terada@gpo.kumamoto-u.ac.jp yino@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp  s-hino@kumamoto-u.ac.jp
<b>【授業の目標】</b> 遺伝再生医学の講義では、「分子生物学、発生学、遺伝学の基礎知識を習得し、再生医学、遺伝医学、移植医療の基礎と臨床に関する知識を学ぶ」ことを目指している。胚発生および器官・組織形成が進行する過程について、その生物学的特性、分子基盤を問いかけ理解することで、そのしくみの破綻に起因する疾患の病因解明とそれに対処する治療法開発疾患との関連、再生医学を研究するにあたって必要となる基礎と臨床の知識を習得する。遺伝学および遺伝医学の基本的な知識、および遺伝学的な考え方を身に付けることを目指す。そして熊本大学で施行されている腎移植、生体肝移植の実例を含め、移植医療を必要とされる疾患の背景、臓器移植の概念、診断、方法について、医学・医療の両面から移植医療の概略知識を得る。	
<b>【授業の内容】</b> 主として次の点について理解できるよう遺伝再生医学の講義を行う。 （1）受精卵から初期胚形成に至る過程を知り、全能性の胚性幹細胞（ES細胞）の特性とその応用（2）器官・組織が形成される際に行われる細胞系譜の運命付けの分子機構（3）器官・組織特異的な体性幹細胞（4）細胞周期、DNA複製、DNA修復とその異常に基づく疾患（5）エピジェネティクス医科学（6）染色体、ヒトゲノム、古典遺伝学、集団遺伝学、細胞遺伝学（7）ミトコンドリア遺伝子、とその変異による疾患（8）遺伝病の基礎、遺伝子診断、遺伝子治療の概要（9）循環系を例に、再生医学の基礎と臨床応用（10）移植の歴史、技術、ドナー問題、拒絶反応、（11）生体肝移植、腎移植	
<b>【キーワード】</b> 胚発生、消化器官の発生、腎臓・泌尿器の発生、幹細胞、エピジェネティクス、DNA複製、DNA修復、遺伝病、DNA診断、遺伝子治療、先天性代謝異常症、ミトコンドリアDNAの構造と機能、ミトコンドリア遺伝病、心疾患、再生医療、脳死、生体移植、移植免疫、肝移植	
<b>【授業の形態】</b> 質疑応答を含む講義形式で、Power point, OHP等を活用する。	
<b>【テキスト】</b> 特に指定はしない。講義のポイントをまとめたプリントを配布する。	
<b>【参考書】</b> エッセンシャル発生生物学 Jonathan Slack 著、大隅典子訳、羊土社、2007年 エッセンシャル細胞生物学 中村桂子・松原謙一監約 南江堂 日本臓器移植ネットワークHP： <a href="http://www.jotnw.or.jp/">http://www.jotnw.or.jp/</a> 目で分る臨床遺伝学 メディカル・サイエンス・インターナショナル、2004年 エピジェネティクス (David Allisら編)、培風館、2010年	
<b>【オフィスアワー】</b> 講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。	
<b>【評価の基準と方法】</b> 講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項について正しく理解しているか、自らの考えを展開できているかを評価する。8回の講義における小テスト(あるいはレポート)の上位5回分の点数に、最終レポートを加味して成績とする。	
<b>【事前学習】</b>	テキスト、参考書等を事前に予習しておくこと
<b>【事後学習】</b>	レポート提出や実験結果の整理等をこまめにまとめておくこと

【講義の日時と内容】 別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時・曜日	講 師	講義内容
1.	5月19日(火)	1時限 西中村隆一	腎臓発生と再生医学
2.	5月21日(木)	1時限 未定	胚発生と幹細胞
3.	5月22日(金)	1時限 立石 智	細胞分裂制御とDNA修復による発ガン抑制
4.	5月25日(月)	1時限 猪股裕紀洋	臓器移植
5.	5月26日(火)	1時限 遠藤 文夫	DNA診断と遺伝子治療
6.	5月28日(木)	1時限 中尾光善・ 日野信次朗	エピジェネティクス医科学
7.	5月29日(金)	1時限 寺田 和豊	ミトコンドリア遺伝病
8.	6月 1日(月)	1時限 未定	心疾患の再生医学の基礎および臨床

授業科目： B6 医療情報学（選択1単位）

時間割コード10130

科目主任教員： 宇宿功市郎（医療情報医学 TEL:373-5739） space-usk@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp  
分担教員： 廣瀬 隼（医療情報医学 TEL:37305738） hirojunkmc@yahoo.co.jp  
芳賀 克夫（臨床国際協力学 TEL:353-6501） yoshio@kumamed.jp  
高橋 毅（臨床国際協力学 TEL:353-6501） t99@kumamed.jp

#### 【授業の目標】

医学の進歩を実際の医療現場に応用することが医療であるが、医療現場において発生する情報を適切に取り扱って初めてその目的が達成される。この医療情報学では、医療における情報を正しく利用することが出来るようになるために、医療現場での情報の種類、個人情報保護を含めた情報の取り扱い方、有用な情報を得るための方法論を身に付けることを目標とする。

#### 【授業の内容】

医療情報学では、個人情報保護の視点も踏まえた診療録の取り扱い方、情報を電子化して利用する際の医療従事者として身に付けておくべき情報リテラシー・情報倫理、電子的に交換することも含めた医療情報交換の際の問題点、診療記録に Information and Communication Technology (ICT) を使用する際に留意すべき観点および電子カルテの利点と問題点について講義する。

国際医療協力学では、臨床研究における研究デザイン・研究計画書作成の手順・研究方法・倫理的勘案事項・データの解析法、EBMの実践手順・コンピューターを用いての英語論文の批判的吟味法について、救急医療情報および災害医療情報について講義する。

#### 【キーワード】

医療情報学：診療録の取り扱い、個人情報、情報倫理、電子カルテ、地域連携、クリティカルパス

国際医療協力学：臨床研究、研究計画書、EBM、英語論文、救急医療情報、災害医療情報

【授業の形態】 質疑応答を含む講義形式で、Power point, OHP 等を活用する。

【テキスト】 特に指定はしない。講義のポイントをまとめたプリントを配布する。

#### 【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

#### 【オフィスアワー】

講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。

#### 【評価の基準と方法】

講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を確認して評価する。8回の講義におけるレポート等で評価し、上位5回分の点数の平均を成績とする。

【事前学習】 シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと。

【事後学習】 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

【講義の日時と内容】 別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時・曜日	講師	講義内容
1.	6月 1日(月) 3時限	廣瀬 隼	クリニカルパスについて
2.	6月 2日(火) 3時限	芳賀 克夫	臨床研究のデザイン、EBM
3.	6月 4日(木) 3時限	芳賀 克夫	臨床研究結果の解析方法、英語論文の批判的吟味
4.	6月 5日(金) 3時限	宇宿功市郎	個人情報保護の観点からみた診療録の取り扱い
5.	6月 8日(月) 3時限	廣瀬 隼	地域医療連携について
6.	6月 9日(火) 3時限	高橋 毅	救急医療情報について
7.	6月 11日(木) 3時限	高橋 毅	災害医療情報について
8.	6月 12日(金) 3時限	宇宿功市郎	電子化された情報の取り扱いと電子カルテ

※3時限：13：15～14：45



科目主任教員：中潟直己（資源開発分野 TEL:373-6564） nakagata@kumamoto-u.ac.jp  
 科目副主任教員：荒木正健（バイオ情報分野 TEL:373-6501） maraki@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
 分担教員：荒木喜美（疾患モデル分野 TEL:373-6598） arakimi@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
 分担教員：大村谷昌樹（技術開発分野 TEL:373-6559） ohmuraya@kumamoto-u.ac.jp  
 分担教員：古嶋昭博（RI実験分野 TEL:373-6508） akojima@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
 分担教員：中村 輝（生殖発生分野TEL:096-373-6557） akiran@kumamoto-u.ac.jp

**【授業の目標】**

現在、ゲノム機能解析を行うために、様々な遺伝子改変マウス（遺伝子を導入又は破壊した動物）の作製およびそれらマウスを用いた研究が精力的に行われている。近年、その技術はゲノム編集により飛躍的な発展を遂げた。実験動物学の講義は、主にマウスに関する以下の内容（「授業の内容」を参照）を理解することを目標とし、そこから得た知識や技術を各自の研究に役立たせることを目標とする。

**【授業の内容】**

- 1) 実験動物の感染症
- 2) 生殖工学技術
- 3) ノックアウトマウス・トランスジェニックマウス・ジーントラップマウスの作製
- 4) 疾患モデル動物の意義とその応用
- 5) RNAサイレンシング技術を用いた遺伝子ノックダウンの原理
- 6) 分子イメージングによる小動物実験

**【キーワード】**

実験動物、感染症、生殖工学、ジーントラップ、遺伝子操作マウス、遺伝子ノックダウン、疾患モデル、分子イメージング

**【授業の形態】**

質疑応答を含む講義形式で、Power point等を活用する。

**【テキスト】**

特に指定はしない。

**【参考書】**

- ・ Nagy, A., Gertsenstein, M., Vintersten, K. & Behringer, R. Manipulating the mouse embryo: a laboratory manual (3rd ed.). Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2003.
- ・ Virginia E. Papaiannou and Richard R. Behringer. Mouse Phenotypes: A Handbook of Mutation Analysis. Cold Spring Harbor Laboratory Press 2005.
- ・ Fox, J.G., Barthold, S.W., Davisson, M.T., Newcomer, C.E., Quimby, F.W. & Smith, A.L. The mouse in biomedical research, vol.2 diseases (2nd ed.). Academic Press, 2007.

**【オフィスアワー】**

講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。

**【評価の基準と方法】**

講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を確認して評価する。8回の講義における小テストあるいはレポートで評価し、1回の講義を12.5点満点で採点し、8回の合計点を成績とする。

**【事前学習】** 文献を幅広く読みこなしておくこと

**【事後学習】** レポート提出や実験結果の整理等をこまめにまとめておくこと

### 【講義の日時と内容】

日時・時限	講師	講義内容
6月15日(月)		
1) 1時限	中潟直己	実験動物の飼育管理・感染症・生殖工学技術 I
2) 2時限	中潟直己	生殖工学技術 II
3) 3時限	大村谷昌樹	疾患モデル動物の意義とその応用
4) 4時限	荒木喜美	遺伝子導入マウスの作製・解析法
6月16日(火)		
5) 1時限	荒木喜美	遺伝子破壊マウス作製とゲノム編集技術
6) 2時限	荒木正健	ジーントラップマウスの作製
7) 3時限	中村 輝	RNAサイレンシング技術を用いた遺伝子ノックダウンの原理
8) 4時限	古嶋昭博	分子イメージングによる小動物実験

※すべての講義は、エイズ学研究センター、生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設  
新館5階の演習室(504) (下記URL参照)で行います。

[http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/campusjouhou/shuyou\\_shisetsu/map\\_honjyou\\_2.html](http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/campusjouhou/shuyou_shisetsu/map_honjyou_2.html)

※人数が多い場合は、アイソトープ総合施設・遺伝子実験施設棟6階 講義室

授業科目： B8 基礎放射線学（選択1単位）

時間割コード10150

科目主任教員：岡田誠治（エイズ学Ⅲ TEL：373-6522） okadas@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
分担教員：古嶋昭博（RⅠ実験学 TEL：373-6508） akojima@gpo.kumamoto-u.ac.jp  
島崎達也（RⅠ実験学 TEL：373-6509） tshima@gpo.kumamoto-u.ac.jp

### 【授業の目標】

生命科学領域における基礎的および臨床的研究に不可欠な放射線とラジオアイソトープ（RⅠ）について、それらの取扱いに必要な基礎から応用に渡る知識を身に付けること。人体に有害な放射線被ばくを極力防止しながら、放射線やRⅠを利用した適切かつ合理的な実験を行う能力を身に付ける。

### 【授業の内容】

1. 研究のために放射線やRⅠを利用する放射線取扱者として資格を取得できるための教育訓練に相当する内容について講義および実習を行う。
2. 生命科学領域での基礎研究や医療において、放射線やRⅠを利用するメリットや合理性ならびに効果的な放射線の検出や放射能測定手法について講義を行う。
3. 基本的な測定実験プロトコールについての講義と実際のRⅠを用いた実習を行う。

### 【キーワード】

放射性同位元素、放射線物理、放射線生物、放射線化学、放射線医学、核医学、放射線防護、放射線計測、放射線関連法規、放射線取扱者用教育訓練、

### 【授業の形態】

Power Point や OHP 等を活用した講義形式およびRⅠや放射線を用いた実習形式。

### 【テキスト】

熊本大学放射線取扱者教育訓練用テキスト、講義用または実習用配布資料。

### 【参考書】

- ・細胞工学別冊「RⅠの逆襲」アイソトープを活用した簡単・安全バイオ実験. 監修：岡田誠治 秀潤社（2007年12月）
- ・Basic Knowledge of Radiation and Radioisotopes (Scientific Basic, Safe Handling of Radioisotopes and Radiation Protection). Japan Radioisotope Association, 2005.

### 【オフィスアワー】

講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。

### 【評価の基準と方法】

講義中の質疑応答、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目標】に掲げた事項についての理解度を確認して評価する。8回の講義における講義中の質疑応答、小テストあるいはレポートで評価し、上位5回分の点数の平均を成績とする。

### 【事前学習】 シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと

### 【事後学習】 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

### 【講義の日時と内容】 別紙に記載された時間割も参照ください。

講義番号	日時・曜日	講師	講義内容
1.	4月22日（水） 3時限	古嶋昭博	放射線とRⅠ取扱いの基礎（1）
2.	4月22日（水） 4時限	古嶋昭博	放射線とRⅠ取扱いの基礎（2）
3.	5月13日（水） 3時限	古嶋昭博	放射線とRⅠ取扱いの基礎（3）
4.	5月13日（水） 4時限	古嶋昭博	放射線とRⅠ取扱いの基礎（4）
5.	6月2日（火） 1時限	岡田誠治	放射線の生命科学研究への応用
6.	6月4日（木） 1時限	古嶋昭博	放射線とRⅠの測定法
7.	6月5日（金） 1時限	島崎達也	放射線の生物影響
8.	6月8日（月） 1時限	島崎達也	RⅠの細胞研究への活用

授業科目： B9 解剖学実習（選択1単位）

科目コード10160

科目主任教員：福田 孝一（形態構築学 TEL:373-5038）  
川井 克司（形態構築学 TEL:373-5039）

tfukuda@kumamoto-u.ac.jp  
kawai@kumamoto-u.ac.jp

【授業の目標】 人体解剖学実習を通じて、人体各部の構造を理解する。

【授業の内容】 実際に解剖された人体標本を観察して、発生学的、比較解剖学的見方も加えながら人体の構造を総合的に把握する。

【キーワード】 人体解剖学、構造、器官

【テキスト】 実習のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】 ・分担解剖学（金原出版）  
・日本人体解剖学（南山堂）  
・グレイ解剖学（エルゼビア・ジャパン）  
・ムーア「人体発生学」  
など

【評価方法】 実習態度、レポートにより評価する

【成績評価基準】 全実習時間の出席は前提とする。実習態度 50%、レポート 50%

【事前学習】 事前に十分な予習しておくこと。事前学習のレポート提出を義務とします（下記参照）

【事後学習】 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。

#### 【授業の日時と内容】

〔日時等について〕

8月後半の3日間を解剖学実習に充てる。具体的日時は決まり次第連絡をします。

- ご遺体を用いる実習であり、篤志献体された方々の尊いお気持ちに報いるために、強い意欲を持って取り組むことと、実習を最後まで貫徹することが求められます。また、限られた時間で人体の各部について有効な実習を行うためには、事前の学習が大切です。
- 従って、履修の前提として（1）自分が特にどのような構造について学びたいかという課題設定、および（2）その課題についてあらかじめ学習した内容についてのレポートを提出してもらいます。
- 実習室の状況と指導の都合上、人数を制限する場合があります。

#### □ 【実習内容】

期間中、人体の諸器官を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、必要に応じて教員が示説を行う。履修者はそれぞれの器官を観察し、記録・レポートを作成する。

#### スケジュール

- 1日目：午前；人体全身骨格標本を観察する。  
午後；中枢神経（脳と脊髄）と頭部を観察する。
- 2日目：午前；内臓特に胸部内臓と腹部内臓を観察する。  
午後；引き続き胸部内臓、腹部内臓およびその他の内臓(尿生殖器など)を観察する。
- 3日目：午前；体幹や体肢の筋および末梢神経を観察する。  
午後；観察事項のまとめと発表。

## 平成27年度大学院医学実験講座

場所：医学教育図書棟3階第2講義室

月 日	午 前	午 後
4月6日 (月)	8:45 ～ 10:15 遺伝子組み換えの基礎 <small>(分子遺伝学：寺田 和豊)</small>	13:15 ～ 14:45 PCRの基礎と応用 <small>(組織幹細胞学：田村 潔美)</small>
	10:30 ～ 12:00 遺伝子導入法 <small>(分子生理学：魏 范研)</small>	15:00 ～ 16:30 真核生物における転写調節実験法 <small>(腎臓発生学：田中 聡)</small>
4月7日 (火)	8:45 ～ 10:15 細胞内イメージング技術 <small>(細胞医学：斎藤 典子)</small>	13:15 ～ 14:45 蛋白質の精製法<一般操作法> <small>(分子細胞生理学：江崎 雅俊)</small>
	10:30 ～ 12:00 分子イメージングの基礎と臨床応用 <small>(機能病理学：長谷川 功紀)</small>	15:00 ～ 16:30 不安定分子取り扱いの要点 —プロテアーゼ精製を例として <small>(分子病理学：今村 隆寿)</small>
4月8日 (水)	8:45 ～ 10:15 細胞生物学的解析法 <small>(細胞情報薬理学：梅田 一彰)</small>	13:15 ～ 14:45 細胞内情報伝達実験法 <small>(エイズ学IV：鈴 伸也)</small>
	10:30 ～ 12:00 実験研究と安全管理 <small>(環境安全センター：山口 佳宏)</small>	15:00 ～ 16:30 フローサイトメトリーの原理と応用 <small>(保健学系 生体情報解析学：乾 誠台)</small>
4月9日 (木)	健康診断	
4月10日 (金)	8:45 ～ 10:15 ファーマコキネティクス <small>(薬剤部：齋藤 秀之)</small>	13:15 ～ 14:45 抗体作製法 <small>(生殖発生学：中村 輝)</small>
	10:30 ～ 12:00 免疫学的解析法の基礎 <small>(免疫識別学：千住 寛)</small>	15:00 ～ 16:30 In situハイブリダイゼーション法 <small>(神経分化学：太田 訓正)</small>
4月13日 (月)	8:45 ～ 10:15 動物実験の基礎I※注1 <small>(生命資源研究・支援センター 技術開発分野：大村谷 昌樹)</small>	13:15 ～ 14:45 生殖工学技術 <small>(資源開発学：中湯 直己)</small>
	10:30 ～ 12:00 動物実験の基礎II※注1 <small>(生命資源研究・支援センター 疾患モデル分野：荒木 喜美)</small>	15:00 ～ 16:30 プロテオミクスについて <small>(腫瘍医学：荒木 令江)</small>
4月14日 (火)	8:45 ～ 10:15 ウイルスを含めた病原微生物取扱法 <small>(感染防御学：前田 洋助)</small>	13:15 ～ 14:45 遺伝子改変生物の取扱い※注2 <small>(生命資源研究・支援センター バイオ情報分野 ：荒木 正健)</small>
	10:30 ～ 12:00 免疫組織化学 <small>(細胞病理学：菰原 義弘)</small>	15:00 ～ 16:30 学術情報の探し方(医学総合研究棟3階情報実習室) <small>(医学系分館長(医療情報医学)：宇宿 功市郎)</small>
4月16日 (木)	10:30 ～ 12:00 研究者倫理について(仮) <small>(生命倫理学：門岡 康弘)</small>	13:15 ～ 14:45

※注1「動物実験の基礎I、II」の受講をもって、動物実験委員会が行う「動物実験実施者及び飼育者に対する教育訓練」を受講したものとはみなされません。教育訓練の受講希望者は別日に開催される動物実験委員会主催の教育訓練を受講してください。

※注2「遺伝子改変生物の取扱い」の受講をもって、遺伝子組換え生物等第二種使用等に関する教育訓練講習会を受講したもののみならず、ただし、直接講義に出席した者については、本教育訓練講習会を受講したもののみならず、eラーニングの受講はその対象ではありません。

## 平成 27 年度医学・生命科学セミナー

●場所: 第2講義室(医学教育図書棟3階)

●時間: 17:30～(原則として水曜日開催)

番号	実施日(予定)	講師氏名	演題	勤務先及び職名	世話分野
1.	5月(予定)	たきほら 瀧原 義宏	Geminin, a molecular switch turning on and off quiescence or blood cell production in hematopoietic stem cells	広島大学原爆放射線医科学研究所 幹細胞機能学研究分野 教授	エイズ学Ⅲ
2.	6月3日(水)	みうら 三浦 岳	Modelling pattern formation during development	九州大学大学院医学研究院 生体制御学講座 系統解剖学分野 教授	循環器内科学
3.	7月3日(金) 18:30～	まつだ 松田 実	Aphasia reconsidered: symptomatology and neuroanatomical correlates	東北大学大学院 高次脳機能障害学分野 准教授	神経精神医学
4.	7月8日(水)	のじ 野地 博行	Single-molecule biophysics on ATP synthase	東京大学大学院 工学系研究科 教授	分子細胞制御学
5.	8月12日(水)	おざわ 小澤 敬也	Current progress of gene therapy	東京大学医科学研究所 教授/病院長	免疫識別学
6.	9月(予定)	やぎ 八木 健	Complex neural networks from neuronal individuality	大阪大学大学院生命機能研究科 教授	脳回路構造学
7.	10月(予定)	おおたに 大谷 直子	Gut microbiota, chronic inflammation and cancer	東京理科大学 理工学部 応用生物科学科 教授	微生物学
8.	11月(予定)	つまき 妻木 範行	調整中	京都大学 iPS 細胞研究所 教授	幹細胞誘導学
9.	1月13日(水)	そえしま 副島 英伸	Genomic imprinting —Beckwith-Wiedemann syndrome and related disorders—	佐賀大学医学部 分子生命科学講座 分子遺伝学・エピジェネティクス分野 教授	産科婦人科学
10.	—	— 調整中 —			エイズ学Ⅰ

注意: 講義日時と場所は、講師などの都合によりしばしば変更されますので、事前に各研究室に配布されるセミナー案内及び医学教育部HPにより十分に確かめた上で受講して下さい。また、上記以外にもセミナーを追加する場合があります。

※医学教育部HP下部の「学生・教職員へのお知らせ」→「セミナーについて」のページ

(<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/kejiban/seminar.html>)

## 平成 27 年度名医に学ぶセミナー

●場所: 第 2 講義室(医学教育図書棟 3 階)

●時間: 17:30~ (原則として水曜日開催)

番号	実施日(予定)	講師氏名	演 題	勤務先及び職名	世話分野
1.	4 月 15 日(水)	いのうえ はるひさ 井上 治久	iPS 細胞を用いた神経科学研究	京都大学 iPS 細胞研究所 幹細胞医学分野 教授	幹細胞誘導学
2.	5 月 13 日(水)	すずき なお 鈴木 直	若年がん患者に対する妊孕性温存療法 の最新トピックス	聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 教授	産科婦人科学
3.	6 月 26 日(金)	おおつ あつし 大津 敦	がん治療における Translational Research の推進	国立がん研究センター 早期・探索医療センター センター長	免疫識別学
4.	7 月 15 日(水)	よつやなぎ ひし 四柳 宏	グローバル化時代のウイルス肝炎を 考える	東京大学大学院医学系研究科 生体防御感染症学 准教授	エイズ学Ⅲ
5.	9 月(予定)	おおとも やすひろ 大友 康裕	わが国の災害医療体制 現状と今後の 課題 -2つの大震災を経験して-	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 救急災害医学分野 教授	総合診療科学
6.	10 月 24 日(土) 13:00~	すえまつ まこと 末松 誠	日本医療研究開発機構のミッションと 課題	慶応義塾大学医学部 医化学教室 教授	分子遺伝学
7.	11 月(予定)	さわ よしき 澤 芳樹	心臓血管再生のトランスレーショナ ルリサーチ	大阪大学医学系研究科 心臓血管外科学 教授	病態生化学
8.	12 月 16 日(水)	たなか こういち 田中 紘一	生体肝移植	神戸国際フロンティアメディカルセンター 理事長	小児外科学・ 移植外科学
9.	1 月(予定)	みむら まさる 三村 将	認知症と高次脳機能障害の自転車 運転	慶応義塾大学医学部精神神経科学教室 教授	神経精神医学
10.	調整中	たまい かつと 玉井 克人	調整中	大阪大学大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座 教授	幹細胞誘導学

注意: 講義日時と場所は、講師などの都合によりしばしば変更されますので、事前に各研究室に配布されるセミナー案内及び医学教育部HPにより十分に確かめた上で受講して下さい。また、上記以外にもセミナーを追加する場合があります。

※医学教育部HP下部の「学生・教職員へのお知らせ」→「セミナーについて」のページ

(<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/keijiban/seminar.html>)

## C2 医科学セミナー（「医学・生命科学セミナー」および「名医に学ぶセミナー」）レポートの作成要領

2つのセミナーをあわせて8回以上聴講し、かつ、聴講したセミナー1つに関して、セミナー内容に関する1200～2000字程度のレポートを当該セミナーの世話分野の教授（代表者）に1ヶ月以内にEメールで提出してください。添付ファイルで提出する際には、受け取り側が開けない場合もありますので、メール本文中にも同じ内容を記載してください。なお、教員に提出するときは、必ず医学事務チーム教務担当（[iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)）宛にも送信してください。セミナーでは毎回、会場入口で出席票を配布しますので、日時と氏名などを記入のうえ必ず提出してください。

大学院医学教育部・医科学専攻(修士課程)

「医学・生命科学セミナー」、「名医に学ぶセミナー」レポート

受講生：学年	学生番号	所属分野	氏名
講演演題名：			
講師：			
講演日時：平成 年 月 日（ 曜）			
講演会場：			
レポート： 以下に1200～2000字程度のレポートを記載			

※ このレポート様式は、医学教育部 HP「学生・教職員へのお知らせ」→「セミナーについて」のページ（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/keijiban/seminar.html>）からダウンロードできます。



必修科目（16単位）

A 6 ~ A 7

A6医科学演習、A7医科学研究一覧

基礎医学系		ページ	外科系		ページ
1	形態構築学分野	37	46	消化器外科学分野	76
2	生体微細構築学分野	38	47	呼吸器外科学分野	77
3	脳回路構造学分野	39	48	心臓血管外科学分野	78
4	神経分化学分野	40	49	乳腺・内分泌外科学分野	79
5	知覚生理学分野	41	50	小児外科学・移植外科学分野	80
6	分子生理学分野	42	51	脳神経外科学分野	81
7	分子酵素化学分野	43	52	整形外科学分野	82
8	病態生化学分野	44	53	産科婦人科学分野	83,84
9	分子遺伝学分野	45	54	泌尿器科学分野	85
10	腫瘍医学分野	46	55	眼科学分野	86
11	機能病理学分野	47	56	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	87
12	細胞病理学分野	48	57	歯科口腔外科学分野	88
13	分子病理学分野	49	58	皮膚病態治療再建学分野	89
14	細胞情報薬理学分野	50	59	侵襲制御医学分野	90
15	生体機能薬理学分野	51	60	麻酔科学分野	91
16	微生物学分野	52	61	臨床国際協力学分野 ※5	-
17	免疫学分野	53			
18	免疫識別学分野	54		<b>発生医学研究所</b>	<b>ページ</b>
19	腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野 ※1	-	62	組織構築学分野	-
	<b>社会医学系</b>	<b>ページ</b>	63	分子細胞制御学分野	92
20	レギュラトリーサイエンス学分野 ※2	-	64	腎臓発生学分野	93
21	公衆衛生学分野	55	65	脳発生学分野	94
22	法医学分野	56	66	幹細胞誘導学分野	95
23	生命倫理学分野	57	67	損傷修復学分野	96
24	臨床倫理学分野	-	68	組織幹細胞学分野	97
25	臨床心理学分野	-	69	肝臓発生学分野	-
	<b>内科系</b>	<b>ページ</b>	70	多能性幹細胞学分野	-
26	呼吸器内科学分野	58	71	細胞医学分野	98
27	循環器内科学分野	59			
28	代謝内科学分野	60		<b>エイズ学研究センター</b>	<b>ページ</b>
29	腎臓内科学分野	61	72	エイズ学Ⅰ分野(滝口 雅文 教授)	99
30	消化器内科学分野	62	73	エイズ学Ⅱ分野(松下 修三 教授)	100
31	血液内科学分野	63	74	エイズ学Ⅲ分野(岡田 誠治 教授)	101
32	膠原病内科学分野	64	75	エイズ学Ⅳ分野(鈴 伸也 准教授)	102
33	感染免疫内科学分野	65	76	エイズ学Ⅴ分野(上野 貴将 准教授)	103
34	神経内科学分野	66	77	エイズ学Ⅵ分野	-
35	小児科学分野	67	78	エイズ学Ⅶ分野(有海 康雄 准教授)	104
36	臨床病態解析学	68	79	エイズ学Ⅷ分野	-
37	放射線診断学分野	69	80	エイズ学Ⅸ分野(岡 慎一 客員教授) ※6	-
38	放射線治療医学分野	70	81	エイズ学Ⅹ分野(瀧永 博之 客員教授) ※6	-
39	神経精神医学分野	71	82	エイズ学Ⅺ分野(俣野 哲朗 客員教授) ※7	-
40	総合診療科学分野	72	83	エイズ学Ⅻ分野(吉村 和久 客員准教授) ※7	-
41	保健医学分野	73	84	エイズ学Ⅼ分野(佐藤 賢文 准教授)	105
42	薬剤情報分析学分野	74			
43	医療情報医学分野	75		<b>生命資源研究・支援センター</b>	<b>ページ</b>
44	生体機能評価学分野 ※3	-	85	資源開発学分野	106
45	循環器先進医療学分野 ※4	-	86	バイオ情報学分野	107
			87	RI実験学分野	108
				<b>国際先端医学研究機構</b>	
			88	国際先端医学Ⅰ	109
			89	国際先端医学Ⅱ	110

備考: ページ数の記載がない分野については、指導教員が不在等により、開講していないことを示す。

※印の分野は、大学院連携講座の分野です。

※1.国立がん研究センター、※2.医薬品医療機器総合機構(PMDA)、※3.国立水俣病総合研究センター

※4.国立循環器病研究センター、※5.国立病院機構熊本医療センター、※6.国立国際医療研究センター

※7.国立感染症研究所

<b>授業科目：A6 医科学演習 形態構築学（必修 8単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：福田 孝一 開講年次及び時間：1年～2年 前期 水曜 1限 講義室：形態構築学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> さまざまな生理機能が個体の中で実現するためには、構造という場が必要である。形態と機能は本来不可分であり、形態学は生命を理解する上で本質的要素をなす。本科目では特に中枢神経系の形態構築に焦点を当て、脳の機能を考える上で欠かせない根幹的な構造（細胞構築、化学シナプス、ギャップ結合、樹状突起、スパイン等）を詳細に追究していく際に必要となる形態学的方法論を学ぶ。電子顕微鏡や共焦点レーザー顕微鏡による最新の形態学的成果、コンピューターによる三次元再構築・定量解析、stereology による unbiased morphometry などに関する英語文献を精読するとともに、関連する内容の講義や、手がけている実験に即した議論を行う。	
<b>【評価方法】</b> 医科学演習を履修した時間数、当該テーマに関連した文献の理解度、実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。	
<b>【成績評価基準】</b> (1) 英語で記載された形態学についての文献の理解度と批判的考察力 (2) 主要な形態学的方法論の原理と結果の解釈法についての理解度 (3) 自分が取り組んでいる研究課題が、関連する学問分野の現在および過去の成果の中に占める位置づけの理解度と説明力	

<b>授業科目：A7 医科学研究 形態構築学（必修 8単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：福田 孝一 開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 3限 講義室：形態構築学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な実験手技ならびに結果の解析方法を指導し、論文にまとめる能力の育成をはかる。電子顕微鏡や共焦点レーザー顕微鏡による高解像での解析に必要な標本作成技術を学び、各種顕微鏡の最高の精度を引き出す操作方法を会得し、さらに正確かつ洞察性に富む顕微鏡観察力を習得させる。得られた成果を発表する方法を指導する。	
<b>【評価方法】</b> 関連する実験手技の習得、結果の解釈の妥当性、成果発表の適切さにより評価する	
<b>【成績評価基準】</b> (1) 中枢神経系の形態構築を研究するための基本的実験手技を習得している (2) 得られた形態学的データを的確に解析できる (3) 取り組んだ研究の成果をレポートにまとめることができる	

授業科目：A6 医科学演習 生体微細構築学（必修8単位） 科目コード10060

担当教員：若山 友彦

開講年次及び時間：1年～2年、

講義室：原則として生体微細構築学分野のセミナー室、実験室で行う。

#### 【授業の内容】

組織学では、ヒトや実験動物の体の組織構造について研究する。生体を構成する様々な器官は、組織によって形づくられている。組織化学は、組織学研究における強力な実験手法である。組織化学により、組織切片上で様々な生理活性物質の発現と局在を可視化できる。酵素反応や抗原抗体反応、あるいは、核酸のハイブリダイゼーションを利用した様々な組織化学の原理と手技を学ぶ。さらに、こうした組織化学を利用した論文を読解することで、組織化学を利用した実験方法の理解を深める。

#### 【評価方法】

医科学演習を履修した時間数、当該テーマに関連した文献の理解度、口頭発表とレポートにより評価する。

#### 【成績評価基準】

- 1) 英語で書かれた文献の理解度
- 2) 組織化学の原理の理解度と手技の習得度

授業科目：A7 医科学研究 生体微細構築学（必修8単位） 科目コード10070

担当教員：若山 友彦

開講年次及び時間：1年～2年

講義室：原則として生体微細構築学分野のセミナー室、実験室で行う。

#### 【授業の内容】

医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な実験手技ならびに実験結果を解析する法を指導し、研究発表と論文にまとめる能力の育成をはかる。光学顕微鏡と電子顕微鏡レベルでの組織化学に必要な標本作製の方法を学び、各種顕微鏡による観察を通じて実験データを取得できるようになる。さらに、得られたデータをまとめて成果として学会や論文に発表する方法を指導する。

#### 【評価方法】

組織化学の実験手技の習得、得られた結果の判定および研究成果の発表により評価する

#### 【成績評価基準】

- 1) 種々の生理活性物質の発現と局在を解析するための組織化学の技術の習得
- 2) 実験により得られたデータの適切な解釈
- 3) 取り組んだ研究により得られた成果をレポートにまとめること。

授業科目：A6 医科学演習 脳回路構造学（必修 8 単位）

科目コード 10060

担当教員：玉巻伸章

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として脳回路構造学教室のセミナー室および実験室で行う。

#### 【授業の内容】

身体の全ての機能は、何らかの形で神経系の調節を受けて働いている。神経細胞は素子であり、機能は神経回路より生じる。神経回路を精査することにより回路からの機能発現にいたるメカニズムを探る努力は大切であるが、その基本構造を理解するためには、回路形成過程を観察することも重要である。本科目では、情報処理に働く神経回路メカニズムについて、発生段階と成熟脳での研究を通して得られた最新の知識に基づき授業を進める。

#### 【評価方法】

研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された神経発生、神経回路の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 神経発生、神経回路研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 神経発生、神経回路の未解決課題の解明にどのような解析法を利用すべきか理解している。
- 4) 神経発生、神経回路の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 脳回路構造学（必修 8 単位）

科目コード 10070

担当教員：玉巻伸章

開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 1限

講義室：原則として脳回路構造学教室のセミナー室および実験室で行う。

#### 【授業の内容】

医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、マウスなどの動物を対象とした神経発生と形成された神経回路構造を理解するための種々の実験手技の習得を指導する。習得された実験手技により得られた結果を基に、明らかになった回路とその回路より生じる機能の関係を解明する論理過程について指導する。

#### 【評価方法】

研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) マウスゲノタイピングとマウスラインの維持の手技を習得している。
- 2) 遺伝子操作したマウスの神経回路を調べる実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 神経回路を構成している神経細胞の発現遺伝子を調べる実験手技を習得して、その発現分子の役割を考察できる。
- 4) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案して実行している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 神経分化学（必修 8 単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード 10060</p> <p>担当教員：太田 訓正  開講年次及び時間：1 年～2 年 前期 木曜 2 時限  履修場所：原則として神経分化学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b></p> <p>神経系発生における細胞間相互作用、特に幹細胞維持と神経回路網形成に働く分子の発見経過やその機能を解析する方法論について、具体的に記述された一連の論文を取り上げ、医学・生物学全般の基礎的な知識にも言及しながら、徹底的に論文を読みこなすことにより、この分野がどのような研究によって発展してきたのかを演習する。次にこれらに関連する、細胞生物学、分子生物学、発生工学などの手法を駆使して解析する実験系を立案して、実際にこれらを研究する。その研究成果を論文にまとめるとともに、口頭で発表するための能力を身につけるように指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> ラボでのプロGRESS発表、研究成果の学会発表、論文発表</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>研究課題の立案、取り組み方、研究成果の質による。</p>

<p>授業科目：A7 医科学研究 神経分化学（必修 8 単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード 10070</p> <p>担当教員：太田 訓正  開講年次及び時間：1 年～4 年 通年 金曜 4 限  履修場所：原則として神経分化学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b></p> <p>ニワトリ胚の <i>in ovo</i> と <i>in vitro</i> での胚操作法、ニワトリ胚やマウス胚での電気穿孔法やレトロウイルスベクターを使用した遺伝子導入法の実習と、それらを用いた実験の表現型への影響を免疫組織化学や <i>in situ</i> ハイブリダイゼーションなどの組織学的手法により解析する実習を指導する。また、胚神経系からの神経細胞の初代培養法やモノクローナル抗体作成の実習も行う。  また、通常分子生物学的解析、生化学的な解析手法も指導する。</p>
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。  なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ニワトリ胚、マウス胚の発生過程について理解している。</li> <li>2) それぞれの実験方法の原理について理解している。</li> <li>3) それぞれの実験のトラブルシューティングを行える実力が有る。</li> </ol>

授業科目：A6 医科学演習 知覚生理学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：宋 文杰、竹本 誠、西村 方孝

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として知覚生理学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 外界感覚情報は神経信号へ変換された後に、神経回路によって処理され、知覚される。これらの一連の過程の分子・細胞・回路機構について、歴史上重要な文献を読解することと具体例の考察による演習を指導する。さらに、神経生理学における各種計測方法の原理と実際について理解するための演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、またはプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 知覚生理学の最新の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 知覚生理学研究における一般的な方法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 知覚生理学の研究課題に対応する分野における過去の重要な発見について理解し、研究のフロントを理解している。

授業科目：A7 医科学研究 知覚生理学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：宋 文杰、竹本 誠、西村 方孝

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として知覚生理学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、動物あるいはヒトを対象とした細胞神経生理学、システム神経生理学、心理物理学的な種々の実験手技の習得を指導する。これらを利用して聴覚系における音声情報の神経表現に関する研究を指導する。また、神経系における情報変換の細胞・分子機構に関する研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、またはプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記の項目に着目して行う。

- 1) 感覚情報処理の神経機構について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 2) 感覚情報処理の物質基盤について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 分子生理学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10060</p> <p>担当教員： 富澤 一仁  開講年次及び時間：1年～2年 前期 水曜 1限 未定  講義室：原則として分子生理学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 人体における恒常性維持機構の最新の知見について、人体を構成する分子、細胞、組織、器官、個体の各レベルで理解する能力を習得することを目的とした指導を行う。教室のセミナーや学会が主催する学会などに参加し研究内容について議論したり、分子生理学の研究論文を精読したりすることにより学習する。また、分子生理学研究に必要な基礎的技術、技能をその理論と共に習得することにより、分子生理学研究を遂行する上で必要な基礎的知識と技能を習得する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>面談ならびにレポートの評価は、下記の項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 最新の分子生理学の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 生理学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 生理学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。</li> <li>4) 生理学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 分子生理学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10070</p> <p>担当教員： 富澤 一仁  開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限 未定  講義室：原則として分子生理学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、マウス・ラットなどの動物を対象とした生理学的実験手技ならびに培養細胞を用いた分子イメージング法など分子生理学の実験手技の習得を目標とした指導を行う。これら実験手技を利用して、ホルモンや神経伝達物質の放出制御機構の解明に関する基礎研究、あるいは糖尿病治療薬の開発に関する応用研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ホルモンや神経伝達物質の分泌機構の解明に必要な生理学的実験手技を習得し、研究が遂行できている。</li> <li>2) 糖尿病治療薬の開発に関する応用研究に必要な実験手技を習得し、研究が遂行できている。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>



<b>授業科目：A6 医科学演習 分子酵素化学（必修 8 単位）</b> <span style="float: right;"><b>科目コード10060</b></span>
担当教員：野見山 尚之 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則として分子酵素化学教室のセミナー室および実験室で行う。
<b>【授業の内容】</b> 酵素の反応機構を、タンパク質の立体構造学的見地から解説させる演習を行う。具体的には、補酵素依存性で、三次元構造の解明された酵素を課題として与え、補酵素、基質のそれぞれの活性化機構や酵素の機能発現に適正なタンパク質-補酵素-基質ネットワークの相互配置を三次元構造に基づいて解説させる。
<b>【評価方法】</b> レポートにより評価する。
<b>【成績評価基準】</b> レポートは、提示される課題に対して作製する。レポートの評価基準は、(1) 提示された課題に関して十分な考察がなされているか、(2) 全体としての論理性、である。

<b>授業科目：A7 医科学研究 分子酵素化学（必修 8 単位）</b> <span style="float: right;"><b>科目コード10070</b></span>
担当教員：野見山 尚之 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限 講義室：原則として分子酵素化学教室のセミナー室および実験室で行う。
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な実験手技・理論的思考の習得を指導する。フラビン分子種を補酵素とする酵素群を研究対象に選び、その触媒能力を意のままに制御、選択することによって、目的に応じた反応を触媒する新規な酵素を設計、作製する。まず、対象酵素の三次元構造や反応機構に基づいて触媒作用の作動原理を理解し、タンパク質工学的手法を用いて新規な反応を触媒する改変酵素分子を作製する。得られた成果を論文として発表する。
<b>【評価方法】</b> 研究の実施状況と提出論文の内容を総合的に判断する。
<b>【成績評価基準】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 変異酵素の作製、酵素学的解析などに必要な基本的手技を習得している。</li> <li>(2) 酵素の触媒機構を立体構造学的に理解できる。</li> <li>(3) 実験計画の立案、実行および結果に対する考察が適正になされている。</li> </ol>

<p>授業科目：A6 医科学演習 病態生化学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10060</p> <p>担当教員：山縣 和也、吉澤 達也  開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 4限  講義室：原則として病態生化学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 最近の糖脂質代謝・糖尿病・心血管病学の進展について演習を指導する。論文の背景を理解し、仮説の設定の妥当性・方法論の理解・結果の解釈などについて議論を行うことで総合的な理解を深める。適時、講義形式による解説を行いながら論文を批判的に読む能力を習得できるよう指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 論文の理解と批判の能力、レポート等を総合的に評価する。なお論文発表、学会発表などをもってレポートに替える場合がある。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、下記の項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 代謝・糖尿病・心血管病学における英文の文献を読解し、過去の重要な発見について理解している。</li> <li>2) 代謝学における一般的な生化学研究法について理解する。</li> <li>3) 代謝学における文献を批判的に読む能力を習得している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 病態生化学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10070</p> <p>担当教員：山縣 和也、吉澤 達也  開講年次及び時間：1年～2年 通年 金曜 4限  講義室：原則として病態生化学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 培養細胞やマウスなどの動物を用いて生化学、細胞生物学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これらの手技を用いて糖・脂質代謝制御機構や糖尿病・メタボリックシンドローム・心血管病の発症機構に関する研究の指導を行う。得られた研究成果について口頭発表を行うと共に文書としてまとめるための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および研究成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。論文、学会発表等をもってレポートに替える場合がある。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 代謝学研究における、種々の解析方法を習得している。</li> <li>2) 代謝学に関する研究課題に対して適切な研究計画を立案し研究を実行している。</li> <li>3) 代謝学・糖尿病学に関連する新たな知見を得ている。</li> </ol>

<p>授業科目：A6 医科学演習 分子遺伝学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10060</p> <p>担当教員：尾池 雄一、寺田 和豊、遠藤 元誉、門松 毅、宮田 敬士  開講年次及び時間：1 年～2 年 前期 火曜 1 限  講義室：原則として医学総合研究棟 8 階会議室(801 室)または基礎セミナー室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 主に、遺伝病、代謝異常、ストレス応答、分子シャペロン、アポトーシスに関する因子について、遺伝子産物の機能や発現調節機構を解析する方法論の理解を目指した演習を行う。具体的には、これらの方法を用いた研究論文を精読することで、実験方法や結果の妥当性について判断する能力を習得できるように指導する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究論文の実験方法や結果の妥当性などに関して議論し、研究論文を正しく理解する能力を身につけているか評価する。また、レポート提出も考慮し、総合的に評価する。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で書かれた分子遺伝学に関連する研究論文を理解する能力を習得している。</li> <li>2) DNA、RNA、タンパク質を扱う種々の実験法の原理を理解している。</li> <li>3) 遺伝子の機能解析法を理解している。</li> <li>4) 疾患原因遺伝子の同定方法を理解している。</li> <li>5) 疾患の病態を解析するための分子遺伝学的手法を理解している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 分子遺伝学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10070</p> <p>担当教員：尾池 雄一、寺田 和豊、遠藤 元誉、門松 毅、宮田 敬士  開講年次及び時間：1 年～2 年 通年 月曜 1 限  講義室：原則として分子遺伝学教室の教員室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 分子遺伝学に関連する研究を実施するために必要な種々の実験方法（分子生物学・細胞生物学・生化学・組織化学的な実験方法を含む）の習得を目標とした指導を行う。主に、代謝異常・ストレス応答・タンパク質品質管理・アポトーシスなどに関する遺伝子産物の機能解析を指導する。また、上記の解析結果を、口頭発表するための指導、および、研究論文としてまとめるための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 実験手技の習得状況、実験成果に関する口頭発表やレポート等の内容を考慮して総合的に評価する。なお、論文、学会発表、ラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもって、レポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分子遺伝学的研究を実施するために必要な実験方法を習得している。</li> <li>2) 設定された研究課題に関して、実験計画を立てて実施できる。</li> <li>3) 実験結果に関して、口頭発表、レポート作製、論文作製などを行うことができる。</li> <li>4) 研究成果として、新規の知見を得ている。</li> </ol>

<p>授業科目：A6 医科学演習 腫瘍医学（必修 8 単位）</p> <p>担当教員：荒木令江 開講年次及び時間：1 年～2 年 前期 金曜 1 限 講義室：原則として腫瘍医学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>	<p>科目コード 10060</p>
<p>【授業の内容】正常細胞と癌細胞およびその幹細胞が持つ性質の違いについて解析するための細胞生物学的及び生化学的実験手法、ならびに遺伝子導入や遺伝子やタンパク質の特異的不活化を行うための分子生物学的方法論について具体例が示された論文を取り上げ、実際の研究がどのような背景と仮説と目的と方法をもって行われ、また得られた結果からいかなる考察が行われているかについての演習を指導する。</p>	
<p>【評価方法】 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>	
<p>【成績評価基準】</p> <p>演習の出席率が 75%以上の者にレポートによる試験を行う。 演習は、インターネット等のメディアを利用したものを含む。 レポートは以下の項目について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 正常細胞と癌細胞およびその幹細胞が持つ性質の違いについて解析するための細胞生物学的実験手法について理解している。</li> <li>2) 正常細胞と癌細胞およびその幹細胞が持つ性質の違いについて解析するための生化学的・分子生物学的実験手法について理解している。</li> <li>3) 遺伝子導入や遺伝子の特異的不活化を行うための分子遺伝学的方法について理解している。</li> <li>4) 世界的に高いレベルの論文について、実際の研究の背景と仮説と目的と方法を理解し、また得られた結果からいかなる考察が行われているかについて理解している。</li> </ol>	
<p>授業科目：A7 医科学研究 腫瘍医学（必修 8 単位）</p> <p>担当教員：荒木令江 開講年次及び時間：1 年～2 年 通年 月曜 1 限 講義室：原則として腫瘍医学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>	<p>科目コード 10070</p>
<p>【授業の内容】細胞周期を制御する分子の働きについて、癌細胞、癌幹細胞と正常細胞を用いて解析する。その解析結果で特定の制御分子が癌細胞において異常であった場合、正常細胞においてその分子を過剰に発現させた場合、あるいは不活化した場合に生じる細胞変化を詳細に解析し、その分子と発癌あるいは悪性化との関連を明らかにする。得られた結果を考察して論文にまとめるとともに口頭で発表するための指導を行う。</p>	
<p>【評価方法】 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>	
<p>【成績評価基準】</p> <p>演習の出席率が 75%以上の者にレポートによる試験を行う。 レポートは以下の項目について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 癌細胞およびその幹細胞と正常細胞を用いて、細胞周期、分化、死を制御する分子群の働きの比較解析する細胞生物学的、分子生物学的、生化学的方法論について習得している。</li> <li>2) 特定の腫瘍細胞異常制御分子が同定された場合、正常細胞においてその分子を過剰に発現させる、あるいは不活化した際に生じる細胞変化と分子機能変化を詳細に解析する実験方法について習得している。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。</li> <li>4) 腫瘍細胞の細胞機能や異常分子機構に関して新たな知見を得ている。</li> </ol>	

<p>授業科目：A6 医科学演習 機能病理学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10060</p> <p>担当教員：伊藤隆明、長谷川功紀、新森加納子  開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 3限  講義室：原則として機能病理教室のセミナー室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 分子生物学、細胞生物学、発生生物学、病理学および腫瘍学などの分野の最近のインパクトのある論文を取り上げ、いかなる解析手法が有効かを学ぶ。この際、分子生物学的な手法のみならず、形態学的なアプローチも含めた多面的な解析の重要性を理解してもらう。この演習を通して、種々の病態解析を行う際にダイナミックな病理学的検索手法を立案できる企画力を養いたい。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 担当した論文数、発表内容、理解度、他人の発表への質疑応答などを評価の対象とする。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語論文を、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 一般的な実験手技とその結果の解釈について習熟している。</li> <li>3) 組織標本の解釈に慣れ親しむ。</li> <li>4) 各種上皮細胞、造血細胞などの細胞系譜、増殖・分化調整機構について習熟している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 機能病理学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10070</p> <p>担当教員：伊藤隆明、長谷川功紀、新森加納子  開講年次及び時間：1年～2年 通年 月、火曜 1限  講義室：原則として機能病理学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 主として肺の上皮細胞や肺癌細胞を対象として（必要や希望に応じて、他の組織系を対象とする事も出来る）、正常および腫瘍での増殖・分化調節機構の分子メカニズムの一端を明らかにする。この為には、培養細胞、発生期の組織、遺伝子改変マウス、ヒト組織などを用いて、増殖・分化に関わる転写制御機構、細胞内伝達機構、細胞の形質や増殖能の変化、形態形成、上皮-間充織相互作用、組織幹細胞の動態、組織像などに注目して、分子論から組織学まで含めた多面的な解析を行う。得られた結果については、常時研究室内で討論するとともに、学会発表ならびに論文発表の指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する発表により評価する。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>評価は、各自の研究課題に対応して、日常の討論や月2回のプログレスレポートを通じて、下記の項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究の対象である上皮細胞、造血細胞、間葉細胞などに関する病理学的、細胞生物学的な知識があり、またこれらの研究に使われている実験方法などを理解している。</li> <li>2) 上皮細胞、造血細胞、間葉細胞などの増殖・分化機構に関して適切な研究課題を設定し、その研究目的、結果を得るための方法などを理解し試みている。</li> <li>3) 病理学の基本的な事象に関しての、機構解析をするような研究課題を設定し、新たな研究手法でアプローチしている。</li> </ol>

授業科目：A6 医科学演習 細胞病理学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：竹屋 元裕、菰原 義弘、藤原 章雄

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として細胞病理学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 疾病の病態を系統的に解析した論文をとりあげ、病理学的手法に基づく疾病の解析方法とその解釈法を学ぶ。その過程で疾病の原因と成り立ちを明らかにするには、どのような解析方法が最も有効であるかを議論する。さらに、光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いた形態学的観察手法とともに、免疫染色法や in situ hybridization 法などの組織切片上で蛋白質や遺伝子の発現レベルを解析する方法について、原理や手技を理解するための演習を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された病理学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 病理学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 病理学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 病理学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 細胞病理学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：竹屋 元裕、菰原 義弘、藤原 章雄

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として細胞病理学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために最適な実験計画立案法を学ぶ。種々のヒト疾患の解析に必要な試料の採取法、あるいは実験動物における疾病モデルの作成法を習得する。これらの研究材料を対象として、基本的な病理形態学的ならびに分子細胞病理学的な解析手法を学ぶ。特に種々の疾患形成におけるマクロファージの役割解明と、その機能制御に基づいた治療法開発の発案法を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 疾病解析のために適切な実験計画を立案できる。
- 2) 疾病解析に必要な基本的な病理学的解析方法を習得している。
- 3) 病理学的解析で得られたデータを適切に評価できる。
- 4) 得られたデータについて従来の知見を比較検討し、適切な考察を加えて発表できる。

授業科目： A6 医科学演習 分子病理学 (必修 8 単位) 科目コード 10060

担当教員：今村 隆寿

開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 3限

講義室：原則として分子病理学分野のセミナー室で行う。

【授業の内容】血液凝固反応と炎症・免疫反応、その関連性を学ばせる。プロテアーゼの種類や機能の知識を基盤に宿主タンパク質との相互作用による病原作用を学習させる。癌の性質や生体物質による機能修飾について基礎的な知識を修得させる。最新の知識を、主として国際雑誌の文献から習得させる事により、実際の研究がどのように展開されるのかを学習させる。国際雑誌に投稿する論文や学位論文の書き方、学会でのプレゼンテーションを学ぶ。

【評価方法】文献の読解力や他者に対する説明力の進歩の状態、およびレポートの内容などにより総合的に判定する。学会発表や論文発表の有無も評価の対象とする。

【成績評価基準】

文献の理解力やレポートの内容についての評価は以下の基準により行う。

- 1) 血液凝固反応とその制御の基本原則、病態との関わりを理解している。
- 2) 炎症や免疫に関わる分子や分子間相互作用の解析法について、現時点における最新の知識を習得している。
- 3) プロテアーゼの種類や機能、病原作用を理解している。
- 4) 癌に関する基礎的な知識がある。

授業科目： A7 医科学研究 分子病理学 (必修 8 単位) 科目コード 10070

担当教員：今村 隆寿

開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 3限

場所：原則として分子病理学分野のセミナー室および実験室で行う。

【授業の内容】血液凝固反応がカスケード反応によって進行し、様々な分子や細胞によって修飾される事、プロテアーゼが血漿や細胞膜のタンパク質に作用して機能亢進や消失を誘導し、様々な病態を引き起こすことを理解させると共に、血液、細胞、プロテアーゼを使った実験によりこれらの現象を体験させる。また、癌における受容体や微小環境に存在する分子の重要性を細胞や動物を使って認識させる。さらに、その過程で自らが行った研究を論文にまとめて発表することの重要性や手法に関して指導する。

【評価方法】総合的な研究遂行能力の獲得状況を評価する。学会発表や論文発表に関しても重視する。

【成績評価基準】

レポートによる試験を行う。ただし、レポートは、学位論文、筆頭著者論文、あるいは全国学会での発表によって代えることができるものとする。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 血液凝固反応、プロテアーゼ機能、癌を観察する実験方法を習得している。
- 2) 血液凝固反応、プロテアーゼの病原作用、癌の解析の適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。
- 4) 血液凝固反応やプロテアーゼ反応、癌に関して新たな知見を得ている。

<p>授業科目：A6 医科学演習 細胞情報薬理学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10060</p> <p>担当教員：中西 宏之、梅田 一彰、菊池 浩二、坂本 泰久  開講年次及び時間：1年～2年 前期 水曜 1限  講義室：原則として細胞情報学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 細胞の運動、接着、分裂、エンドサイトーシス、極性形成等の重要な細胞機能の制御機構とそれに関わる分子の同定、これら細胞機能の基本原則としての細胞骨格と形質膜の協調メカニズムについて、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに細胞骨格と形質膜変形の解析方法と制御分子の同定方法に関する古典的な手法、ならびに近年開発された最新の手法について理解するための演習を指導する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞の運動、接着、分裂、エンドサイトーシス、極性形成の制御機構について理解している。</li> <li>2) 細胞骨格と形質膜変形の協調作用について理解している。</li> <li>3) 細胞骨格や形質膜変形を解析するための生化学・細胞生物学的手法について理解している。</li> <li>4) 細胞骨格や形質膜変形の制御機構における、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 細胞情報薬理学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10070</p> <p>担当教員：中西 宏之、梅田 一彰、菊池 浩二、坂本 泰久  開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限  講義室：原則として細胞情報薬理学教室のセミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、生化学、分子生物学、細胞生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して細胞骨格や形質膜変形に関わる新たな分子の単離・同定を行い、その分子がどのように細胞骨格と細胞膜変形を制御しているのか、さらにどのように細胞の運動、接着、分裂、エンドサイトーシス、極性形成と関わっているのを解析するよう指導する。また、この分子と既知の細胞骨格や形質膜変形の制御分子との関連の解明について指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞骨格と形質膜変形について、生化学・細胞生物学の実験方法について習得している</li> <li>2) 細胞の運動・接着・分裂・エンドサイトーシス・極性形成に関する適切な研究課題を設定している。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> <li>4) 細胞の運動・接着・分裂・エンドサイトーシス・極性形成に関する新たな知見を得ている</li> </ol>



授業科目：A6 医科学演習 生体機能薬理学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：光山勝慶、頼仲方一、鯉淵信孝、長谷川雄

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として生体機能薬理学教室のセミナー室および実験室で行う。

#### 【授業の内容】

細胞内シグナル伝達分子の解析方法、循環機能解析方法を中心に、薬物の薬理作用解析の方法論について実践的な演習を行う。さらに、これらの方法を用いて行なわれた、病態モデル動物や遺伝子改変動物での機能病態解析や薬物治療の研究に関する論文をとりあげ、研究上の戦略と要求される実験データ、実験プロトコールについての演習を行なう。

【評価方法】 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 細胞内シグナル伝達分子の測定方法について理解している。
- 2) 遺伝子発現の測定方法について理解している。
- 3) 遺伝子改変動物の研究面での有用性について理解している。
- 4) 個体レベルでの循環動態パラメーター測定方法について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 生体機能薬理学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：光山勝慶、頼仲方一、鯉淵信孝、長谷川雄

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として生体機能薬理学教室のセミナー室および実験室で行う。

#### 【授業の内容】

高血圧などの生活習慣病、循環器疾患の分子機構について、細胞内シグナル伝達分子レベルでの解明を行う。また、薬物治療は病気の治療法として最も中心的な位置付けにあるが、循環器疾患モデル動物を用いて循環器薬の薬理作用の解析、適切な薬物療法戦略に関する研究指導も行う。

【評価方法】 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートによる試験を行う。

学会等での研究報告をもってレポートに替えることができる。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 薬剤の投薬方法について理解している。
- 2) 循環器疾患における薬物の薬理作用を明らかにするための適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。
- 4) 循環器疾患における薬物の薬理作用に関して新たな知見を得ている。

<b>授業科目：A6 医科学演習 微生物学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：澤 智裕、前田 洋助 開講年次及び時間：1年～2年 講義室：原則として微生物学分野のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 微生物の病原性発現メカニズムについて、個々の病原体による宿主応答の解析法を習得する。例えば、病原細菌が産生するプロテアーゼや外毒素、内毒素による宿主に対する生物効果を病原性発現の視点から解析する。また、宿主の生体防御応答について、生体内の活性酸素や NO などによる防御シグナル機構に焦点をあて理解を深める。なお、本演習においては、微生物の標的細胞や感染防御担当細胞における生体防御のシグナル伝達に関わる分子の同定と解析方法について最新の論文を参考にしながらその原理と技法を演習する。	
<b>【評価方法】</b> 本演習において教員から提示された理論と技術に関する研究テーマについて関連した著書や論文から得られる知識・技術の理解と応用能力を口頭発表・質疑応答とレポート等により総合的に評価する。論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおける研究成果報告等も評価の参考にする。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価にあつては以下の項目を主たる達成基準とする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 微生物の病原性と感染防御について理解する能力を習得している。</li> <li>2) 病原微生物学および感染防御学研究における解析技術の原理と応用を理解・習得している。</li> <li>3) 生体防御機構におけるシグナル機構について関連した生体分子の機能を理解し、その同定・解析方法を習得している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 微生物学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：澤 智裕、前田 洋助 開講年次及び時間：1年～2年 講義室：原則として微生物学分野のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて習得した病原微生物学および生体防御学に関連する理論と技術を用いて各種感染モデル系において実際の解析を行う。その際、実験の立案、解析方法の策定、また得られた結果の分析、解釈と考察など全てのプロセスについて研究指導をおこなう。さらに、研究成果に関する論文作成・発表を行うとともに口頭発表などの指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 医科学研究における作業仮説の設定とその証明のための解析方法の妥当性および実験結果の解釈および成果に関する口頭発表・質疑応答とレポート等により総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおける研究成果報告等も評価の参考にする。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価にあつては以下の項目を主たる達成基準とする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種感染モデル系の作製に習熟しそのモデル解析のための適正な技術を習得している。</li> <li>2) 感染モデルの病態解明について新規性のある研究成果を得ている。</li> <li>3) 生体防御応答の解析に必要な知識・理論と基礎技術に習熟している。</li> <li>4) 宿主の感染防御シグナル系に関して新規性のある成果を得ている。</li> <li>5) 適切に設定された研究テーマと実験方法によって研究が適正に実施され、その結果に関する優れた論文作成と成果発表が行われている。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 免疫学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：前田 和彦、北島 正大

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として免疫学分野の教官資料室で行う（受講者数により適宜連絡する）。

**【授業の内容】** 免疫反応をより強化する新しい免疫制御技術を開発し、実際の医学・医療へ応用するにあたって必要な原理、方法、技術を獲得するために利用される変異細胞と変異個体の解析法について演習する。獲得免疫反応、特に液性免疫に関与する細胞の遺伝子やタンパク質の改変技術により生み出される免疫系の動的反応の破綻や異常、臨床疾病との対比から導き出される病理学的変化や免疫学的機能異常、更には、生体防御の包括的制御に関する論文検討により、分子確認型の能動的免疫学理論を演習する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

医科学演習の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) フローサイトメトリーによる細胞表面染色の有用性とその応用について理解している。
- 2) モノクローナル抗体作成方法について理解している。
- 3) 免疫現象を理解するための遺伝子改変マウスの作成について理解している。
- 4) リンパ組織を用いた免疫組織化学の有用性について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 免疫学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：前田 和彦、北島 正大

開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 1限

講義室：原則として免疫学分野の教官資料室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 免疫応答の破綻から生じるさまざまな疾病、特に自己免疫疾患における発症原因や病態関連因子について、免疫理論を深化させる。あるいは生体防御の制御技術を開発して疾患治療を可能とするための研究内容を設定して、実験と論文検索を行うとともに、実行した研究の成果を取りまとめ、文書として発表を行うための指導をする。研究課題を選別しその評価を的確に行うと共に、実際の研究計画の策定、実験の遂行、成果の取りまとめ、統計学的な検定を行う等、理論的に研究を実践することのできる能力の開発を目的とする。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

医科学研究の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。

学会等での研究報告をもってレポートに替えることができる。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 免疫系に関する基礎的な細胞学的・分子生物学的実験方法について習得している。
- 2) 自己免疫疾患の発症原因について理解している。
- 3) 獲得免疫制御機構に関して適切な研究課題を設定している。
- 4) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。

授業科目：A6 医科学演習 免疫識別学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：西村 泰治、千住 覚、入江 厚、粟井 博文

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として免疫識別学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 近年の免疫学における重要な現象の発見の経緯、その現象の発生機序に関する仮説の設定と、免疫系を構成する細胞群および免疫制御に関わる種々の分子の同定などに基づく仮説の検証の経緯について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに、免疫現象の解析方法と機能分子の同定方法に関する古典的な手法、ならびに近年開発された最新の手法について理解するための演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された免疫学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 免疫学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 免疫学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 免疫学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 免疫識別学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：西村 泰治、千住 覚、入江 厚、粟井 博文

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として免疫識別学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした細胞免疫学、生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して免疫系のTリンパ球による抗原の認識機構と、その後の免疫応答を解析する方法の確立を通じた、感染免疫、自己免疫、抗腫瘍免疫現象の解明について指導する。また抗原提示細胞による免疫応答の制御に関する基礎研究、あるいは抗原提示細胞を用いた免疫抑制または免疫増強療法の開発に関わる応用研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 免疫系による抗原処理と抗原識別について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 2) 免疫系が識別する抗原と、免疫系の抗原認識後の応答について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 免疫応答の制御法の開発に関わる基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けて実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

<b>授業科目：</b> A6 医科学演習 公衆衛生学（必修 8 単位）	<b>時間割コード</b> 10060
<b>担当教員：</b> 加藤貴彦、北野隆雄、宮崎 航、久田文 <b>開講年次及び時間：</b> 1年～2年 前期 金曜 1限 <b>講義室：</b> 原則として公衆衛生・医療科学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 公衆衛生・医療科学の広範な領域のうち、修士としての素養に必要な専門領域に焦点を当て、演習を実施する。特に、我が国の国民保健の現状と課題、悪性腫瘍や循環器・呼吸器疾患に対する要因探求のための疫学的解析と予防医学的アプローチについて演習を行う。また、Evidences Based Medicine (EBM)の技法の修得し、公衆衛生に関する国際的な潮流への理解と我が国への適用についても考究する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポートをもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポート評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 1) 英語で記載された公衆衛生・医療科学の研究成果について、理解する能力を習得している。 2) 疫学的研究について、その理論と結果の解釈について理解している。 3) 公衆衛生・医療科学の研究課題に関して、そのような研究方法を利用できるかについて理解している。 4) 公衆衛生・医療科学の研究課題に関連した過去の知見について理解している。	

<b>授業科目：</b> A7 医科学研究 公衆衛生学（必修 8 単位）	<b>時間割コード</b> 10070
<b>担当教員：</b> 加藤貴彦、北野隆雄、宮崎 航、久田文 <b>開講年次及び時間：</b> 1年～2年 通年 月曜 1限 <b>講義室：</b> 原則として公衆衛生・医療科学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて、設定した研究課題を解決するために必要な疫学的方法論、分子生物学の基礎的技術、分析技術を習得する。そして、実際の研究を通じ、医学の社会的適用、医学と社会との関わりに関する理念、観察力、実践の手法を修得する。以上の研究成果を論文にまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連したを研究方法、実験技術の習得、研究結果の解釈及び成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポートをもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> 1) 学術論文の読み方、疫学的方法論、分子生物学の基礎知識等について理解している。 2) 生活習慣病に関する疫学研究の文献調査を行い、現状を把握し、最新の知識を習得している。 3) 分子生物学、分析に関する基本的な手技を習得し、新しい研究成果を得ている。 4) 設定した研究テーマに関連した研究方法を習得し、適切な実験計画を立案し実行している。	

<b>授業科目：A6 医科学演習 法医学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：西谷陽子、米満孝聖、笹尾亜子 開講年次及び時間：1年～2年 前期 水曜 1限 講義室：原則として法医学分野のセミナー室および法医解剖室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 社会医学としての法医学の重要性に関連して、様々な異状死事例の法医学的解析について、実際の法医解剖例をモデルとした演習を指導する。特に、アルコール、交通安全、薬物乱用、子どもの虐待、自殺などについて、我が国における現状と課題に対して医学領域の専門家として実際にどの様に取り組むべきかを各種の報告書や論文を参考にして演習する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは医局会での発表をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会医学としての法医学の重要性について理解している。</li> <li>2) 異状死の現状について理解している。</li> <li>3) 英語で記載された法医学関連領域の研究成果について理解する能力を習得している。</li> <li>4) 研究に必要なデータの収集法および解析法について理解している。</li> <li>5) 研究に関連する分野における、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 法医学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：西谷陽子、米満孝聖、笹尾亜子 開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 2限 講義室：原則として法医学分野のセミナー室、実験室および法医解剖室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題に応じて、それを解決するために必要な種々の実験手技（法病理学的、法中毒学的および疫学的）の習得を指導する。それらを利用して異状死等の法医学的な解析法について指導を行い、研究課題を解決するための研究を指導する。得られた研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは医局会での発表をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 異状死の社会医学的解析のために必要な実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。</li> <li>2) 法医学が関連する様々な領域における社会問題、例えば交通安全、薬物乱用、子どもの虐待、自殺などについて正しく理解し、それらの解決に貢献するための法医学的な研究を考案できる。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> <li>4) 得られた研究成果を学会などでの的確に発表できる。</li> </ol>	

<p>授業科目：A6 医科学演習 生命倫理学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10060</p> <p>担当教員：門岡 康弘 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則として生命倫理学教室の研究室で行う</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 生命倫理学の方法論には、次の2種類がある。  (1) 倫理学、政治哲学、法学、文化人類学などの理論的考察を深め、議論を進めていく方法  (2) 研究対象者からデータを収集し、その量的または質的な解析を行う実証的研究の方法  本科目では、医療実践、人間の生と死、先端医療、医学研究や生命科学などがもたらす倫理的諸課題を扱った代表的論文を選び、演習を通して、上記の二つの方法論の統合をはかり、理解を深める。そして自ら研究テーマを見つけ、研究計画を立案し、学会発表および論文作成につなげる。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 担当教員が配布する資料、自らの研究テーマに関連した著書や論文に対する理解や批判の能力、ならびに研究の立案、研究結果の解釈および成果に関する発表等を総合的に評価する。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b>  評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。  1) 学術誌において行われている主要な議論をよく理解している  2) 生命倫理領域の問題と議論に精通する  3) 各自の研究テーマに関わる研究結果を広く深く理解する  4) 英語による議論、発表、執筆が行える  5) 自らが行った一連の研究または考察を適切にまとめる</p>

<p>授業科目：A7 医科学研究 生命倫理学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10070</p> <p>担当教員：門岡 康弘 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限 講義室：原則として生命倫理学教室の研究室で行う</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 生命医療倫理学における諸課題の中心に位置する個人・患者の自己決定、利益、個人と社会の関係、および倫理と法の関係は多様である。その背景には、個々人のパーソナリティ、人生観、死生観、人間関係による差異などが存在し、生命倫理的課題に対する見解の違いと倫理の普遍化の問題を生んでいる。こうした課題について記述倫理領域の実証的調査を行い、論文として発表するための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 調査手法の習得、データ解析、考察の技術、研究発表や成果報告により評価を行う。なお論文および学会発表をもって成果報告に替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b>  成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う  1) 生命倫理学領域問題に関する文献調査を行い、未解決の問題を発見し研究課題を設定できる  2) 設定した課題を解決するための研究計画を立案できる  3) 立案した計画に従い研究を遂行できる  4) 研究結果の意義を深く考察し、研究成果をまとめ学会で発表を行い、論文を執筆できる</p>

授業科目：A6 医科学演習 呼吸器内科学（必修 8 単位）

科目コード：10060

担当教員：興梠 博次、藤井 一彦、一安 秀範、岡本 真一郎、廣佐古 進、小嶋 圭介、佐伯 祥

開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 3時限

講義室：原則として呼吸器内科学教室及び実験室、総研で行う。

**【授業の内容】** 気道・肺の炎症発生機構を、免疫学・アレルギー学的な観点、感染の観点から研究し、臨床病態のデータをまとめ、治療への応用を試みる。肺癌の発症機構を遺伝子の面から解析する。呼吸器肺細胞の機能を解析するための方法論として、免疫学的、遺伝子学的、分子生物学的手法の具体例が示された論文を取り上げて炎症性肺疾患の気管支肺胞洗浄、肺生検材料を用いた病態解析、肺癌組織、癌細胞を用いた発癌、進展機構の研究の展開を演習し、疾患の問題点を実際に検証する。また、疾患モデル作成および気道炎症病態解析のための具体的方法が示された論文を取り上げて、目的とする病態解析のためのモデル作成の実験計画を立てて実際にこれらを検証する。呼吸器疾患の病態を解析するために病態の発症機序を予測して、その機序を制御することを立案し、治療への応用を研究する。以上の研究成果を報告書にまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】**

研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 病理組織染色および診断法について習得し、さらに新しい研究成果を得ている。
- 2) 免疫組織染色および診断法について習得し、さらに新しい研究成果を得ている。
- 3) 病態モデルあるいは生検組織を解析する染色体・細胞学的手法について習得し、さらに新しい研究成果を得ている。
- 4) 病態の成り立ちを多面的に考察して論じ、文書で報告できるとともに、設定した研究テーマに関連した従来の知識を文献等の学習により習得しており、適切な実験計画を立案し実行している。

授業科目：A7 医科学研究 呼吸器内科学（必修 8 単位）

科目コード：10070

担当教員：興梠 博次、藤井 一彦、一安 秀範、岡本 真一郎、小嶋 圭介、佐伯 祥

開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 3時限

履修場所：原則として呼吸器内科学教室及び実験室、総研で行う。

**【授業の内容】**

気道・肺の炎症発生機構を、免疫学・アレルギー学的な観点、感染の観点から研究し、臨床病態のデータをまとめ、治療への応用を試みる。肺癌の発症機構を遺伝子の面から解析する。呼吸器感染症・ARDS・急性肺障害においては、臨床診断と治療のためのプロトコールをまとめ臨床に応用する。間質性肺炎においては、胞隔炎から線維化に至る肺のリモデリングの分子生物学的機構について、肺細胞および炎症細胞とサイトカインによる炎症の発症・制御・増幅機構の解析を行なう。これらの研究にて得られた結果を報告書にまとめて発表することについての指導を行なう。

**【評価方法】**

実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。なお報告書、論文、学会発表、あるいは研究ミーティングにおけるリサーチプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 病理組織染色および診断法について習得している。
- 2) 免疫組織染色および診断法について習得している。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行し問題点と発展領域を論じることができる。
- 4) 病態の成り立ちを多面的に考察し、報告書、論文として報告できる。



授業科目：A6 医科学演習 循環器内科学（必修 8 単位）

科目コード 10060

担当教員：小川 久雄、掃本 誠治、海北 幸一

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2時限

講義室：講義は、受講者数により適宜連絡し、実験は、医局内の実験室を中心に行う。

**【授業の内容】** 急性冠症候群にかかわる可能性のある凝固・線溶系因子を列挙し、その相互関係について文献的考察を行う。また、日本人の急性冠症候群における治療のエビデンスについて文献的考察を行う。臨床的な血小板活性化の評価方法についてその利点、欠点を検討する。また、DNA チップを用いた遺伝子解析の理論と方法を学ぶとともに、心筋虚血にて発現する遺伝子群の特徴を文献的に考察する。血管内皮細胞、血管平滑筋細胞などの血管壁細胞における動脈硬化惹起性分子発現のメカニズムについて系統的に学習する。心筋虚血再灌流障害の発生機序について最近の話題を文献的に検索、考察し、新たな治療戦略について学習する。心筋肥大の原因となる刺激因子を検索し、心筋肥大のメカニズムと肥大心筋において発現する遺伝子群について考察する。心筋肥大の制御に關与する神経体液性因子を論文上から学び、相互の關連について討論する。遺伝子改変マウス作製の理論・手法を学習する。作製したマウスの表現型解析方法を学習する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、以下の項目等を含んで広く評価する。

- 1) 急性冠症候群発症に關与する凝固・線溶系因子、血小板活性化因子を理解している。
- 2) 遺伝子発現の評価における DNA チップの理論と具体的事例について説明出来る。
- 3) 心筋虚血ストレスにおける遺伝子誘導と心筋細胞死について分子的機序を理解している。
- 4) 動脈硬化症発症、進展に關与すると考えられている分子の発現、誘導のメカニズムを理解している。
- 5) 心筋虚血再灌流障害の発生機序について理解し、説明できる。
- 6) 心肥大の原因となる内因性因子、外来因子について説明出来る。
- 7) 心肥大のメカニズムと心筋障害について細胞内シグナルの観点から論じることが出来る。
- 8) 心肥大、心不全に關与する神経体液性因子について相互関係を關連づけて説明出来る。
- 9) 遺伝子改変マウス作製の理論・手法および表現型解析方法について説明できる。

授業科目：A7 医科学研究 循環器内科学（必修 8 単位）

科目コード 10070

担当教員：小川 久雄、掃本 誠治、海北 幸一

開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限

履修場所：講義は、受講者数により適宜連絡し、実験は、医局内の実験室を中心に行う。

**【授業の内容】** ヒト血管平滑筋細胞、ヒト血管内皮細胞、ラット心筋細胞の分離・培養実験を行う。ヒト血管平滑筋細胞、ヒト血管内皮細胞については、継代培養と凍結細胞保存方法を実習する。これらの細胞にて合成、分泌される心血管疾患の病因に關与すると考えられる酵素、膜タンパク、サイトカイン、神経液性因子についてタンパクレベル、遺伝子レベルで評価、検討する。遺伝子レベルの評価には RT-PCR を用いたタンパクレベルの評価には Western blots, ELISA, Flowcytometry, 免疫染色等を用いて実験を行う。標的遺伝子の生体での役割を検討するために遺伝子改変マウスを作製する。組織特異的ノックアウト・過剰発現マウス作製の理論・手法を学習し実践する。作製したマウスの表現型解析を通して、小動物の生理学的解析について習熟する。得られた結果については、論文にまとめ発表できるように指導を行う。また、積極的に学会発表も行う。

**【評価方法】** 実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。

なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

実習は、テキスト、医学論文、インターネット等のメディアからの情報も利用して行う。実習の内容に関するレポートを提出して頂き、以下の項目等を含んで広く評価する。

- 1) 心・血管系疾患の病因・病態・治療に關する実験遂行にあたり必要な実験方法を習得している。
- 2) 心・血管系疾患の病因・病態・治療に關する実験遂行にあたり適切な研究課題を設定出来る。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し積極的に実行している。
- 4) 心・血管系疾患の病因・病態・治療に關する最新の情報を有し独自の新たな知見を有している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 代謝内科学（必修 8 単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10060</p> <p>担当教員：荒木 栄一  開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2限  講義室：原則として代謝内科学分野の資料室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> ホルモン作用機序や代謝・内分泌疾患の発症機序に関するいくつかの論文を取り上げ、分子生物学・発生工学的な手法を用いた疾患解析法を演習する。さらに、代謝・内分泌疾患の発症機序や治療法に関する研究を進めていく上で、これらの手法がどのように展開されていくのかを、グループディスカッションにより演習する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> レポートによる</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートは以下の項目について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ホルモン作用機序や代謝・内分泌疾患の発症機序について理解している。</li> <li>2) 動脈硬化症や高脂血症、糖尿病合併症の発症機序について理解している。</li> <li>3) 分子生物学・発生工学的な手法を用いた疾患解析法について理解している。</li> <li>4) 分子生物学的な手法を用いた疾患解析法を応用することができる。</li> <li>5) 代謝・内分泌疾患の発症機序に関して、遺伝子、蛋白質、臓器および個体レベルで様々な解析を行うことができる。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 代謝内科学（必修 8 単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10070</p> <p>担当教員：荒木 栄一  開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限  講義室：原則として代謝内科学分野の資料室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 目的とする分子を発現するベクターをデザインおよび構築し、細胞に導入、導入した分子の発現や機能を様々な方法で解析する技術、代謝・内分泌疾患関連遺伝子の変異遺伝子同定方法、およびリバースジェネティクスを用いた変異遺伝子の機能解析法などについて実習を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> レポートによる</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートは以下の項目について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目的とする分子を発現するベクターをデザインおよび構築し、細胞に導入することができる。</li> <li>2) 目的とする分子の発現や機能を様々な方法で解析する技術を行うことができる。</li> <li>3) 代謝・内分泌疾患関連遺伝子の変異遺伝子の同定を行うことができる。</li> <li>4) <i>in vitro</i> や <i>in vivo</i> の系において、変異遺伝子の機能解析を行うことができる。</li> <li>5) 遺伝子改変動物の作成・解析をデザインすることができる。</li> </ol>

授業科目：A6 医科学演習 腎臓内科学（必修8単位）

科目コード10060

担当教員：向山政志

開講年次及び時間：1年～2年 前期 木曜 2限

講義室：受講者数により適宜連絡する。

【授業の内容】腎臓の機能的、器質的な障害を起こす遺伝的な原因を解明した論文を取り上げ、分子生物学的、遺伝子工学的な方法およびそれに至る発想法について学び、実際の研究の参考とする。腎臓は、多くの局在する種類の細胞の集合体であり、その機能は、部位によって異なっている。他の臓器以上に、形態的、機能的に細分化されており、一つの機能異常が代償されて目立たないことが多い。個々の異常が全体的にどのような異常に繋がるのかを総合的に検討する必要がある、その実践を学ぶ。

【評価方法】 レポートによる

【成績評価基準】

講義の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) ネフロンセグメントによる機能の違いを理解している。
- 2) セグメント毎の主要な受容体やチャネルの発現を理解している。
- 3) 機能異常から引き起こされる病態と受容体やチャネルの発現、活性化の関連を理解している。

授業科目：A7 医科学研究 腎臓内科学（必修8単位）

科目コード10070

担当教員：向山政志

開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 2限

講義室：受講者数により適宜連絡する。

【授業の内容】ラットあるいはマウスの腎臓を取り出し、あるいは培養細胞を用いることで、特定の遺伝子あるいは蛋白の単離法と定量法を学ぶ。病的な状態で様々な遺伝子や蛋白の発現がどのように変化するかを学ぶことで、遺伝子の制御の仕組みについて実習する。遺伝子を細胞に導入し、発現させ、その異常が、どのような機能異常を呈するのか、どのような物質、刺激が蛋白の発現を制御するのかを検討、実習することで、尿細管の機能異常、腎炎などの疾患の機能的異常の分子生物学的な仕組みについて学ぶ。

【評価方法】 レポートによる

【成績評価基準】

講義の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) RNAやDNAの抽出から解析までの流れを理解している。
- 2) 蛋白の解析について理解している。
- 3) 細胞培養について実地に必要な知識を理解している。

<b>授業科目：A6 医科学演習 消化器内科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：佐々木 裕、田中 基彦、直江 秀昭、立山 雅邦、庄野 孝、渡邊 丈久 村尾 哲哉、福林 光太郎、階子 俊平 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則として消化器内科学教室の会議室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 近年の医学の進歩に伴い消化器疾患の分子機構が解明されつつあり、それに応じた治療法が臨床に応用されるようになった。本演習では癌を中心にさまざま消化器疾患の分子機構の概説を行ったうえで、実際に行われている治療法がどのように疾患の分子機構を制御あるいは修飾することで、効果に結びついているかを講義する。	
<b>【評価方法】</b> レポートによる	
<b>【成績評価基準】</b> 演習の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。 レポートは以下の項目について評価する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 消化器癌の種類、発生頻度について理解している。</li> <li>2) 消化器癌の前がん状態という概念について理解している。</li> <li>3) 炎症と消化器癌との関連について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 消化器内科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：佐々木 裕、田中 基彦、直江 秀昭、立山 雅邦、庄野 孝、渡邊 丈久 村尾 哲哉、福林 光太郎、階子 俊平 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 3限 講義室：原則として消化器内科学教室の会議室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究テーマを解決するために、病態に大きく関与する遺伝子異常、サイトカイン、ケモカインなどについてその測定の実際を経験する。具体的には、動物モデル、ヒト癌細胞株を対象に、LOH、点突然変異など遺伝子異常の解析法、PCR や蛋白電気泳動、免疫組織学的手法による遺伝子発現、蛋白質発現や活性化の解析などを実習する。さらにサイトカイン、ケモカインの測定法を実習する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。	
<b>【成績評価基準】</b> 以下の項目について総合的に評価する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 消化器疾患の病態における遺伝子異常、サイトカイン、ケモカインの役割について理解している。</li> <li>2) PCR、蛋白電気泳動、免疫組織学的手法の原理を理解している。</li> <li>3) 遺伝子異常の意義とその評価法を理解している。</li> <li>4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A6 医科学演習 血液内科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：満屋 裕明、奥野 豊 開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2限 講義室：原則として血液内科学分野の資料室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 近年の血液学における重要な病態解明・治療法発見の経緯や、血液学分野における未解決の問題を解決するための方法論について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらには問題解決のための細胞生物学的、生化学的あるいは分子生物学的手法について理解を深める。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートは以下の項目について評価する。 1) 英語で記載された血液学の研究成果について理解する能力を有している。 2) 血液学研究における一般的な解析法の原理と結果の解釈について理解している。 3) 血液学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。 4) 血液学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。	

<b>授業科目：A7 医科学研究 血液内科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：満屋 裕明、奥野 豊 開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限 講義室：原則として血液内科学分野の資料室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 血液学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした細胞生物学、生化学および分子生物学的な種々の実験的手技の習得を指導する。これらを利用して白血病やリンパ腫などの悪性疾患を含む血液疾患の諸病態解明と治療法の開発や、病態発生に関わる造血系や免疫系の機構解明などに関わる研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は各自の研究課題に対応して、以下のいくつかの項目に着目して行う。 1) 細胞生物学、生化学および分子生物学的な実験手技を習得し、設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案・実施し、実験に関する問題点の把握と修正ができる。 2) 血液疾患の病態解明にむけた実験系を計画・実施し、新しい研究成果を得ている。 3) 血液疾患の新規治療法確立に関わる基礎研究あるいは臨床応用をめざした実験を計画・実施し、新しい研究成果を得ている。 4) 血液疾患の病態発生に関わる造血系あるいは免疫系の機構解明に関わる研究を計画・実施し、新しい研究成果を得ている。	

授業科目：A6 医科学演習 膠原病内科学（必修8単位）

科目コード10060

担当教員：満屋裕明、平田 真哉

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2時限

履修場所：原則として当教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 近年の免疫学における免疫制御及び免疫寛容のメカニズムの理解と、その免疫寛容の破綻によると考えられる自己免疫疾患の発生機序に関する仮説の設定ならびに、免疫系を構成する細胞群および免疫制御に関わる種々の分子の働きに基づく仮説の検証の方法について、いくつかの実例を挙げて演習する。免疫組織学および遺伝分子病理学的な解析方法により当該分子の病変形成への関与と疾患特異性を確認し、さらに細胞増殖反応、アポトーシス誘導、細胞動員反応、サイトカイン定量、細胞表面マーカー解析などの各種生物反応解析に展開することにより、当該分子機構の異常が疾患病態にどのように関与するのかを解明し、得られた結果について、論文にまとめ発表することについての指導を行う

**【評価方法】**

研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 膠原病が発症する機序について最新の知識を習得し、さらに新しい研究成果を得ている。
- 2) 免疫系が識別する抗原と、免疫系の抗原認識後の応答について、最新の知識を習得し、膠原病の発症において果たす役割について研究成果を得ている。
- 3) 免疫応答の制御法の開発に関わる基礎研究を基にした自己免疫反応を制御するシステムの臨床応用について最新の知識を習得するとともに、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究テーマに関連した従来の知識を文献等の学習により習得しており、適切な実験計画を立案し実行している。

授業科目：A7 医科学研究 膠原病内科学（必修8単位）

科目コード10070

担当教員：満屋裕明、平田 真哉

開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限

履修場所：原則として当教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 免疫組織学および遺伝分子病理学的な解析方法により当該分子の病変形成への関与と疾患特異性を確認し、さらに細胞増殖反応、アポトーシス誘導、細胞動員反応、サイトカイン定量、細胞表面マーカー解析などの各種生物反応解析に展開することにより、当該分子機構の異常が疾患病態にどのように関与するのかを解明し、得られた結果について、論文にまとめ発表することについての指導を行う。

**【評価方法】** 実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。

なお論文、学会発表、あるいは研究打合せ・データ発表会におけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 膠原病における臨床標本などの免疫組織学および遺伝分子病理学的な解析法を習得している。
- 2) 膠原病においてみられる健常人には見られない自己抗体の検出法や、抗原抗体反応の違いについての解析法を習得している。
- 3) 免疫応答の制御法の開発に関わる基礎研究を基にした自己免疫反応を制御するシステムの臨床応用について最新の知識を習得するとともに、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究テーマに関連した文献等の学習によりその背景を理解しそれを基に適切な実験計画を立案し実行している。

<b>授業科目：A6 医科学演習 感染免疫内科学</b> （必修8単位）	<b>科目コード10060</b>
担当教員：満屋裕明、川口 辰哉、宮川 寿一 開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2時限 履修場所：原則として当教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> HIV感染症は依然として人類の脅威であり、薬剤耐性の克服と新規抗HIV薬の開発が急務である。演習では、まず抗HIV薬開発の歴史を文献的に振り返り、抗ウイルス薬の作用機序、薬剤耐性化のメカニズムなどの基礎知識を修得する。さらに、耐性克服のためのドラッグデザイン、新たな分子標的の探索など、新規HIV薬開発のための基本戦略を学ぶ。これらの情報をもとに、細胞生物学、分子生物学、発酵工学などの手法を駆使して、耐性機序解明や薬剤スクリーニングのための実験系を立案し、実際にこれらを検証する。以上の研究成果を論文にまとめ、口頭発表も行なう。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価は下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) HIVの標的細胞への侵入から放出までの生活環や宿主応答について理解し、説明できる。</li> <li>2) HIVの構成遺伝子について熟知し、機能を説明できる。</li> <li>3) 抗HIV薬の特徴および薬剤耐性メカニズムについて最新の知識を取得している。</li> <li>5) ウイルスの安全な取り扱い、細胞・ウイルス培養法を理解し、実践できる。</li> <li>6) 組み換えウイルス作成などの原理・手法について理解し、実践できる。</li> <li>7) 設定した研究テーマに関して、適切な実験計画を立案・実行し、新たな研究成果を得ている。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 感染免疫内科学</b> （必修8単位）	<b>科目コード10070</b>
担当教員：満屋裕明、川口 辰哉、宮川 寿一 開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限 履修場所：原則として当教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 新興・再興感染症あるいは日和見感染症（院内感染）など、臨床的に問題となるヒト感染症研究に必要な基本的実験手技を、病原体および宿主応答の両側面からアプローチできるよう指導する。具体的には、臨床サンプルの取り扱い方、病原体および免疫担当細胞の分離同定方法、疫学調査、組織培養、細胞免疫学あるいは分子生物学的な基本的実験手技などの講義あるいは実習である。	
<b>【評価方法】</b> 実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。なお論文、学会発表、あるいは研究打合せ・データ発表会におけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> 成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新興・再興感染症や日和見感染症について概説できる。</li> <li>2) 院内感染の疫学調査のやり方について概説できる。</li> <li>2) 安全な臨床サンプルの取り扱いを習得している。</li> <li>3) 病原体の分離同定方法を説明し、一部は実践できる。</li> <li>4) 免疫担当細胞の分離同定方法を習得している。</li> <li>5) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 神経内科学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：安東由喜雄、前田 寧

開講年次及び時間：1年～2年 前期 木曜 1限

講義室：原則として神経内科学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 近年の神経内科学における遺伝性変性疾患を中心とする各種神経疾患の病因・病態解明の経緯、遺伝子治療、再生医療などの臨床応用への可能性と、今後の展望などについて、いくつかの実例を挙げて演習する。遺伝性アミロイドーシスの再生医療を応用した治療、さらに遺伝子治療で用いる各種ウイルスベクターの特徴、エクソスキッピングの問題点、遺伝子治療やエクソスキッピングの対象とならない進行例における幹細胞を用いた再生医療の可能性などについて研究する。以上の研究成果を論文にまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された神経内科学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 神経内科学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 神経内科学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 神経内科学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 神経内科学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：安東 由喜雄、前田 寧

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として神経内科学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** ヒトとマウスなどの動物を対象とした遺伝子治療、再生医療研究に必要な細胞培養、免疫組織化学、ウェスタンブロット、分子生物学的な種々の実験手技を身につけるための実習を中心に指導する。具体的には、免疫染色標本の観察、必要に応じて電顕的観察、ウイルスベクターの作成、細胞培養などに関する実習を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 細胞培養、免疫組織化学染色、ウェスタンブロット解析法について習得している。
- 2) ウイルスベクターに治療用遺伝子を組み込む方法を習得している。
- 3) 動物個体を用いた遺伝子治療に関する基本的手技を習得している。
- 4) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案して実行している。



<b>授業科目：A6 医科学演習 小児科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：遠藤 文夫 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 2限 講義室：受講者数により適宜連絡する。	
<b>【授業の内容】</b> 小児疾患に関連する遺伝子と疾患、遺伝子治療、再生医学などに焦点を当て、テーマごとに基礎的な情報収集と討論形式による情報の交換および具体的な研究課題についての議論を行う。遺伝子と疾患においては小児期特有の遺伝性疾患や悪性腫瘍についてその基礎的な解析方法を学習する。また遺伝子治療と再生医学は近い将来に有望となる治療方法であり、個別の疾患をテーマとして取り上げる。さらに、小児の先端医療に関連した倫理的問題についてもテーマを与えて学習する。	
<b>【評価方法】</b> レポートによる	
<b>【成績評価基準】</b>  (1) 遺伝性疾患の概要が説明できる。 (2) 幹細胞について説明が出来る。 (3) 遺伝学治療について理解している。 (4) 再生医学についての知識がある。	

<b>授業科目：A7 医科学研究 小児科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：遠藤 文夫 開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 2限 講義室：受講者数により適宜連絡する。	
<b>【授業の内容】</b> 主に動物モデルをもちいた遺伝性疾患の病態解析、遺伝子治療および再生医学の研究を行う。難病治療の実験的成果を挙げられることを具体的な目標とする。とくに遺伝性肝臓疾患、内分泌疾患、神経疾患のモデル動物を作成し、遺伝子異常と臨床症状の出現の関連、遺伝子導入による臨床症状の改善および細胞移植による臓器所見の改善を目標として研究を遂行する。	
<b>【評価方法】</b> レポートによる	
<b>【成績評価基準】</b>  (1) 遺伝性疾患の概要が説明できる。 (2) 再生医学についての知識がある。 (3) 肝細胞について説明が出来る。 (4) 動物実験についての知識がある。	

授業科目：A6 医科学演習 臨床病態解析学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：松井啓隆

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として病態情報解析学教室のセミナー室及び実験室で行う。

**【授業の内容】** 近年のゲノム解析手法の発展により、悪性腫瘍の発症に関わる多くの体細胞変異・生殖細胞系列変異が同定された。近い将来、これらの遺伝子変異が高感度に同定されるようになり、悪性腫瘍が臨床検査レベルで診断可能になると予想される。このため、将来臨床検査に従事することを希望する学生には、分子レベルで悪性腫瘍の疾患病態を理解しておくことが求められる。このような背景により、本コースでは、遺伝子変異の検索・cDNA クローニング・変異タンパク質の機能解析などの技術習得を行う。また本コースでは、未解明の課題に対して、学生自身が研究を立案し遂行する能力を会得することを目指している。

**【評価方法】** 医科学演習を履修した時間数および研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記の項目に着目して行う。

- 1) 英語で記載された研究論文の内容を理解し、自身の研究に役立つ学術論文を検索し参考にできる能力の習得。
- 2) 分子生物学および生化学的解析法の原理の理解
- 3) 自分自身で実験を立案・遂行し、得られた実験結果を解釈できる能力の獲得。
- 4) 悪性腫瘍における未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについての理解。
- 5) 自分自身の研究をプレゼンテーションできる能力の取得。
- 6) 検査医学領域の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見についての理解。

授業科目：A7 医科学研究 臨床病態解析学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：松井啓隆

開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 1限

講義室：原則として病態情報解析学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 検査医学領域の研究の中で医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした検査医学領域の実験手技の習得を広く指導する。また当分野では、白血病や骨髄異形成症候群などの造血器腫瘍をはじめとする腫瘍性疾患の病態解析を中心に研究しているので、それらの病態解析の最新の情報を提供する。また、さまざまな疾患の新たな診断法の開発の例を上げ、学生が興味のある疾患の病態解析法にも示唆を与える。

**【評価方法】** 医科学研究の履修時間数および研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) さまざまな疾患の病態解析における実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 2) 検査医学領域の実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 新しい検査法の開発に関わる基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けて実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 放射線診断学 （必修 8 単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード 10060</p> <p>担当教員：山下康行  開講年次及び時間：1年～2年 前期 木曜 2時限  履修場所：原則として中央診療棟中央放射線部で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 近年の画像診断において、物理工学的進歩が、どのように病気の診断に応用され、治療成績向上に寄与しているかを、複数の著書および論文を題材として演習を行う。また、実際の画像を題材として、癌治療全体における役割、治療適応の決定プロセス、実際の撮像法などについて実習を行い、放射線診断学に関する知識を深める。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 当該テーマに関連した著書や論文の理解度、および、実症例を題材とした、レポートなどを総合的に評価する。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>評価は、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新しい放射線診断学に関する論文を理解し、的確に要約し考察することができる。</li> <li>2) CTやMRIの原理を理解している。</li> <li>3) 画像診断に関する、最新の知識を習得している。</li> <li>4) 実症例の診断プロセスをたどることで、画像診断の実際を的確に説明することができる。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 放射線診断学 （必修 8 単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード 10070</p> <p>担当教員：山下康行  開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 2限  履修場所：原則として中央診療棟中央放射線部で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 実際の悪性腫瘍の臨床症例を題材として、放射線診断の癌治療全体における役割、適応の決定プロセス、治療の決定のプロセスなどを習得し、放射線診断学に関する知識を深める。その上で、CTやMRIの扱いに精通し、種々の高精な画像診断のテクニックを学び、それらを実際に応用するための実験を立案し、実施する能力を体得する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 当該テーマに関連した著書や論文の理解度、および、実症例を題材としたレポート、画像診断装置の操作の習熟度、計画実験の立案能力などを総合的に評価する。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>評価は、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 画像診断に関する、最新の知識を習得している。</li> <li>2) 実症例の診断プロセスをたどることで、画像診断の実際を的確に説明することができる。</li> <li>3) CTやMRIなどの画像診断装置の操作を習得している。</li> <li>4) ファントム計画実験を立案し、実行できる。</li> </ol>

授業科目：A6 医科学演習 放射線治療医学（必修8単位）

科目コード10060

担当教員：大屋 夏生

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2時限

履修場所：原則として中央診療棟地階放射線治療計画室で行う。

**【授業の内容】** 近年の放射線腫瘍学、放射線治療医学において、物理工学的進歩が、どのようにがんの放射線治療に応用され、治療成績向上に寄与しているかを、複数の著書および論文を題材として演習を行う。また、実際の放射線治療症例を題材として、放射線治療の癌治療全体における役割、適応の決定プロセス、放射線治療計画の実践的な手技、線量および分割法の決定、実際の照射の方法、などについて実習を行い、放射線治療医学に関する知識を深める。

**【評価方法】** 当該テーマに関連した著書や論文の理解度、および、実症例を題材とした、レポートなどを総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

評価は、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 新しい放射線治療医学に関する論文を理解し、的確に要約し考察することができる。
- 2) 放射線治療の生物学的メカニズムを理解している。
- 3) 放射線治療に関する、最新の知識を習得している。
- 4) 実症例の治療プロセスをたどることで、放射線治療の実際を的確に説明することができる。

授業科目：A7 医科学研究 放射線治療医学（必修8単位）

科目コード10070

担当教員：大屋 夏生

開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限

履修場所：原則として中央診療棟地階放射線治療計画室で行う。

**【授業の内容】** 実際の放射線治療症例を題材として、放射線治療の癌治療全体における役割、適応の決定プロセス、放射線治療計画の実践的な手技、線量および分割法の決定、実際の照射の方法、などについて実習を行い、放射線治療医学に関する知識を深める。その上で、放射線治療計画装置の扱いに精通し、種々の高精度放射線治療を計画し、それらを評価するための実験を立案し、実施する能力を体得する。

**【評価方法】** 当該テーマに関連した著書や論文の理解度、および、実症例を題材としたレポート、治療計画装置の操作の習熟度、治療計画実験の立案能力などを総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

評価は、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 放射線治療に関する、最新の知識を習得している。
- 2) 実症例の治療プロセスをたどることで、放射線治療の実際を的確に説明することができる。
- 3) 放射線治療計画装置の操作を習得している。
- 4) 治療計画実験を立案し、実行できる。

<b>授業科目：A6 医科学演習 神経精神医学</b> （必修 8 単位）	<b>科目コード10060</b>
担当教員：池田 学、藤瀬 昇、橋本 衛、城野 匡 開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 3時限 履修場所：原則として神経精神医学教室のセミナー室および大学院生室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> アルツハイマー病などの認知症性疾患・老年期うつ病・老年期妄想症などの老年期精神疾患を例に取り、その病態について複数の著書および論文を題材として演習を行う。また、実際の診断法や治療法について、いくつかの実例を挙げて演習を行い、神経精神科学に関する知識を深める。	
<b>【評価方法】</b> 当該研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは研究ミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年期精神疾患に関する英語論文を理解し、的確に要約し考察することができる。</li> <li>2) 老年期精神疾患に基づく精神症状・行動障害について、最新の知識を習得している。</li> <li>3) 老年期精神疾患の診断方法を理解している。</li> <li>4) 実症例の演習を通し、治療方法の実際を説明することができる。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 神経精神医学</b> （必修 8 単位）	<b>科目コード10070</b>
担当教員：池田 学、藤瀬 昇、橋本 衛、城野 匡 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 4時限 履修場所：原則として神経精神医学教室のセミナー室および大学院生室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> アルツハイマー病などの認知症性疾患・老年期うつ病・老年期妄想症などの老年期精神疾患を例に取り、病態解析法を習得し、症候学的研究を計画し、実施する能力を体得する。	
<b>【評価方法】</b> 実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。なお論文、学会発表、あるいは研究ミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> 成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種精神症状評価尺度を用いた精神症状・行動障害の評価方法について習得している。</li> <li>2) 神経心理学的評価尺度を用いた認知機能障害、行動障害の解析法について習得している。</li> <li>3) 症候学的研究を立案することができる。</li> <li>4) 研究計画を批判的に検討し、的確に実行している。</li> </ol>	

<p>授業科目：A6 医科学演習 総合診療科学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10060</p> <p>担当教員：笠岡俊志、谷口純一  開講年次及び時間：1年～2年 未定  講義室：原則として救急・総合診療部の医局カンファレンス室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b>総合診療的アプローチが必要な実例をいくつか提示しその診療方法に関する演習を行う。さらに、基本的臨床能力教育の効果的教育技法に関する演習を指導する。</p>
<p><b>【評価方法】</b>研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは研究ミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b>  レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。  1) 英語で記載された総合診療医学に関する研究成果について理解する能力を習得している。  2) 総合診療医学に関する基本的な知識とその教育法について理解している。  3) 総合診療医学の研究課題に関連した過去の知見について理解している。</p>

<p>授業科目：A7 医科学研究 総合診療科学（必修 8単位）</p> <p style="text-align: right;">科目コード10070</p> <p>担当教員：笠岡俊志、谷口純一  開講年次及び時間：1年～2年 未定  講義室：原則として救急・総合診療部の医局カンファレンス室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b>医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な総合診療医学に関する研究を指導する。以上の研究成果を論文にまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b>研究テーマに関連した成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは研究ミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b>  レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。  1) 総合診療医学の基礎知識を習得している。  2) 効果的教育技法について理解し実践できる。  3) 研究課題に対して適切な研究計画を立案して実行している。</p>

授業科目：A6 医科学演習 保健医学 （必修8単位）

科目コード10060

担当教員：岸川秀樹 副島弘文

開講年次及び時間：1年～2年 前期 木曜 4限

履修場所：黒髪地区保健センター

**【授業の内容】** 加齢と共に、免疫機能、運動機能、消化機能など種々の身体機能の低下が認められ、複数の生活習慣病を併発することも多い。生活習慣病の発症には、遺伝的要因として、加齢が大きな影響を及ぼすため、加齢による疾患感受性の変化の研究は、生活習慣病予防の手掛かりとして重要となる。本演習では、生活習慣病において、遺伝子多型、加齢、環境要因が、その発症にいかに関与しうるかを解析した論文を取り上げ、実際の研究が、どのように展開するのかを学習する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

レポートの評価は、下記の項目に着目して行う。

- 1) 生活習慣病および青年期の疾病について、理解する能力を習得している。
- 2) 生活習慣病および青年期の疾病について、一般的な分析法の原理と結果の解釈について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 保健医学 （必修8単位）

科目コード10070

担当教員：岸川秀樹 副島弘文

開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 3時限

履修場所：黒髪地区保健センター

**【授業の内容】** 青年期を中心に、ライフサイクルを通じた生理機能の変化、運動機能の変化の有無を検討するため、摂食に関与する塩分・甘味などに対する感受性の測定、運動機能低下時の呼吸・循環機能・血液凝固系の変化の測定、ストレス時の対応の調査などに関する実習を実施する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表をもってレポートに替えることができる。

**【評価方法】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 生活習慣病および青年期の疾病について、最新の知識を習得し、さらに新しい研究成果を得ている。
- 2) 設定した研究テーマに関連した従来の知識を文献等の学習により習得しており、適切な実験計画を立案し実行している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 薬剤情報分析学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10060</p> <p>担当教員：入江 徹美、石塚 洋一</p> <p>開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 未定</p> <p>講義室：原則として薬剤情報分析学分野セミナー室および実験室（大江総合研究棟5階）で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 医薬品を服用している患者から得られる生体内薬剤情報あるいは病態・生体情報の測定法について具体例をあげて演習する。具体的には、動脈硬化症の発症に密接に関わる血清中の低密度、高密度、およびレムナントリポ蛋白コレステロールの自動分析測定法の開発の経緯、従来の標準測定法との比較、乖離例と疾患との関わりなどについて、当研究室で開発した臨床検査試薬キットを用いて、さらに、必要に応じて、具体例が示された論文などを取り上げながら、実際の臨床検査試薬の開発研究がどのように展開されるかを演習する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお、論文、学会発表、あるいは研究室内ミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された薬剤情報分析学分野の研究成果について、理解する能力を修得している。</li> <li>2) 薬剤情報分析学分野の研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 薬剤情報分析学分野の未解決課題を解明する上で、どのような解析法を利用できるかについて理解している。</li> <li>4) 薬剤情報分析学分野の研究課題に対する過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 薬剤情報分析学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10070</p> <p>担当教員：入江 徹美、石塚 洋一</p> <p>開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限</p> <p>講義室：原則として薬剤情報分析学分野セミナー室および実験室（大江総合研究棟5階）で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 医薬品の開発段階で集積される情報や服薬患者から得られる生体内薬剤情報/病態・生体情報を最大限に活用して、個々の患者の治療ニーズに合致したオーダーメイドの薬剤情報提供を可能にするアイテムを構築する研究を行う。具体的には、新生児・小児に用いられる医薬品の中で、治療域が狭く、用法・用量などが未確立なものについて、医療機関などに蓄積されている治療的血中薬物濃度モニタリング（TDM）データおよび診療データを精査・解析し、母集団薬物動態パラメータを明らかにする。さらに、母集団薬物動態パラメータに基づいて投与設計を行い、医薬品の適正使用に関する研究を行う。それらの結果を論文にまとめ発表することについての指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは研究室内ミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生体内薬剤情報の取得に関する基本的実験手技を修得し、新しい研究成果を得ている。</li> <li>2) 生体内薬剤情報/病態・生体情報の基本的な解析法を修得し、新しい研究成果を得ている。</li> <li>3) 薬物体内動態に関わる基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けて実験手技を修得し、新しい研究成果を得ている。</li> <li>4) 設定した研究課題に対して実験手技を修得し、適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>



<p>授業科目：A6 医科学演習 医療情報医学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10060</p> <p>担当教員：宇宿功市郎、廣瀬 隼</p> <p>開講年次及び時間：1 年～2 年 前期 火曜 5 限</p> <p>講義室：原則として医療情報経営企画部の教員室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 臨床医学、基礎医学分野における医学研究情報を効率よく検索する方法など、インターネット利用の為の基本的な技術の理解のため、コンピュータを用いた演習を行う。また UML(Unified Modeling Language)の表記方法を修得するため、実験計画、病院運営モデルなどを材料とした UML 表記の実習を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された医療情報学の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 医学研究情報を効率よく検索する方法が駆使できる。</li> <li>3) UML(Unified Modeling Language)の表記方法について理解している。</li> <li>4) 実験計画、病院運営モデルなどを材料とした UML 表記を説明できる。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 医療情報医学（必修 8 単位）</p> <p>科目コード 10070</p> <p>担当教員：宇宿功市郎、廣瀬 隼</p> <p>開講年次及び時間：1 年～2 年 通年 木曜 5 限</p> <p>講義室：原則として医療情報経営企画部の教授室および教員室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多彩な入カインターフェイスを備えた電子医療記録装置の開発を行うため、基礎技術の修得ならびに準拠すべき情報管理ガイドラインに沿ったシステム開発の基盤を身につける。</li> <li>2. 疾患感受性解析及びそれにかかわる統計解析に関する技能を身につけ、疾患ごとに適切な解析システムが必要な際にはその開発おこなう技術を身につける。</li> <li>3. 医療情報学の基礎的技術となる、データベース技術、インターネット技術、システム間情報交換の基本技術 XML (eXtensible Markup Language) 等の取得を通じて、診療録における記載事項を基礎データとして EBM(Evidenced Based Medicine) データを抽出する方法を学習するため、用意された EBM データベースエンジンを利用したシステム構築実験を行う。</li> <li>4. 医療人養成教育のための e-Learning 環境構築、代替医療を日常診療に生かすとともに医療経済への効果を検証するための技術開発を行い、さらに臨床技能評価システム開発の技術を身につける。</li> </ol>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した手技の習得、結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 電子医療記録装置の開発ならびに準拠すべきガイドライン等について理解している。</li> <li>2) 疾患感受性解析及びそれにかかわる統計解析に関する技能について理解している。</li> <li>3) データベース技術、インターネット技術等について理解している。</li> <li>4) e-Learning 環境ならびに構築、代替医療、医療経済について理解している。</li> </ol>

授業科目：A6 医科学演習 消化器外科学（必修 8 単位）

科目コード 10060

担当教員：馬場秀夫 他

開講年次及び時間：1～2年 前期

講義室：原則として消化器外科学教室の医局および実験室で行う。

【授業の内容】消化器癌（消化管、肝胆膵悪性腫瘍）において、その発生、進展、抗癌剤感受性などに関して、これまでに分子生物学的手法を用いてどのような解析がなされ、治療へ応用されてきたかを、実際の研究成果の実例をあげて演習を行う。また、実際の研究がどのように展開され臨床応用に至ったかのトランスレーショナルリサーチの重要性を演習する。

【評価方法】研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究計画の立案、実験結果の解釈、成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはリサーチカンファレンスにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

【成績評価基準】

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された消化器外科学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 消化器外科研究における一般的解析方法の原理と結果の解釈について理解している。
- 3) 消化器外科学の未解決課題に対し、どのような解析法を利用可能かについて理解している。
- 4) 消化器外科学の研究課題に対応する分野の過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 消化器外科学（必修 8 単位）

科目コード 10070

担当教員：馬場秀夫 他

開講年次及び時間：1～2年 通年

講義室：原則として消化器外科学教室の医局および実験室で行う。

【授業の内容】医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、消化器外科学の様々な実験手技およびマウスを用いた動物実験などの分子生物学的手法の手技習得を指導する。具体的には切除標本や血液、体液サンプルなどの取り扱い、病理組織学的診断法、細胞培養法、実験動物取り扱いなどに関する実習を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

【評価方法】研究テーマに関連した実験手技の修得、実験結果の解釈、成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはリサーチカンファレンスにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

【成績評価基準】

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 消化器癌について、臨床的材料を用いた実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 2) 転移に関わる基礎研究、あるいは、そのモデルとしての動物研究などの実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 呼吸器外科学 （必修8単位）</p> <p>科目コード10060</p> <p>担当教員：鈴木実 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1時限 履修場所：原則として呼吸器外科学教室のセミナー室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 近年の呼吸器外科学の進歩は1) 画像診断の発展、2) 手術時の光学機器および手術器具の進歩、および3) 結核外科時代より蓄積してきた区域切除に関する技術等に追うところが多い。はじめに、呼吸器外科の進歩の現状および課題を把握する。さらに選択した課題に関する情報を収集する。これらを利用して、呼吸器外科学の発展を目標として、臨床的もしくは基礎的実験系を立案し、研究を遂行する。以上の研究成果を論文にまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された呼吸器外科学の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 呼吸器外科について、最新の知識を習得し、さらに新しい研究成果を理解できる。</li> <li>3) 呼吸器外科に関する新しい治療法もしくは診断法の開発に関わる研究案を考察できる。</li> <li>4) 呼吸器外科の研究課題に関連した従来からの知識を文献等の学習により習得しており、理解している。</li> </ol>

<p>授業科目：A7 医科学研究 呼吸器外科学 （必修8単位）</p> <p>科目コード10070</p> <p>担当教員：鈴木実 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 3限 履修場所：原則として呼吸器外科学教室のカンファレンス室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 呼吸器外科学の進歩および現状および問題点を理解、抽出する。臨床研究を行なうにあたって必要な文献検索、文献の解釈および統計学的解釈を学習する。同時に、比較的臨床応用可能な実験手技を身につけるための実習も行なう。具体的には、肺癌を中心として研究および実習を指導する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおける発表等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b></p> <p>成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸器外科の現状について理解している。</li> <li>2) 1) を把握し、その問題点を抽出するために文献検索法を習得している。</li> <li>3) 臨床研究を理解するためにその統計学的意味合いを理解している。</li> <li>4) 比較的簡易な実験法を習得している。</li> <li>5) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>

授業科目：A6 医科学演習 心臓血管外科学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：福井寿啓、坂口 尚

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2時限

講義室：原則として心臓血管外科学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 心臓疾患、大動脈ならびに末梢血管疾患に関して、それら心臓血管系の形態的・機能的異常をもたらす病態が循環生理学ならびに分子生物学的にどのように解析され近年の外科的治療法が考案されたかの経緯、その治療法の有効性をどのように評価するか、心臓血管系疾患の外科的治療の方法論について、いくつかの実例が示された論文を取り上げ演習する。また実際の研究がどのように展開され臨床応用されるに至ったかを演習する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目に着目して行う。

- 1) 心臓血管系疾患に関する研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 心臓血管系疾患の外科学研究における一般的解析法の原理と結果の解釈について理解している。
- 3) 心臓血管系の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 心臓血管系の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 心臓血管外科学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：福井寿啓、坂口 尚

開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2時限

講義室：原則とし心臓血管外科学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、心臓血管外科学の様々な実験手技およびマウスなどの動物を対象とした分子生物学的な実験手技の習得を指導する。これを利用して心臓血管系疾患の再建治療・血管新生療法について実習する。具体的には、動物を用いた血管吻合等の血行再建法、心筋ならびに下肢虚血実験モデルの作成法、血管新生療法、血管新生因子発現の評価法、血管新生の細胞病理学的評価法などに関する実習を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 心筋および下肢虚血モデルの作成法について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 2) 血行再建法あるいは血管新生療法について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 血管新生療法開発の基礎研究あるいは臨床応用に向けて、実験手技を習得し研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、適切な実験計画を立案して実行している。

<b>授業科目：A6 医科学演習 乳腺内分泌外科学（必修 8単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：岩瀬弘敬、山本 豊 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則として乳腺内分泌外科学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 乳癌、甲状腺癌、MEN(multiple endocrine neoplasia)、副腎腫瘍、などの腫瘍性疾患、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症、などの内分泌腺の機能異常、について、診断、病態、および治療について、外科的な立場から講義を行う。特に、それぞれの疾患の発症機構、質的診断、進展度診断、外科治療、進行癌・再発癌に対する集学的治療、など乳腺内分泌外科学における諸問題について、検討が必要な具体的な課題を提示する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された乳腺内分泌外科分野の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 乳腺内分泌外科学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 乳腺内分泌外科学（必修 8単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：岩瀬弘敬、山本 豊 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限 講義室：原則として乳腺内分泌外科学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、乳腺内分泌外科学における諸問題を解決するための実験技術、解析方法、および臨床診療への応用方法、について実習する。具体的には、少数の癌細胞の検出方法、癌の転移病巣と多発癌病巣との鑑別方法、実験動物の取り扱い法、病理組織学的診断法、RI 取り扱い法、細胞培養法、自家移植のための臓器凍結保存法、などを実習する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳癌、甲状腺癌について、臨床的材料を用いた実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。</li> <li>2) 乳癌、甲状腺癌の増殖、転移に関わる基礎研究、あるいは、そのモデルとしての動物研究などの実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 小児外科学・移植外科学（必修 8 単位） 科目コード10060

担当教員：猪股裕紀洋

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として小児外科学教室の医局および実験室で行う。

**【授業の内容】** 小児外科学が対象としている疾病や先天異常における重要な現象の発見の経緯と、その発生機序に関する仮説の設定、とその検証について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。また、臓器移植の歴史的社会的側面の課題を認識し、その医学的、社会的意義についての調査を含む演習を指導する。移植免疫の解析方法、機能分子の役割とその同定方法に関する古典的手法、最新的手法について理解するための演習を指導する

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは医局会におけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された小児外科学、移植外科学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 臨床的な小児外科疾患や臓器不全状態を理解する上で重要な解剖学、生理学について理解している。
- 3) 小児外科学・移植外科学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 小児外科学・移植外科学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 小児外科学・移植外科学（必修 8 単位） 科目コード10070

担当教員：猪股裕紀洋

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として小児外科学教室の医局および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはラットなどの動物を対象とした先天奇形発生モデルや肝不全モデル作成の種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して先天異常発生機構と、形態的異常の確認、および臓器不全の病理解析を通じた病態解明を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは医局会におけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 先天奇形、肝不全形成モデル作成の実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 2) 先天奇形、肝不全の解剖学的、生理学的意義を習得しその臨床的意味を理解している。
- 3) 先天奇形、肝不全モデルの解析から、奇形形成過程を理解し、その新しい知見を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

授業科目： A6 医科学演習 脳神経外科学 (必修 8 単位)

科目コード 10060

担当教員：倉津 純一、中村 英夫、牧野 敬史

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 4限

講義室：脳神経外科医局 (外来棟 6階)

**【授業の内容】** 悪性脳腫瘍の中でもっとも頻度の高い神経膠腫を例に、腫瘍発生の分子生物学的機序を解説する。具体的には、神経膠腫でしばしば認められる遺伝子異常 (p53 遺伝子の変異、IDH1/2 遺伝子の変異、MGMT 遺伝子プロモーターのメチル化、1p/19q 染色体の欠失、上皮細胞増殖因子の増幅など) が癌化のシグナル伝達系および治療抵抗性に関与する役割を理解してもらう。また、これらの遺伝子異常と患者の予後との関係についても講義する。さらにがん幹細胞の概念を理解する。

腫瘍の産生するケモカインが、腫瘍形成に及ぼす調整機能についても MCP-1 を例にとって解説し、腫瘍免疫に関する理解を深める。

**【評価方法】** レポートによる

**【成績評価基準】**

講義の出席率が 75%以上の者にレポートによる試験を行う。

講義は、インターネット等のメディアを利用したものを含む。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 腫瘍発生の分子生物学的機序について、基礎的な知識を理解している。
- 2) p53 遺伝子の変異、IDH1/2 遺伝子の変異、上皮細胞増殖因子の増幅が、癌化に関連するシグナル伝達系に及ぼす役割について理解している。
- 3) MGMT 遺伝子プロモーターのメチル化、1p/19q 染色体の欠失と治療効果について理解している。
- 4) 腫瘍の産生するケモカインが、腫瘍形成に及ぼす調節機能について理解している。
- 5) グリオーマ幹細胞について、基礎的な知識を理解している。

授業科目： A7 医科学研究 脳神経外科学 (必修 8 単位)

科目コード 10070

担当教員：倉津 純一、中村 英夫、牧野 敬史

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 3限

講義室：脳神経外科医局 (外来棟 6階)

**【授業の内容】** 神経膠腫において見られる遺伝子異常の検出法について実習する。具体的には、確立されたグリオーマ培養細胞株や手術摘出組織より DNA, mRNA を抽出し、1) p53 および IDH1 遺伝子のシーケンスによる変異解析、2) PCR 法による MGMT 遺伝子プロモーターメチル化解析、3) 上皮細胞増殖因子遺伝子増幅および 1p/19q 染色体の欠失を検出する FISH 法について実習を行う。また、シグナル伝達系の解析としてウエスタンブロット、組織解析のための免疫組織化学染色、in situ hybridization の実習も行う。

**【評価方法】** レポートによる

**【成績評価基準】**

実習の出席率が 75%以上の者にレポートによる試験を行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 神経膠腫において見られる遺伝子異常の検出法について理解している。
- 2) グリオーマ培養細胞株や手術摘出組織より DNA, mRNA を抽出することについて理解している。
- 3) 遺伝子シーケンスによる塩基配列の決定について理解している。
- 4) メチル化特異的 PCR について理解している。
- 5) 上皮細胞増殖因子遺伝子増幅および 1p/19q 染色体欠失を検出する FISH 法について理解している。
- 6) ウエスタンブロット、組織解析のための免疫組織化学染色、in situ hybridization について理解している。

授業科目：A6 医科学演習 整形外科学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：水田 博志、井手 淳二

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として整形外科資料調査室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 運動器の破壊・修復の分子メカニズムと制御機構の解明、運動器の再生誘導に向けた基礎研究、運動器疾患への分子遺伝学的アプローチなどに焦点をあて、近年の運動器基礎研究の展開と個々の研究における仮説の設定とその検証過程について演習を指導する。また、運動器疾患の病態解析や診断・治療・予防法の臨床的検証のために必要な方法論について一つの具体例が示された論文を取り上げ、研究の展開法を理解するための演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された運動器基礎研究ならびに臨床研究の成果について理解する能力を習得している。
- 2) 運動器基礎研究における基本的解析手法の原理と結果の解釈について理解している。
- 3) 運動器疾患の臨床研究における基本的な方法論と結果の解釈について理解している。
- 3) 運動器疾患の未解決課題の解明に際してどのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 研究課題に対応する分野における過去の研究成果について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 整形外科学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：水田 博志、井手 淳二

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として整形外科資料調査室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要なモデル動物や培養細胞などを対象とした組織学、生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。また、臨床研究を進めるために必要な研究デザインの立案、研究計画書の作成、倫理的問題、医学統計などの方法論の習得を指導する。これらを利用して、運動器疾患の病因・病態解明、診断・治療・予防法の新たな開発や検証に関わる基礎研究あるいは臨床研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した研究手法の習得、研究結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 運動器基礎研究に必要な種々の実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 2) 運動器疾患の臨床研究に必要な研究方法を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 3) 運動器疾患の病因・病態解明、診断・治療・予防法の新たな開発や検証に関わる適切な研究課題を設定している。
- 4) 設定した研究課題に対して研究手法を習得し適切な実験計画を立案して実行している。



授業科目：A6 医科学演習 産科婦人科学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：片渕秀隆、大場 隆、田代浩徳、本田律生、岡村佳則

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として産科婦人科学教室のセミナー室および実験室で行う。

#### 【授業の内容】

産科学：体外受精・胚移植において、体外での卵細胞や胚の質を維持する、さらには改善するために行われてきた試みについて、いくつかの代表的な論文を取り上げ、どのような展開がなされてきたかについて演習する。特に、配偶子あるいは胚と他の細胞との共培養について、臨床に還元しうる範疇で行われてきた試みについて演習する。

婦人科学：近年の卵巣がん発生・進展機構における重要な現象の発見の経緯と、その現象の発生機序に関する仮説の設定と、卵巣がんの発生母地となる卵巣表層上皮細胞の特性、その増殖制御に関わる種々の細胞や分子の同定などに基づく仮説の検証の経緯について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに、卵巣がんの診断に関する古典的な手法、ならびに近年開発された最新の手法について理解するための演習を指導する。

【評価方法】 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプレゼンテーション等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

##### 産科学：

- 1) 英語で記載された周産期医学・生殖医学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 周産期医学・生殖医学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 周産期医学・生殖医学の未解決課題の解明に際し、どのような解析法を利用できるか理解している。
- 4) 周産期医学・生殖医学の研究課題に対応する分野における過去の重要な発見について理解している。

##### 婦人科学：

- 1) 英語で記載された婦人科腫瘍学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 婦人科腫瘍学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 婦人科腫瘍学の未解決課題の解明に際し、どのような解析法を利用できるか理解している。
- 4) 婦人科腫瘍学の研究課題に対応する分野における過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 産科婦人科学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：片淵秀隆、大場 隆、田代浩徳、本田律生、岡村佳則

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として産科婦人科学教室のセミナー室および実験室で行う。

#### 【授業の内容】

産科学：医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒト体外受精・胚移植における卵胞発育の刺激、超音波断層法による卵胞の観察を実習する。採卵された卵の培養、媒精、胚の質的評価、胚移植の手技について細胞培養の基本的な手技を含め実習する。さらに顕微授精を始めとした胚の操作について、マウス胚を用いた実習を行う。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

婦人科学：医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒト卵巣表層上皮細胞を対象とした組織学、細胞生物学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用してヒト卵巣表層上皮細胞の増殖調節機構の解明について指導する。また不死化ヒト卵巣表層上皮細胞系を用いた細胞増殖制御に関する基礎研究、あるいは発がん機構に関わる応用研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

【評価方法】 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

##### 産科学：

- 1) 配偶子の培養、授精について、細胞培養の基本的な手技を含め実験手技を習得している。
- 2) 配偶子の共培養法の開発に関わる基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けて実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

##### 婦人科学：

- 1) 初代および不死化ヒト卵巣表層上皮細胞系の樹立と培養法について実験手技を習得している。
- 2) 同細胞における増殖制御に関する基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けて実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。実験の手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

授業科目：A6 医科学演習 泌尿器科学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：江藤正俊、河野吉昭

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 6限

講義室：原則として泌尿器科学教室の医局および実験室で行う。

**【授業の内容】**腎細胞癌に対するサイトカイン療法、膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法、前立腺癌に対するペプチドワクチン療法といったように、泌尿器癌は元来、免疫療法が効きやすい傾向がある。分子標的薬の出現で、癌治療は大きな転換期を迎えているが、分子標的薬の実際の奏効率は治験で得られた結果を下回るものであり、それらは決して夢の治療薬ではなく、副作用も含めた多くの問題があることもわかってきた。そこで、泌尿器癌マウスモデルを用いて、免疫療法を含めた集学的治療モデルを作成し、抗腫瘍効果、各種免疫学的パラメーターの解析を行い、研究成果を論文にまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 実験手技の習得状況を審査し、レポート等の提出物により成績評価を行う。なお論文作成、学会発表、抄読会・ラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポート等の提出物に替えることができる。

**【成績評価基準】**

成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 免疫学的パラメーター（細胞障害活性、サイトカイン産生等）の測定の実験手技を習得している。
- 2) フローサイトメトリーを用いた細胞解析の基本的実験手技を習得している。
- 3) 一般的な細胞培養法について理解し、習得している。
- 4) RT-PCR やノーザンブロット法等の遺伝子発現の評価法を理解し、習得している。

授業科目：A7 医科学研究 泌尿器科学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：江藤正俊、河野吉昭

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 6限

講義室：原則として泌尿器科学教室の医局および実験室で行う。

**【授業の内容】**腎細胞癌、尿路上皮癌、前立腺癌などの泌尿器癌を対象として診断、病態および治療に関して講義を行う。それぞれの疾患の診断方法、病態、外科治療、放射線療法、化学療法、免疫療法、内分泌療法、分子標的治療における最新のデータを示し解決できていない諸問題について検討を加え、具体的な課題を示しその課題の解決実現の可能性と実現方法（病理組織学的実験手技、プロテアーゼ活性解析、細胞培養・タンパク質解析・DNA 抽出・RNA 抽出）について指導する。

**【評価方法】** 実験手技の習得状況を審査し、レポート等の提出物により成績評価を行う。なお論文作成、学会発表、抄読会・ラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポート等の提出物に替えることができる。

**【成績評価基準】**

成績評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 泌尿器癌の現状について理解している。
- 2) 泌尿器癌の基礎研究に必要な基本的実験手技を習得している。
- 3) 泌尿器癌の臨床研究に必要な研究方法や統計解析を習得している。
- 4) 設定した研究課題に対して、適切な研究方法や実験方法の立案と結果の評価方法を習得している。

<b>授業科目：A6 医科学演習 眼科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：谷原 秀信、井上 俊洋 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則として眼科学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 失明性眼疾患である網膜疾患（糖尿病網膜症や網膜色素変性症、加齢黄斑変性症など）と緑内障の病態は、網膜神経細胞の細胞死による。そこで、失明性眼疾患に対する新しい治療概念として、神経保護や神経再生が期待されている。近年の分子遺伝学的研究の進展に伴い解明された多様な眼疾患の原因遺伝子や分子病態機構について講義する。さらに、我々が行っている神経保護や神経再生につながる分子細胞生物学的研究について解説する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された眼科の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 眼科領域における分子遺伝学的研究の一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 眼科学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。</li> <li>4) 眼科学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 眼科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：谷原 秀信、井上 俊洋 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限 講義室：原則として眼科学教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して神経保護や神経再生につながる分子細胞生物学的研究について指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 眼科領域における神経保護について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。</li> <li>2) 眼科領域における神経再生について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：湯本 英二、讃岐 徹治

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2限

講義室：原則として耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 反回神経はほとんどが運動神経線維から構成されており、傷害を受けた場合でも回復能力は高いと考えられる。しかし、実際の臨床ではいったん傷害を受けた反回神経の機能が完全に戻ることは極めてまれである。神経の再生に関する基礎研究は坐骨神経や顔面神経など太い神経が使われてきたが、反回神経については、ほとんど解明されていないのが現状である。本科目においては神経再支配や反回神経再生に関わる細胞群や種々の神経栄養因子の同定などに基づく仮説の検証について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに神経再支配と反回神経再生についての解析方法と機能分子の同定方法に関するこれまでの手法、ならびに近年開発された最新の手法について理解するための演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英文で記載された神経再支配および反回神経再生の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 神経再支配、反回神経再生における一般的な解析方法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 神経再支配、反回神経再生についての研究課題に対応する過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：湯本 英二、讃岐 徹治

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 2限

講義室：原則として耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために以下の項目についての実験手技の習得を指導する。これを利用して神経再支配についての基礎研究、あるいは反回神経再生に関わる応用研究を指導する。

- ①末梢反回神経に対して種々の程度に傷害を与えたモデル動物を用いて、傷害部位および中枢（疑核）における神経線維再生過程を電子顕微鏡、免疫組織学的手法、分子生物学的手法を用いて、神経栄養因子の動態と機能に注目して解析する。
- ②この再生過程における神経栄養因子を修飾した場合の神経機能の回復を多面的に検討する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 神経再支配に関わる基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けて実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 2) 喉頭の神経再支配に関して適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

授業科目：A6 医科学演習 歯科口腔外科学（必修 8 単位）

科目コード 10060

担当教員：中山 秀樹、平木 昭光  
開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 4限  
講義室：受講者数により適宜連絡する。

【授業の内容】近年の腫瘍学における重要な発見の経緯と、腫瘍発生、転移機序に関する仮説の設定ならびに、腫瘍の増殖に関わる種々の分子の同定などに基づく仮説の検証の経緯と方法について、いくつかの実例を挙げて演習する。さらに腫瘍の転移、浸潤に関わる機能分子やこれをコードする遺伝子を同定し、当該遺伝子の発現様式、さらに遺伝子産物の構造と、細胞内および組織内局在等に関する情報を解説する。これらを利用して当該分子の機能と、治療への応用について、細胞生物学、分子生物学、発生工学などの手法を駆使して解析し実験系の立案、実施について指導する。

【評価方法】 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに研究の立案、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。

【成績評価基準】

講義の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 口腔癌関連論文の研究成果について理解している。
- 2) 口腔癌細胞の性状・機能について理解している。
- 3) 口腔癌細胞の浸潤、転移に関するメカニズム、各種因子について理解している。
- 4) 口腔癌浸潤、転移に関わる実験系について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 歯科口腔外科学（必修 8 単位）

科目コード 10070

担当教員：中山 秀樹、平木 昭光  
開講年次及び時間：1年～2年 後期 金曜 3限  
講義室：受講者数により適宜連絡する。

【授業の内容】転移機構の解明に必要な研究手法について実習する。具体的には、ヌードマウス移植法による転移実験系の実習、口腔癌組織での免疫組織標本作成法、Western blotting 法での腫瘍転移関連蛋白の検出法、Northern blotting による mRNA の検出、in situ hybridization 法による mRNA の局在の検索法、また、PCR-SSCP、PCR-RFLP 法にての遺伝子点突然変異の発現状態、さらにマイクロサテライト法での遺伝子不安定性の検索法を実習する。

【評価方法】 実験手技の習得状況ならびにレポート等により成績評価を行う。なお論文、学会発表等をもってレポートに替えることができる。

【成績評価基準】

実習の出席率が75%以上の者にレポートによる試験を行う。

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 免疫組織染色の原理と細胞表面抗原の検出方法について理解している。
- 2) ウェスタンブロット、ノーザンブロット、RT-PCR などと口腔構成細胞の機能的性質について理解している。
- 3) 扁平上皮細胞、唾液腺細胞の培養法の原理について理解している。
- 4) 口腔構成幹細胞の試験管内分化誘導の原理と細胞系譜解析法について理解している。

<p>授業科目：A6 医科学演習 皮膚病態治療再建学 （必修 8単位） 科目コード10060</p> <p>担当教員：尹 浩信、神人正寿、福島 聡、増口信一、牧野貴充、伊方敏勝、市原麻子、城野剛光、宮下 梓  開講年次及び時間：1年～2年 未定  講義室：受講者数により適宜連絡する。</p>
<p>【授業の内容】炎症性皮膚疾患、および皮膚腫瘍を中心に、基本的な情報収集作業の実践方法、特に疫学的研究方法について演習を行う。それらを用いて討論形式で情報交換および 個々の具体的課題についてテーマ別に討論する。また疫学的、あるいは遺伝学的研究について、その最新手法を理解するための演習を行い、あわせて、その倫理的見地からの討論を行う。</p>
<p>【評価方法】 レポートによる</p>
<p>【成績評価基準】  レポートは以下の項目について評価する。  1) 英語で記載された皮膚科学の研究成果について、理解する能力を習得している。  2) 皮膚疾患についての疫学的研究法を理解している。  3) 皮膚疾患の発症メカニズムを解析する遺伝学的手法について理解している。  4) 皮膚科学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。</p>

<p>授業科目：A7 医科学研究 皮膚病態治療再建学 （必修 8単位） 科目コード10070</p> <p>担当教員：尹 浩信、神人正寿、福島 聡、増口信一、牧野貴充、伊方敏勝、市原麻子、城野剛光、宮下 梓  開講年次及び時間：1年～2年 未定  講義室：受講者数により適宜連絡する。</p>
<p>【授業の内容】医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために、皮膚疾患研究の基礎となる皮膚病理学を中心に実習指導をおこなう。皮膚生検で得られた試料を用いて組織保存法・PCR法・細胞培養、あるいは免疫組織学的手法について指導する。また紫外線・放射線などを用いた皮膚腫瘍発生に関する実験動物取り扱いについて指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。</p>
<p>【評価方法】 レポートによる</p>
<p>【成績評価基準】  レポートは以下の項目について評価する。  1) 皮膚病理組織学および免疫組織学的手法について理解している。  2) 皮膚生検より得られた試料からの細胞培養法あるいはPCR法について理解している。  3) 皮膚腫瘍発生に関する動物実験について理解している。  4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</p>

<b>授業科目：A6 医科学演習 侵襲制御医学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：木下順弘 開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 3限 講義室：原則として西病棟6FICUで行う。	
<b>【授業の内容】</b> 近年の侵襲制御医学における重要な論文より、基礎研究、臨床研究に基づく仮説の検証と信頼性について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに、近年開発された最新の治療法について理解するための演習を指導する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された侵襲制御医学の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 臨床研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 臨床研究での課題解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。</li> <li>4) 侵襲制御医学の研究課題に対する、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 侵襲制御医学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：木下順弘 開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限 講義室：原則として西病棟6FICUで行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な臨床医学研究の成果の解明について指導する。侵襲制御医学に関わる研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床研究について、仮説と結果の関係を理解している。</li> <li>2) 研究の長所と欠点を指摘できる。</li> <li>3) 研究成果を応用、発展あるいは、その臨床応用に向けて新しいアイデアを持っている。</li> <li>4) 研究課題に対して、適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>	



<b>授業科目：A6 医科学演習 麻酔科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：山本 達郎 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則として麻酔科学教室の実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 特にラットを対象とした脊髄における侵害刺激伝達に関する研究と、犬を対象とした心肺蘇生法開発に関する研究に関した演習を行う。近年、痛み関連の神経伝達物質が報告されてきており、これらの役割に関する知見、また心肺蘇生に関しては新たな蘇生法の開発の現状などについて、教科書の輪読、論文の抄読を通じて、最新の知識を得るようにする。また、これらの知識をもとに、実験法の基本的な手法について理解するための演習を指導する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 疼痛研究、蘇生研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 疼痛研究、蘇生研究の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 麻酔科学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：山本 達郎 開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 3限 講義室：原則として麻酔科学教室の実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、動物を対象とした生理学的、薬理学的、形態学的な研究手法の習熟に努める。これらを利用して、侵害刺激伝達に関する研究では今まで検討されてきた各種薬物の効果を追試すると共に、新たな発見された神経伝達物質の役割に関する研究を指導する。心肺蘇生に関しては、体外式心肺補助法を用いた低体温などによる心肺蘇生法に関する技術を習熟すると共に、新たな蘇生技術の開発につながる可能性のある薬物に関する研究を指導する。以上の研究を行い、成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ラットにおける痛みの評価法を理解している。</li> <li>2) ラットにおける薬物投与法を理解し、実行できる。</li> <li>3) 犬の心停止モデルと作製することが出来、心停止後の脳機能評価法を理解している</li> <li>4) 設定した研究課題に対して、適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 分子細胞制御学 (必修8単位)

科目コード10060

担当教員：小椋 光、山中 邦俊、江崎 雅俊

開講年次及び時間：1年～2年

講義室：発生医学研究所小カンファレンス室および分子細胞制御分野の実験室で行う。

【授業の内容】細胞の制御機構（細胞内タンパク質の動態と品質管理、オルガネラの形成と維持、細胞周期と細胞分裂など恒常性の維持と細胞増殖に関わる広範な細胞機能の制御機構を含む）を解明するために用いられる順遺伝学的、逆遺伝学的方法論、すなわち突然変異体の分離と原因遺伝子の単離などの方法論、遺伝子ノックアウトやRNA干渉法などによる変異体の作製などの方法論、それらを用いた解析法について、文献をいくつか取り上げて実際の研究の進め方を演習する。また、当該遺伝子産物の細胞内局在の解析法や精製タンパク質の試験管内での酵素学的・分光学的解析方法などについても演習する。

【評価方法】細胞の制御機構に関連した著書や論文の読解・批判能力、並びに実験計画の立案能力等について、口頭発表とレポート等を総合的に評価する。論文・学会発表、あるいは教室ミーティングにおけるプロGRESS・レポート等をもってレポートに代えることができる。

【成績評価基準】

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 細胞の制御機構に関連する英語文献を読解し、未解決の問題を発見することができる。
- 2) 細胞の制御機構に関連する生命現象を解明するための種々の遺伝・生化学的方法を理解し、結果を解釈する能力を習得している。
- 3) 細胞の制御機構に関連する生命現象を視覚化する種々の手法の原理と有効性ならびに限界について理解している。
- 4) 適切な手法を選択し、それらを組み合わせて、課題を解決する実験計画を立案することができる。

授業科目：A7 医科学研究 分子細胞制御学 (必修8単位)

科目コード10070

担当教員：小椋 光、山中 邦俊、江崎 雅俊

開講年次及び時間：1年～2年 通年

講義室：発生医学研究所小カンファレンス室および分子細胞制御分野の実験室で行う。

【授業の内容】医科学演習を通じて設定した細胞の制御機構（細胞内タンパク質の動態と品質管理、オルガネラの形成と維持、細胞周期と細胞分裂など細胞の恒常性維持と増殖制御に関わる広範な細胞機能の制御機構を含む）に関する研究課題を解決するため、順遺伝学的あるいは逆遺伝学的方法による変異体の分離と変異体の表現型の解析、遺伝子の発現調節と遺伝子産物の細胞内局在の解析、相互作用タンパク質の探索、目的タンパク質の発現・精製法の確立、精製タンパク質を用いた試験管内反応・分光学的解析等の種々の実験手技の習得を指導する。これを通して、原核生物として大腸菌、単細胞真核生物として酵母、多細胞真核生物として線虫などを用いて、当該遺伝子産物の細胞機能と分子機構の解明について指導する。得られた研究成果について考察を加え、論文・レポートにまとめ、口頭発表するための指導を行う。

【評価方法】研究課題に関連した実験手技の習得、研究成果の解釈とそのレポート等を総合的に評価する。論文・学会発表、あるいは教室ミーティングにおけるプロGRESS・レポート等をもってレポートに代えることができる。

【成績評価基準】

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 細胞の制御機構に関連する生命現象を解析する種々の解析方法を習得している。
- 2) 細胞の制御機構に関連する生命現象に関して適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し、実行している。
- 4) 細胞の制御機構に関連する生命現象に関して新たな知見を得ている。
- 5) 得られた研究成果について考察を加え、論文にまとめ、発表することができる。

授業科目：A6 医科学演習 腎臓発生学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：西中村 隆一、田中 聡、太口 敦博

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2限

講義室：原則として腎臓発生学教室のセミナー室および実験室で行う。

【授業の内容】 発生工学的手法によって作成された遺伝子変異マウスが胚発生過程における組織・器官形成、特に腎臓形成に異常を呈した論文を例にとり、細胞間相互作用の観点から組織・器官形成の分子メカニズム解明へ向けた種々の方法論、表現型解析についての研究戦略、潜在的問題点などについて演習する。毎回レポートを提出し、相互添削を行うことにより理解をさらに深め、実際の研究をどのようにデザインし、作業仮説を証明するためにどのようなアプローチが考えられるかを修得する。

【評価方法】 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは実験経過報告等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された発生学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) 発生学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 発生学の未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 発生学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 腎臓発生学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：西中村 隆一、田中 聡、太口 敦博

開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 1限

講義室：原則として腎臓発生学教室のセミナー室および実験室で行う。

【授業の内容】 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、発生工学、組織学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して腎臓形成に関わる遺伝子の発現様式、遺伝子産物の構造、細胞内および組織内局在等を検討し、腎臓形成に必須な遺伝子の生体内での機能に迫る実験について指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

【評価方法】 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいは実験経過報告等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 胚性幹細胞の維持について、実験手技を習得している。
- 2) 腎臓発生を解析する遺伝学・組織学的手法について習得している。
- 3) 遺伝子改変マウスを用いた実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

<b>授業科目：</b> A6 医科学演習 脳発生学（必修8単位）	<b>科目コード</b> 10060
担当教員：嶋村 健児、畠山 淳 開講年次及び時間：1年～2年 講義室：原則として脳発生分野の研究員室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 近年の発生生物学における重要な発見の経緯と、脊椎動物の脳・神経系の発生機序に関する仮説の設定、およびその検証の経緯について、実例を挙げた演習を指導する。さらに、発生現象の解析方法と機能分子の同定、関与分子の機能の解析方法に関して、古典的な手法から最新の手法に至って理解し習得するための演習を指導する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等総合的に評価する。なお、論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記のすべてに着目して行う。 1) 英語で記載された発生生物学の研究論文について、理解する能力を習得している。 2) 発生生物学、胚発生学における一般的な解析法の理解と、その結果についての適切な解釈をすることができる。 3) 発生生物学における未解決課題の解明に際して、どのような解析法を利用、選択すべきかを理解している。 4) 発生生物学における研究課題に関連する過去の重要な知見について理解している。	

<b>授業科目：</b> A7 医科学研究 脳発生学（必修8単位）	<b>科目コード</b> 10070
担当教員：嶋村 健児、畠山 淳 開講年次及び時間：1年～2年 講義室：原則として脳発生分野の研究員室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を遂行するために、ニワトリ、マウス等のモデル動物を対象として、胚発生学、細胞・分子生物学的な種々の実験手段の習得を指導する。これらを用いて、脊椎動物の脳・神経系の領域化、組織形成、形態形成に関する発生のプログラムを理解、解明することを指導する。さらに、以上の研究によってもたらされる解析結果をまとめ、口頭で発表し、質疑応答できるための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手法の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表と指導教員との討論、レポート等を総合的に評価する。なお、論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 1) 神経組織の誘導と領域化のしくみを解析する実験手法を習得し、新しい知見を得ている。 2) 神経分化、形質決定、および脳・神経系の形態形成のしくみを解析する実験手法を習得し、新しい研究成果を得ている。 3) 設定した研究課題に対して、必要となる実験手法を習得し、適切な実験計画を立案して実行している。	

授業科目：A6 医科学演習 幹細胞誘導学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：江良 択実

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として発生医学研究所・幹細胞誘導分野のカンファレンス室と研究室で行う。

**【授業の内容】** 最近の発生学、特に幹細胞学、さらには胚性幹細胞や iPS 細胞のような多能性幹細胞の分化機構について、あるいはその未分化性の維持機構等について、それぞれの研究テーマに基づく発生機序に関する仮説の設定と、仮説の検証の経緯について、いくつかの実例を挙げた演習・実験を指導する。さらに、これまで明らかにされた、さまざまな幹細胞の持つ特徴について、その解析方法についての独自の仮説を構築し、解決方法のトレーニングを通して、論理的な思考を養い、将来にわたって独自の手法や創造力豊かな研究者あるいは研究理解者となれるような演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された幹細胞学、発生学の研究成果（論文内容）について、理解する能力を習得している。
- 2) 発生学的研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) 発生学の未解決課題の解明に際して、仮説と解決方法の組み立て方を理解している。
- 4) これまで行われた幹細胞や発生現象について、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 幹細胞誘導学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：江良 択実

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として発生医学研究所・幹細胞誘導分野のカンファレンス室と研究室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした細胞生物学、生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して多能性幹細胞からの無血清培地を用いての分化誘導方法の樹立を通して、細胞分化、細胞増殖、分子機構の解明する方法を指導する。また誘導された未分化前駆細胞から成熟細胞への分化誘導方法についても研究を行い、再生医療の基盤研究あるいは応用的研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 多能性幹細胞の培養方法に習得している。
- 2) 多能性幹細胞からの分化誘導方法について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) 多能性幹細胞から誘導された細胞を利用して、実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。

授業科目：A6 医科学演習 損傷修復学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：立石 智

開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限

講義室：原則として損傷修復学教室のセミナー室および実験室で行う。

【授業の内容】DNA 修復・細胞周期制御・細胞死誘発機構および細胞老化誘発機構が、発癌に対して防御機構として機能していることを理解する。以上の機構において、DNA 傷害応答反応が果たしている役割を学習する。機構の発見の経緯と、その解析手法について、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに、DNA 損傷に応答しておきる ES 細胞の細胞死イメージング解析方法と機能分子の同定方法に関する手法、ならびに近年開発された最新の手法について理解するための演習を指導する。

【評価方法】 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載された細胞周期制御、細胞死誘発、細胞老化の研究成果を、理解する能力を習得している。
- 2) DNA 傷害応答反応の一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) ゲノム安定化機構の未解決課題の解明に、どのような解析法を利用できるかについて理解している。
- 4) 発がん防御学の研究課題に対応する分野における、過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 損傷修復学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：立石 智

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則として損傷修復学教室のセミナー室および実験室で行う。

【授業の内容】医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、動物細胞を対象とした、生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。先天的に DNA 修復機能が欠損した遺伝病の相補性群の決定と、細胞機能の特定に関する方法を指導し、細胞周期制御、細胞死誘発および細胞老化機構に関して教授する。また p53 等の癌抑制遺伝子、細胞周期制御遺伝子および DNA 修復遺伝子の連携による発癌防御機構に関して指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

【評価方法】 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

#### 【成績評価基準】

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 英語で記載された細胞周期制御、細胞死誘発、細胞老化の検出手技を習得している。
- 2) DNA 傷害応答反応の解析に関して、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。
- 3) DNA 修復機能を欠損した細胞の機能解析を通して、細胞死の誘発および DNA 傷害応答の開発に関わる基礎研究、臨床応用を視野に入れた実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 4) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している

授業科目：A6 医科学演習 組織幹細胞学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：小川 峰太郎、田村 潔美

開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 1限

講義室：原則として組織幹細胞学分野の研究室もしくは指定するセミナー室等で行う。

**【授業の内容】** 個体発生において造血・血管系が成立し維持されるメカニズムの解明を目指した研究のプロセスと、そこで用いられる基礎的な方法論について理解する能力を習得するために、造血幹細胞の同定・純化とその多能性および自己複製能の解析、胎生期における造血系と血管系の分化調節機構の解析、胚性幹細胞の試験管内分化を利用した造血・血管系の発生制御等について、実例を示した論文にあたることにより演習する。

**【評価方法】** 造血・血管系の個体発生に関する著書や論文を理解し批判する能力について、レポートと口頭発表により総合的に評価する。なお、研究室におけるジャーナルクラブ等をもってレポートおよび口頭発表に替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) 幹細胞の機能的同定と純化の方法論について理解している。
- 2) 血液・血管系の個体発生を解析する遺伝学・細胞学的方法について理解している。
- 3) 胚性幹細胞の分化制御に関する方法論について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 組織幹細胞学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：小川 峰太郎、田村 潔美

開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 1限

講義室：原則として組織幹細胞学分野の研究室で行う。

**【授業の内容】** 造血・血管系の成立と維持機構を解析するための具体的な実験手法として、フローサイトメトリー、試験管内コロニー形成法、長期骨髄培養法、骨髄細胞移植など主要な血液学的手法、胎生期における造血・血管系の発生分化を解析するための分子細胞学的手法および遺伝学的手法、胚性幹細胞から造血・血管系細胞への分化を試験管内で誘導する技術等について実習を行う。さらに、実習で習得した技術を基礎にして、造血・血管系の成立と維持機構に関する研究課題を設定し、研究課題に沿って実験を立案・実行し、その成果について学会発表等を行うに至るまでの研究過程について指導を行う。

**【評価方法】** 実験手法の習得状況、研究課題に沿って実験を立案・実行する能力、実験結果を適切に解釈する能力等について、レポートと口頭発表により総合的に評価する。なお、論文、学会発表、研究室におけるプロGRESSレポート等をもってレポートおよび口頭発表に替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートは以下の項目について評価する。

- 1) フローサイトメトリーによる幹細胞の純化方法について習得している。
- 2) 造血幹細胞の機能的同定方法について習得している。
- 3) 血液・血管系の個体発生を解析する遺伝学・細胞学的手法について習得している。
- 4) 胚性幹細胞の分化誘導法について習得している。
- 5) 血液・血管系の個体発生に関して適切な研究課題を設定している。
- 6) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。
- 7) 研究成果について適切に発表し討論することが出来る。

授業科目：A6 医科学演習 細胞医学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：中尾 光善、斉藤 典子、日野 信次朗  
開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 4限  
講義室：原則として細胞医学分野のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 国際誌に掲載された医学・生命科学分野の論文を取り上げて、エピジェネティクスの観点から、論文の内容について著者に代わって説明を行う。研究の背景、目的と仮説、実験の方法とその結果、考察と提唱されるモデルについて演習する。エピジェネティクスが関わる生命現象（発生・再生、がん、老化、遺伝など）を理解するとともに、遺伝情報制御の重要性について重点的に繰り返す。論文やデータベースから情報を収集・分析する能力を修得して、科学的な思考過程と論理性の向上を促す。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 英語で記載されたエピジェネティクスの研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) エピジェネティクスの分子機構と生命現象における意義について理解している。
- 3) エピジェネティクスとヒト疾患・病態の関連性について理解している。
- 4) エピジェネティクス研究における解析法と原理について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 細胞医学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：中尾 光善、斉藤 典子、日野 信次朗  
開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限  
講義室：原則として細胞医学分野のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて設定したエピジェネティクス研究課題を解決するために、細胞生物学、分子生物学および生化学的な種々の実験手技の習得を指導する。必要な場合にはヒトあるいはマウスなどの実験動物を対象とした実験も含めて、生命現象におけるエピジェネティクスの重要性の解明について指導する。発生・再生、がん、老化、遺伝などに関する基礎的なエピジェネティクス研究、あるいはエピジェネティクス研究に基づいたヒト疾患の診断・治療法の開発に関わる応用研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 細胞生物学、分子生物学および生化学的な実験手技などについて習得している。
- 2) エピジェネティクスと生命現象に関して適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。
- 4) エピジェネティクスと生命現象に関して新たな知見を得ている。



<b>授業科目：A6 医科学演習 エイズ学Ⅰ（必修 8単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：滝口 雅文 開講年次及び時間：1年～2年 通年 火曜 4限 講義室：原則としてエイズ学Ⅰ教室のセミナー室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 免疫学・ウイルス学における重要な現象の発見の経緯、その現象の発生機序に関する仮説の設定、免疫系を構成する細胞群および感染免疫制御に関わる種々の分子の同定などに基づく仮説の検証の経緯について、最新の英語論文を用いた演習する。	
<b>【評価方法】</b> 演習で用いた著書や論文の理解と批判の能力、ならびに口頭発表を総合的に評価する。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自ら紹介した英語論文を十分理解している。</li> <li>2) 自ら紹介した英語論文を相手が理解できるように発表できたか。</li> <li>3) 紹介された英語論文を十分理解し、問題点や論点を把握できたか。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 エイズ学Ⅰ（必修 8単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：滝口 雅文 開講年次及び時間：1年～2年 通年 金曜 1限 講義室：原則として エイズ学Ⅰ教室のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした細胞免疫学、生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して免疫系のTリンパ球によるウイルス感染細胞の認識機構を解析する方法論を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表などを総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> <li>2) 実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。</li> <li>3) プログレスレポート、学会発表などで、研究成果の発表が出来ている。</li> <li>4) 修士論文および修士論文発表で、研究成果の発表が出来ている。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 エイズ学 II（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：松下 修三

開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 3限

講義室：原則としてエイズ学 II 分野のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 近年のレトロウイルス学〔ヒト免疫不全ウイルス（HIV）学〕における重要な現象の発見の経緯と、その現象の発生機序に関する仮説の設定、ならびにその病態解析のための方法論に関して、いくつかの実例を挙げた演習を指導する。さらに、レトロウイルス感染病態の解析方法と機能分子の分子生物学的または細胞生物学的解析法に関する、古典的な手法ならびに近年開発された最新の手法について理解するための演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記の項目に着目して行う。

- 1) 英語で記載された最新のレトロウイルス学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) レトロウイルス感染研究における一般的な解析法の原理と、結果の解釈について理解している。
- 3) レトロウイルス感染の未解決課題の解明に、どのような解析法が可能か理解している。
- 4) レトロウイルス感染症の研究課題に対応する過去の重要な発見について理解している。

授業科目：A7 医科学研究 エイズ学 II（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：松下 修三

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 1限

講義室：原則としてエイズ学 II 分野のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 実際の HIV 感染個体（臨床例又は動物モデル）又は *in vitro* モデル由来の検体を用いて病態解析のための基本的手技を実習する。すなわち試料よりウイルスの遺伝情報を PCR にて増幅単離し、シーケンサーを用いて遺伝子配列を決め、系統樹を作製する。さらに、HIV に対する細胞性免疫や中和抗体を含めた液性免疫に関して、シールドウイルスの作成やセルソーターを用いた解析などを行う。これらの知見もとに、HIV 感染症の病態解析と予防・治療法の開発を目指す研究を行う。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) HIV に関する遺伝学・細胞学的実験方法について習得し、新しい研究成果を得ている。
- 2) HIV 感染症の病態解析と予防・治療の開発に関して適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。
- 4) HIV 感染症の病態解析と予防・治療の開発に関して新たな知見を得ている。

<p>授業科目：A6 医科学演習 エイズ学 III (必修 8 単位) <span style="float: right;">科目コード 10060</span></p> <p>担当教員：岡田誠治  開講年次及び時間：1年～2年 通年 金曜 1限  講義室：原則としてエイズ学Ⅲ教室の教授・セミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> ヒト血液細胞とウイルスの相互作用を解析する方法論、ヒト造血幹細胞を移入した免疫不全マウスにおけるリンパ系を含むヒト造血系の再構築に関する技術論、ヒト造血系が再構築されたマウスへの HIV 感染におけるウイルス学的病態論、その小動物を用いたワクチンおよび抗ウイルス剤の有効性検定の方法論などについて、一つの具体例が示された論文を取り上げ、実際の研究に照らして演習する。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b>  レポートの評価は、下記の項目について評価する。  ひとつのテーマに関してのパワーポイントを用いた発表をもってレポートに替えることがある。  演習は、インターネット等のメディアを利用したものを含む。  1) 英語で記載された免疫学・血液学・ウイルス学の研究成果について、理解する能力を習得している。  2) 造血幹細胞移植の理論とマウスモデルについて理解している。  3) ヒトの造血・免疫系を構築したマウスのウイルス研究への応用について理解している。</p>

<p>授業科目：A7 医科学研究 エイズ学 III (必修 8 単位) <span style="float: right;">科目コード 10070</span></p> <p>担当教員：岡田誠治  開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 1限  講義室：原則としてエイズ学Ⅲ教室の教授・セミナー室および実験室で行う。</p>
<p><b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ヒトあるいはマウスなどの動物を対象とした細胞生物学・免疫血液学・分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して血液細胞とウイルス(特に HIV-1)の相互作用を解析する方法の確立を通じた感染現象の解明について指導する。また、小動物(マウス)を用いたヒト造血・免疫系の評価法、ヒトウイルス感染の影響、ワクチンや抗ウイルス薬開発に関わる応用研究などについて指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、論文と口頭発表のための指導を行う。</p>
<p><b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。</p>
<p><b>【成績評価基準】</b>  レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。  1) 血液細胞とウイルスの相互作用について、実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。  2) 実験的造血幹細胞移植法と解析法について習得している。  3) 実験小動物を用いたヒト感染症研究・疾患研究に関して適切な研究課題を設定している。  4) 設定した研究課題に対して適切な実験計画を立案し実行している。</p>

<b>授業科目：A6 医科学演習 エイズ学 IV（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：鈴 伸也 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則としてエイズ学 IV 分野のセミナー室及び実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 英文国際誌に掲載された最新のウイルス学・血液学に関する論文を用いて、ヒト免疫不全ウイルス（HIV-1）感染からエイズ発症に至る過程、その中で起こる造血系を構成する細胞群の機能・表現型異常との関連を理解する演習を行う。著者に代わって説明する事で、具体的な実験手法及び仮説を検証する為の研究デザインを理解させ、結果から情報を統合的に分析する重要性について修得させる。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、並びに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等で総合的に評価する。尚、論文、学会発表或いはラボミーティングに於けるプロGRESSレポート等をもってレポートに替える事が出来る。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目の全てに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 論文の選択に当たって自分なりの目的を持っていたか</li> <li>2) 紹介する論文の目的、方法、結論、考察を十分に理解しているか</li> <li>3) 結果及び論点に対して自分なりの考察が出来ているか</li> <li>4) 相手が理解出来る様に発表したか</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 エイズ学 IV（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：鈴 伸也 開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 1限 講義室：原則としてエイズ学 IV 分野のセミナー室及び実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて研究課題を設定し、その解決に必要な様々な手技（細胞生物・分子生物・遺伝子工学・蛋白化学・免疫化学的）の修得を指導する。特に、HIV-1 病原性発現機構の解明及び造血系を構成する細胞群の機能・表現型異常との関連解明を中心とし、その為の解析方法論を指導する。成果を文書としてまとめると共に、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈及び成果に関する口頭発表とレポート等で総合的に評価する。尚、論文、学会発表或いはラボミーティングに於けるプロGRESSレポート等をもってレポートに替える事が出来る。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記の幾つかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設定課題に必要な手技を修得し、新しい知見を得ているか</li> <li>2) 修得した手技を用いて、適切な実験計画を立案し実行しているか</li> <li>3) 得られた知見を基に、次の実験計画を設定し実行しているか</li> <li>4) 研究成果について適切に発表し討論する事が出来ているか</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 エイズ学Ⅴ（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：上野 貴将

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 1限

講義室：エイズ学研究センターのセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** エイズ/HIV 感染症に対するヒト免疫系の働きを基盤として、エイズ病態の発現に関わる機序、ウイルスの変異と進化、淘汰を解析する方法を習得する。細胞、蛋白質、遺伝子レベルの解析手法について、その原理と相互の関連性の理解を深める。本演習では、ヒト免疫系の個体差、ウイルス構成蛋白質の構造と機能に焦点を当て、最新の論文を参考にしながら、研究上の戦略とその展開について、実際の研究に則した演習を行う。

**【評価方法】** 医科学演習への積極的な貢献、演習で使用した著書や論文の理解度、ならびに論文や学会等での発表をもとに、総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

評価は、下記のすべての項目に基づいて行う。

- 1) 演習で使用した著書や論文（英語で記載されたもの）を十分に理解していること。
- 2) その内容を他者にきちんと説明できること。
- 3) エイズおよびヒト免疫学の過去の重要な発見について十分に理解していること。

授業科目：A7 医科学研究 エイズ学Ⅴ（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：上野 貴将

開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 1限

講義室：エイズ学研究センターのセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医科学演習を通じて習得したエイズおよびヒト免疫学に関連する理論、原理、技術をもとに、細胞、蛋白質分子、遺伝子を用いた実際の実験を行う。その際、研究課題の設定、実験の立案、解析方法の設定、得られた結果の解析、解釈と考察など、研究の全プロセスに渡る指導を行う。さらに、研究成果を口頭で発表し、論文としてまとめるための実践的な指導を行う。

**【評価方法】** 医科学研究への積極的な貢献、研究課題に則した実験方法の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表、質疑応答を総合的に評価する。なお、論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおける成果報告等も評価の対象とする。

**【成績評価基準】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 設定した課題の解決に必要な実験方法を習得している。
- 2) 適切な実験計画を立案し、実行している。
- 3) 新しい研究成果を得ている。
- 4) 修士論文、修士論文発表会で、研究成果の発表ができる。

<b>授業科目：A6 医科学演習 エイズ学VII（必修 8単位）</b>	<b>科目コード 10060</b>
担当教員：有海 康雄 開講年次及び時間：1年～2年 前期 月曜 2限 講義室：原則としてエイズ学VII分野のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> エイズの原因であるヒト免疫不全ウイルス（HIV-1）がヒトの細胞内で増殖するメカニズムやエイズ発症機序について理解する。個体、細胞、タンパク質、遺伝子レベルの解析方法について、その原理の理解を深める。本演習では、HIV-1のライフサイクルと関連する宿主因子に焦点を当て、最新の英語論文を参考にしながら、討論を通じて実験の組み立て方をはじめ、論文の読み方や批評の仕方について習得させる。	
<b>【評価方法】</b> 演習で使用した論文の理解度、またラボミーティングにおける Progress Report、論文や学会等での発表をもとに、総合的に評価する。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価は、下記のすべての項目に基づいて行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 演習で使用した英語論文を理解していること。</li> <li>2) 英語論文の内容を的確に他人に説明できること。</li> <li>3) HIV-1の生活環やエイズ病態について十分に理解していること。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 エイズ学VII（必修 8単位）</b>	<b>科目コード 10070</b>
担当教員：有海 康雄 開講年次及び時間：1年～2年 通年 木曜 2限 講義室：原則としてエイズ学VII分野のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> HIV-1がヒトの細胞内でどのように増殖制御されているのか解明するために、細胞、タンパク質、遺伝子レベルにおける基本的な実験手法を学び、実験を行う。その際、研究課題の設定、実験方法の設定、得られた結果の解析、解釈と考察などについて、研究指導を行う。さらに、研究成果を学会等において口頭で発表し、論文としてまとめるための実践的な指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究課題に則した実験方法の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表、質疑応答を総合的に評価する。なお、論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおける Progress Report 等も評価の対象とする。	
<b>【成績評価基準】</b> 評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設定した研究課題に対して、必要な実験方法を習得している。</li> <li>2) 適切な実験計画を組立て、実行している。</li> <li>3) HIV-1研究に関する新たな知見を得ている。</li> <li>4) 修士論文、修士論文発表会で、研究成果の発表ができる。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 エイズ学 XIII （必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：佐藤 賢文

開講年次及び時間：1年～2年 前期 水曜2限

講義室：原則としてエイズ学 XIII 教室のオフィスで行う。

**【授業の内容】**

ウイルス学・分子生物学における重要な現象の発見の経緯、研究開始時点での仮説の設定方法、さらに仮説の検証過程、研究手法について、最新の英語論文を用いた演習を行う。

**【評価方法】**

授業への参加および演習で用いた著書や論文の理解と評価能力、ならびに口頭発表を総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 最新のレトロウイルス学の研究成果について記述された英語論文を理解し、概念を習得できたか。
- 2) 英語論文を自ら紹介し、相手が理解できるように発表できたか。
- 3) 紹介された英語論文を十分理解し、問題点や論点を把握できたか。

授業科目：A7 医科学研究 エイズ学 XIII （必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：佐藤 賢文

開講年次及び時間：1年～2年 通年 金曜1限

講義室：原則としてエイズ学 XIII 教室のオフィスおよび実験室で行う。

**【授業の内容】**

医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、ウイルス学的、分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。それらの手技を駆使し、応用する事でレトロウイルスの潜伏感染メカニズムを解析する研究手法を指導する。さらに、研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】**

授業への参加および研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表などを総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し、適切な実験計画を立案して実行している。
- 2) 実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 3) プログレスレポート、学会発表などで、研究成果の発表が出来る。
- 4) 修士論文および修士論文発表で、研究成果の発表が出来る。

<b>授業科目：A6 医科学演習 資源開発学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：中潟直己 開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 2時限 講義室：原則として生命資源研究・支援センターの演習室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 哺乳類の生殖および初期発生について、また、これら生殖の過程を効率的に改変することを目的として生まれた生殖工学の基本技術、すなわち、体外受精、胚や精子の凍結保存、胚移植について演習を指導する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載された生殖生理学および生殖工学の研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) 生殖工学的研究における一般的な原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 種々の生殖工学技術を用いて、マウスなどへの様々な利用法を理解している。</li> <li>4) 生殖工学の基本となった過去の重要な発見について理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 資源開発学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：中潟直己 開講年次及び時間：1年～2年 通年 金曜 3限 講義室：原則として生命資源研究・支援センターの演習室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、マウスなどを対象とした体外受精、胚や精子の凍結保存および胚移植などの種々の実験手技の習得を指導する。これらの技術を利用した遺伝子改変マウスの作製、保存、輸送などへの応用研究を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生殖工学に関する基本技術を習得し新しい研究成果を得ている。</li> <li>2) 種々の生殖工学技術を応用した実験手技を習得し新しい研究成果を得ている。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>	



授業科目：A6 医科学演習 バイオ情報学（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：荒木 正健

開講年次及び時間：1年～2年 前期 火曜 3限

講義室：原則として生命資源研究・支援センター バイオ情報分野のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 医学や薬学の分野において、様々な疾患モデルマウスがいかに重要な役割を果たしてきたかを理解し、研究材料として利用する際に必要になる実験遺伝学的手法や分子生物学的手法について学習する。そのために、実際の研究がどのように展開されるのか、テーマを決めて関連するいくつかの論文を詳読する演習を指導する。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 英語で記載された実験遺伝学や分子生物学の研究成果について、理解する能力を習得している。
- 2) トランスジェニックマウスやノックアウトマウスの作製方法を理解している。
- 3) マウスを用いた基礎的な実験遺伝学的手法を理解している。
- 4) トランスジーンやミュータントアレルの検出方法を理解している。
- 5) ES細胞およびマウスリソースデータベースの利用方法を理解している。

授業科目：A7 医科学研究 バイオ情報学（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：荒木 正健

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 3限

講義室：原則として生命資源研究・支援センター バイオ情報分野のセミナー室および実験室で行う。

**【授業の内容】** 遺伝子トラップ法を用いて作製された数多くのマウスラインを材料にして、どのような疾患についてのモデルマウスを研究したいかのテーマを決め、マウスラインを選ぶ基準（スクリーニング方法）を考え、実験系をセットアップし、スクリーニングを行う。さらに、選択した疾患モデルマウスについて、表現型およびトラップされた遺伝子の解析を行い、疾患発症の分子機構を考察する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプログレスレポート等をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) マウスを用いた基礎的な実験遺伝学的手法について習得している。
- 2) 疾患モデルマウスを用いた適切な研究課題を設定している。
- 3) 設定した研究課題に関して適切な実験計画を立案し実行している。
- 4) 疾患モデルマウスの表現型解析により、新たな知見を得ている。

<b>授業科目：A6 医科学演習 R I 実験学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10060</b>
担当教員：古嶋 昭博 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則としてアイソトープ総合施設のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> R I をトレーサーとして用いて物質の挙動や性質を放射線計測により調べるための基礎的および応用的実験技術を習得させる。特に生体内へR I を投与後、組織、臓器、病巣などに集積した分布をイメージとして描出する画像化法から画像をコンピュータ処理・解析して放射能を定量するための技術論、動物や植物へ投与した場合におけるイメージングプレートによるオートラジオグラフィ技術からR I ラベルした細胞レベルのイメージングについて古典的な手法のみならず最新の手法などを理解するための演習を指導する。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連した著書や論文の理解と批判の能力、ならびに実験計画の立案に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語で記載されたR I 実験に関係した研究成果について、理解する能力を習得している。</li> <li>2) R I 実験に関係した研究における一般的な放射線計測法とその解析法の原理と、結果の解釈について理解している。</li> <li>3) 未解決課題へ取り組むために、R I 実験の必要性和適切な処理・解析法を理解している。</li> </ol>	

<b>授業科目：A7 医科学研究 R I 実験学（必修 8 単位）</b>	<b>科目コード10070</b>
担当教員：古嶋 昭博 開講年次及び時間：1年～2年 前期 金曜 1限 講義室：原則としてアイソトープ総合施設のセミナー室および実験室で行う。	
<b>【授業の内容】</b> 医科学演習を通じて設定した、R I 実験に関連する研究課題を解決するために、多様な放射線計測法の中から適切な手法を選択し、その結果、効率的かつ最適な結論が得られるように研究指導をおこなう。特に人や動物などの生体にR I を投与して薬物の動態や効果、臓器・組織の生理機能の定量や病巣の発見を容易にするR I イメージング実験手技の習得を指導する。また、臨床検査R I イメージングを目的にした研究においては、人体を模擬したR I ファントムモデルを導入してSPECTやPET断層法を取り入れることによりR I イメージによる生体機能の定量測定精度をさらに向上させるための指導を行う。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。	
<b>【評価方法】</b> 研究テーマに関連したR I 実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表とレポート等を総合的に評価する。なお論文、学会発表等をもってレポートに替えることができる。	
<b>【成績評価基準】</b> レポートの評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) R I 実験に関する研究において、古典的あるいは最新の実験手技を習得し新たな知見や成果を得ている。</li> <li>2) 放射線計測法や処理・解析手法の開発に関わる基礎研究、あるいは、その臨床応用に向けてR I 実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。</li> <li>3) 設定した研究課題に対して、R I 実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。</li> </ol>	

授業科目：A6 医科学演習 国際先端医学Ⅰ（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：滝澤 仁

開講年次及び時間：1年～2年 通年 月曜 6時限

講義室：原則として国際先端医学研究拠点施設のセミナー室で行う。

**【授業の内容】** 免疫・血液学に多大な影響を与える最新英語論文を用いて、その発見の経緯、その現象の発生機序に関する仮説の設定、免疫・血液系を構成する細胞群および造血制御に関わる種々の分子の同定などに基づく仮説の検証の経緯について演習を行う。

**【評価方法】** 演習で用いた論文の関連分野に関する総合的理解、論文に対する論理的批判の能力、ならびに口頭発表能力を総合的に評価する。

**【成績評価基準】**

評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 自ら紹介した英語論文を精読し、研究背景を十分理解している。
- 2) 相手が理解できるように英語論文を紹介できたか。
- 3) 紹介された英語論文の論点を十分理解し、重要性や問題点を把握できたか。

授業科目：A7 医科学研究 国際先端医学Ⅰ（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：滝澤 仁

開講年次及び時間：1年～2年 通年 金曜 1時限

講義室：原則として国際先端医学研究拠点施設のセミナー室で行う。

**【授業の内容】** ヒトあるいはマウス造血幹細胞生物学に関する研究課題を設定し、それを解決するために必要な、細胞生物学、生化学および分子生物学に汎用される種々の実験手技・アプローチを指導する。さらに、これらを利用した造血幹細胞の解析方法論を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

**【評価方法】** 研究課題に関連した実験手技の習得、トラブルシューティングの解決法、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表などを総合的に評価する。なお、研究室内の研究進捗報告会、学会発表、論文をもってレポートに替えることができる。

**【成績評価基準】**

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 設定した研究課題に関する基本的実験手技を習得している。
- 2) 研究課題に対して実験計画を適切に立案し、新しい研究成果を得ている。
- 3) 研究進捗報告会や学会発表などで、研究成果の発表が出来ている。
- 4) 修士論文および修士論文発表で、研究成果の発表が出来ている。

授業科目：A6 医科学演習 国際先端医学 II（必修 8 単位）

科目コード10060

担当教員：指田 吾郎

開講年次及び時間：1年～2年 前期 水曜 1限

講義室：原則として国際先端医学 II のセミナー室また実験室で行う。

【授業の内容】造血また造血器腫瘍における重要な知見、その知見に関する仮説の設定、造血幹細胞また造血器腫瘍を構成する細胞群および造血制御に関わる遺伝子や白血病がん遺伝子などに基づく仮説の検証の経緯について、最新の英語論文を用いた演習する。

【評価方法】 演習で用いた著書や論文の理解と批判の能力、ならびに口頭発表を総合的に評価する。

【成績評価基準】

評価は、下記の項目のすべてに着目して行う。

- 1) 造血幹細胞および造血器腫瘍に関する英語論文を十分理解できたか。
- 2) 紹介された英語論文を十分理解し、問題点や論点を把握できたか。

授業科目：A7 医科学研究 国際先端医学 II（必修 8 単位）

科目コード10070

担当教員：指田 吾郎

開講年次及び時間：1年～2年 通年 水曜 2限

講義室：原則として国際先端医学 II のセミナー室また実験室で行う。

【授業の内容】医科学演習を通じて設定した研究課題を解決するために必要な、マウスを用いた造血組織に関する細胞学、生化学および分子生物学的な種々の実験手技の習得を指導する。これを利用して造血器腫瘍の機能を解析する方法論を指導する。以上の研究成果を文書としてまとめるとともに、口頭で発表するための指導を行う。

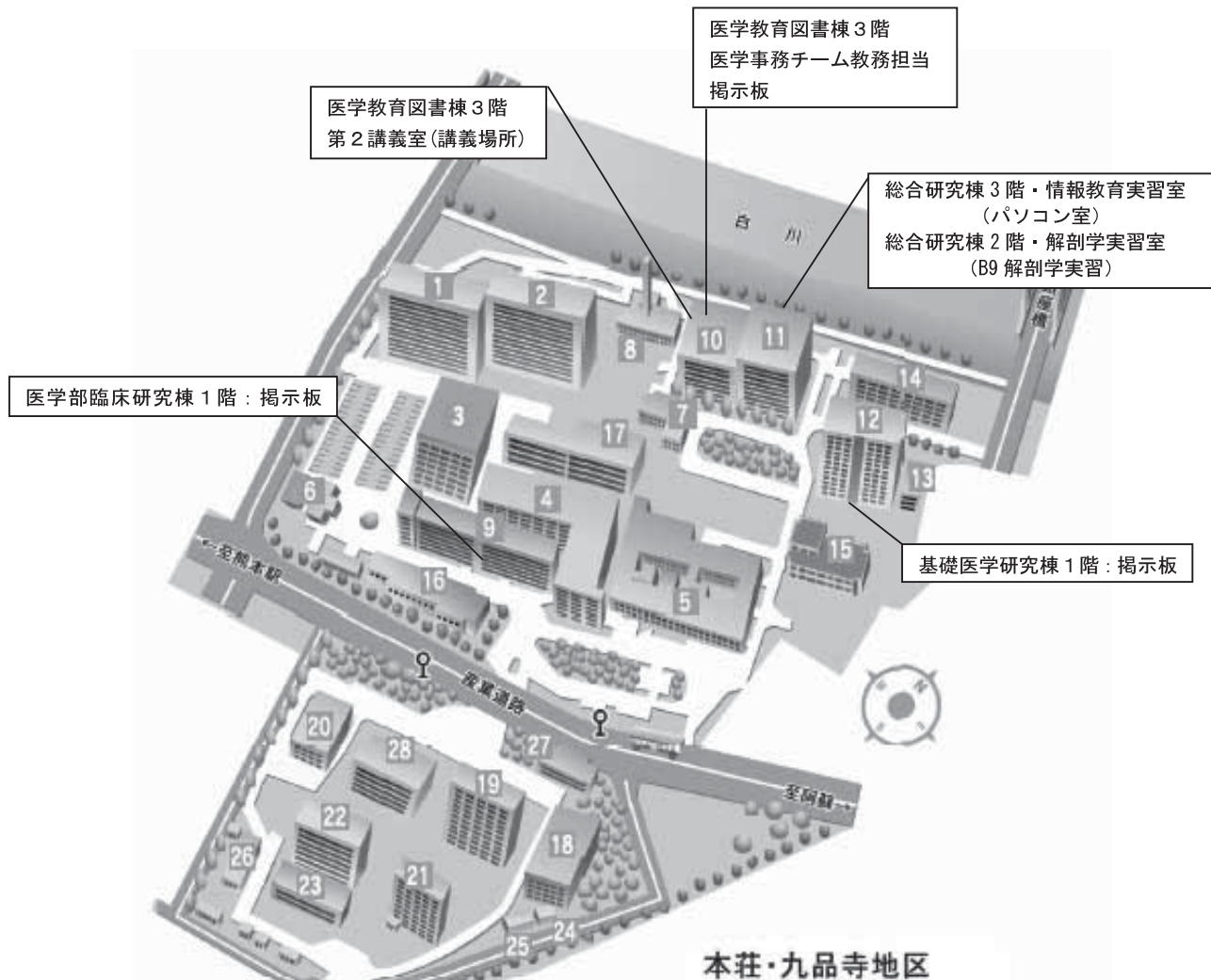
【評価方法】 研究テーマに関連した実験手技の習得、実験結果の解釈および成果に関する口頭発表などを総合的に評価する。なお論文、学会発表、あるいはラボミーティングにおけるプロGRESSレポート等をもってレポートに替えることができる。

【成績評価基準】

評価は、各自の研究課題に対応して、下記のいくつかの項目に着目して行う。

- 1) 設定した研究課題に対して、実験手技を習得し適切な実験計画を立案して実行している。
- 2) 実験手技を習得し、新しい研究成果を得ている。
- 3) プロGRESSレポート、学会発表などで、研究成果の発表が出来ている。
- 4) 修士論文および修士論文発表で、研究成果の発表が出来ている。

## 7. 学内地図（講義室、掲示板的位罫）



- |                   |  |
|-------------------|--|
| 1. 西病棟            | 15. 第一立体駐車場                                  |
| 2. 東病棟            | 16. 第二立体駐車場                                  |
| 3. 中央診療棟          | 17. 外来診療棟                                    |
| 4. 外来臨床研究棟        | 18. 生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設本館                |
| 5. 管理棟            | 19. エイズ学研究センター、<br>生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設新館 |
| 6. 山崎記念館【登録有形文化財】 | 20. 医学部講義棟                                   |
| 7. 旧救急棟           | 21. 発生医学研究所                                  |
| 8. 設備管理棟          | 22. 生命資源研究・支援センターRI 総合施設、遺伝子実験施設             |
| 9. 医学臨床研究棟        | 23. 共用棟本荘 1                                  |
| 10. 医学教育図書棟       | 24. 本荘中サークル棟 1                               |
| 11. 医学総合研究棟       | 25. 本荘中サークル棟 2                               |
| 12. 基礎医学研究棟       | 26. 本荘中サークル棟 3                               |
| 13. 臨床医学教育研究センター  | 27. 肥後医育記念館                                  |
| 14. 看護師宿舎         | 28. 国際先端医学研究拠点施設 (IRCMS)                     |